

金沢工業大学 御中

平成22年度 授業調査 報告書

2011.09.30

有限会社 アイ・ポイント

INDEX

<1>本調査の全体像	2
<2>基本的な分析	7
<3>学年別の分析	15
<4>学部・学科別の分析	21
<5>科目区分別の分析	39
<6>同一学生群の分析	46
<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	52
<8>全体のまとめ	56

<1>本調査の全体像

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから、現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が6年目となるため、6年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。(調査の集計自体は平成15年から実施している。)

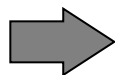
2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容					
有効回答数	1年次生	40,132件				
	2年次生	32,396件				
	3年次生	24,075件				
	4年次生	113件				
	合計有効回答数	96,716件	※クラス未記入の回答(2件)、科目名などの基本項目が全て未記入の回答(1,201件)は集計から除いた。			
年別回答数推移	回答数の推移は下記の通り。今回から前後期制となっている。					
	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票
	平成15年度	30,514	28,157	25,464	84,135	旧調査票
	平成16年度	31,463	31,855	29,601	92,919	(比較不可)
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055	
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917	
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494	
	年度	前期	後期	全回答数	調査票	
	平成21年度	42,446	43,962	86,408	新調査票	
	平成22年度	48,541	48,175	96,716		
対象科目	592科目					
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施期間:各学期の各授業科目の最終日に実施した。 ● 実施方法:記名式で科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。 ● 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。 					
調査主体	学校法人 金沢工業大学					
集計	有限会社 アイ・ポイント					

3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。

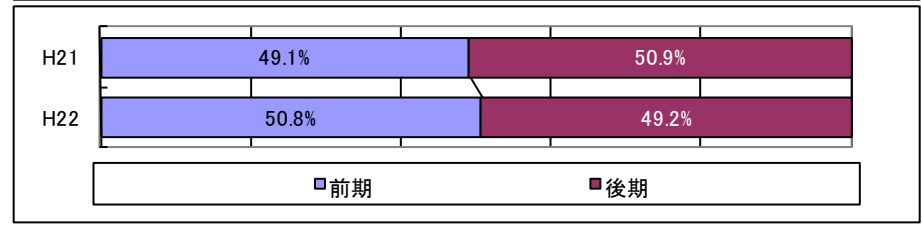
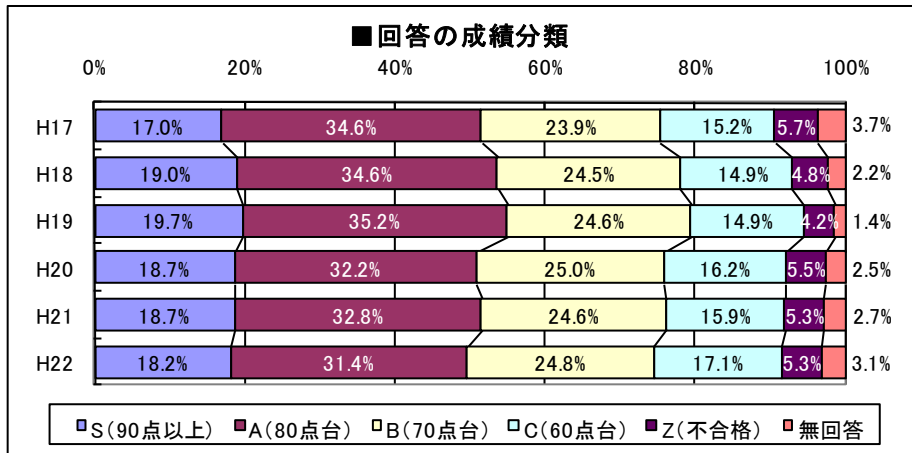
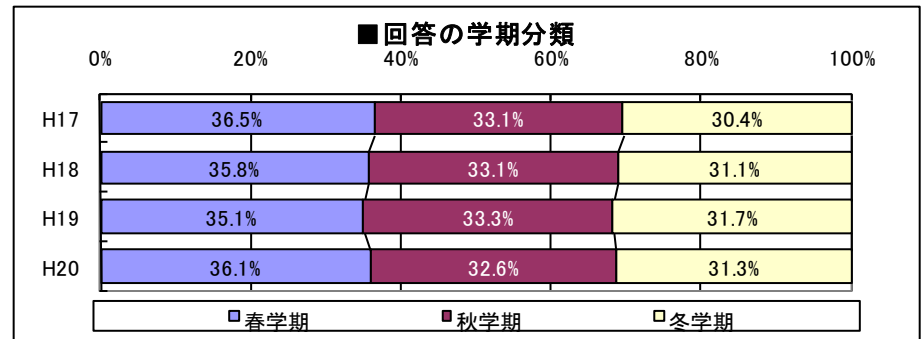
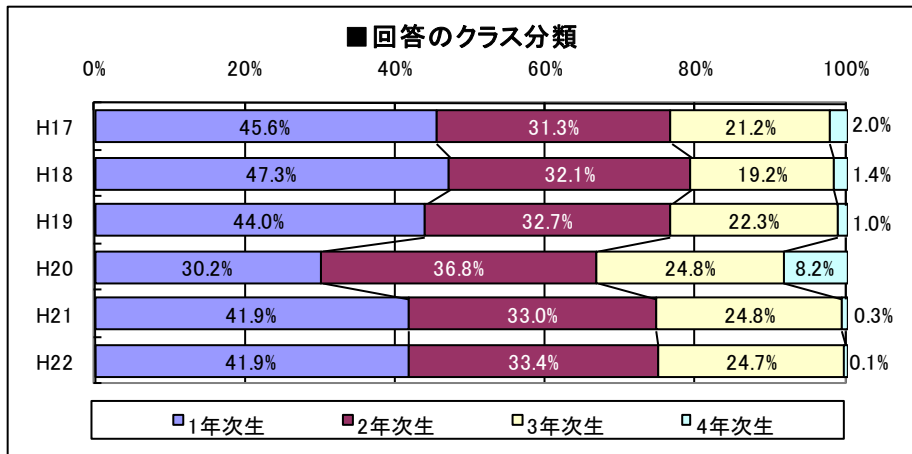


	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることはできましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

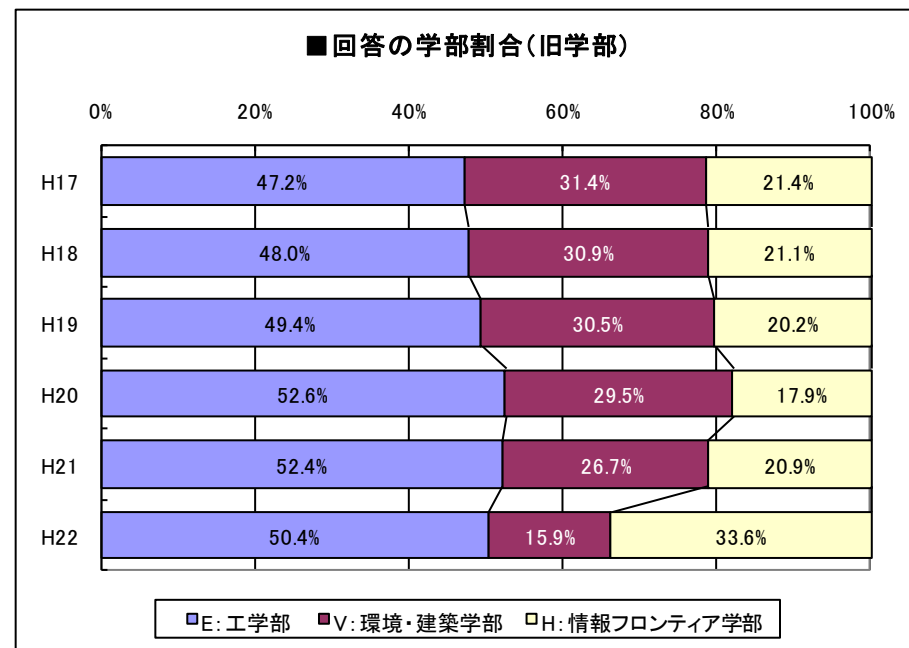
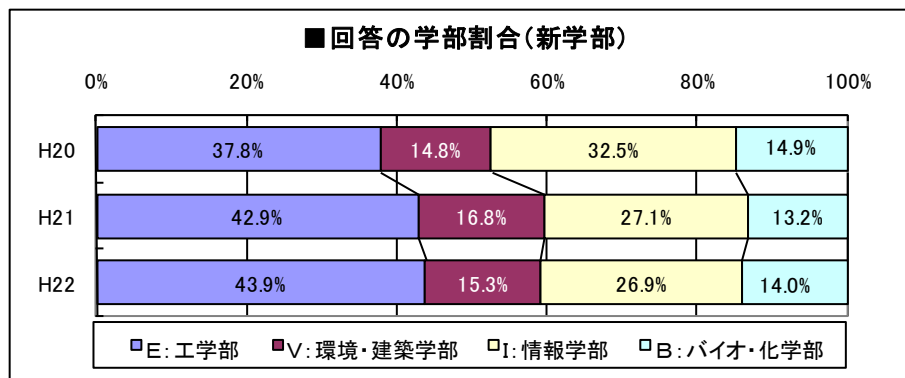
下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」「K」の設問は平成15年度より同じ内容となっているため、全ての期間に渡って比較ができるが、他の設問はH17年の変更後のみの期間で比較を行っている。

- 今回の回答者の基本属性は下記の通りであった。
- クラス分類では「1年次生」が41.9%、「2年次生」が33.4%、「3年次生」が24.7%、「4年次生」は0.1%であり、H20を除くと大きな変動はなかった。
- 前回(H21)の調査より学期が前期と後期の2期制となっており、回答数は前期が50.8%、後期が49.2%であり、前回と同様にほぼ半々となっていた。
- 成績別の割合は「S」が18.2%、「A」が31.4%、「B」が24.8%、「C」が17.1%、「Z」が5.3%であり、これまでの調査とそれほど大きな差は見られなかった。

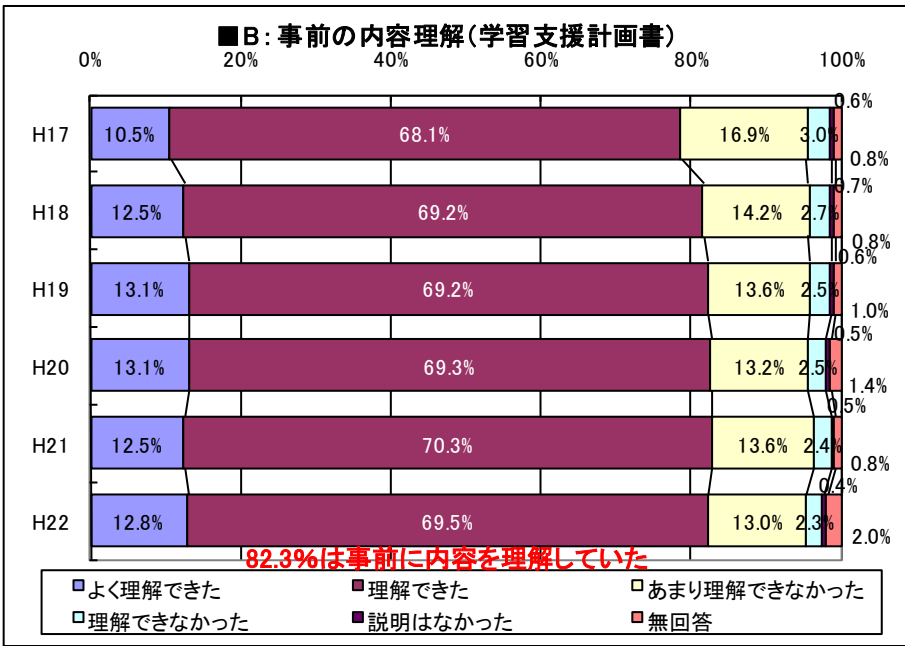
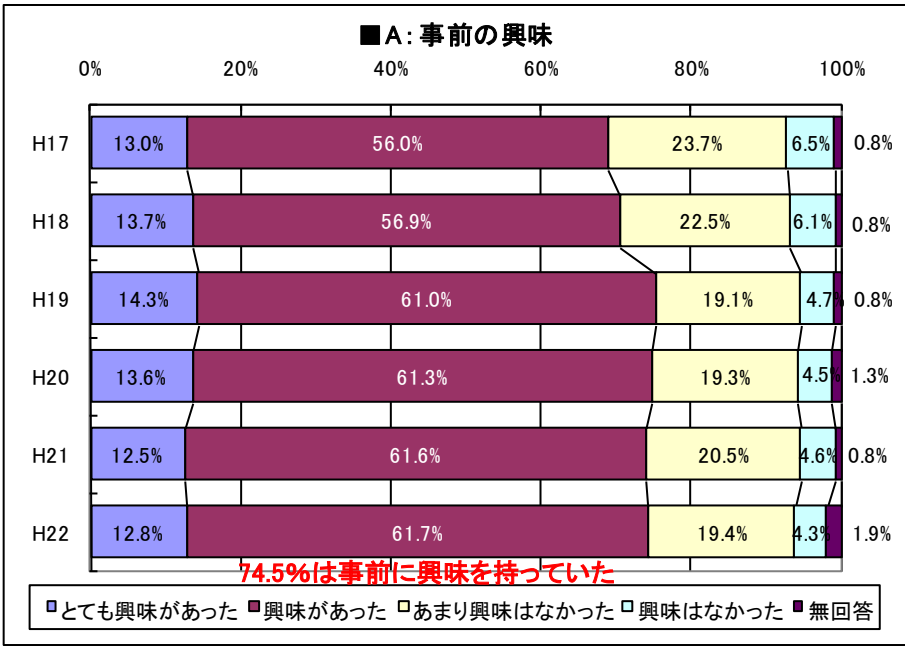


- 今回の調査では「1年次生」～「3年次生」が新学部体制、「4年次生」が旧学部体制となっているため、学部毎の割合は新旧の2つの体制で確認した。
- 4学部の新学部体制では「E:工学部」が前回よりも増加して43.9%と最も多く、次いで「I:情報学部」が26.9%、「V:環境・建築学部」が15.3%、「B:バイオ・化学部」が14.0%という割合であり、H20とほぼ同じ割合となっていた。
- 3学部の旧学部体制では「E:工学部」が50.4%と最も多く、「V:環境・建築学部」が前回よりも大幅に減少して15.9%、「H:情報フロンティア学部」が33.6%という割合であった。

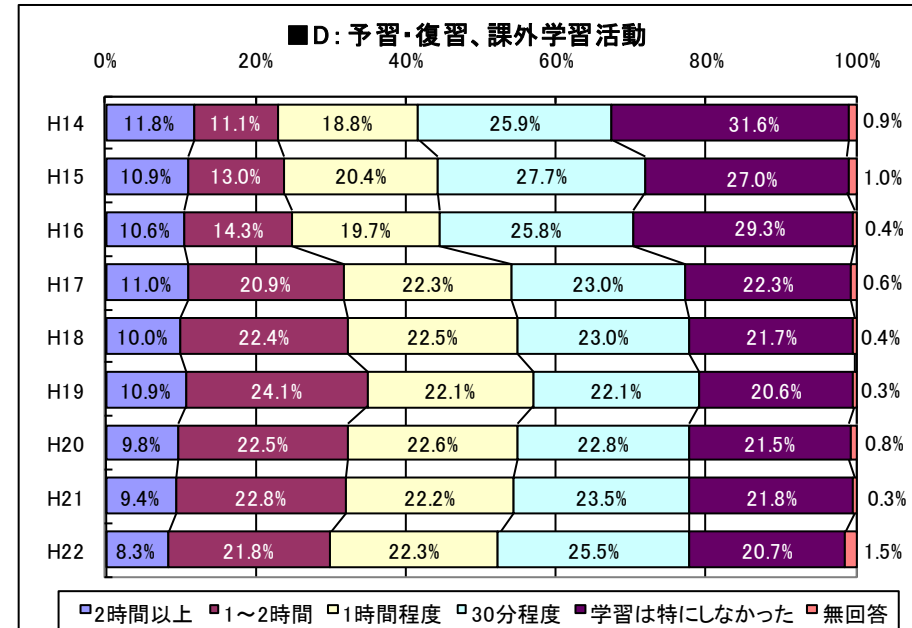
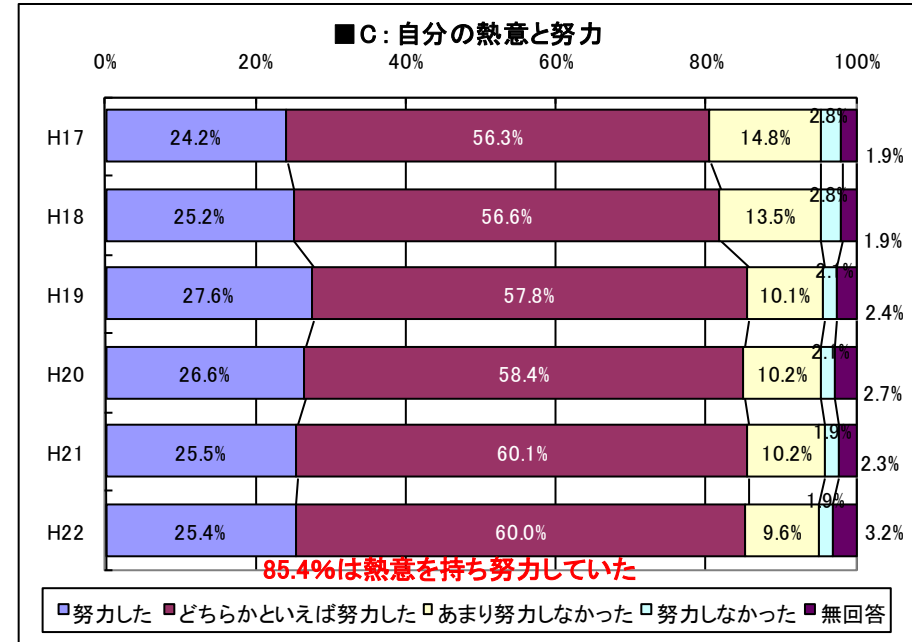


<2> 基本的な分析

- 「A:事前の興味」に関しては、「とても興味があった」が12.8%、「興味があった」が61.7%であり、合わせると74.5%の学生が事前に授業に興味を持って受講していたということであった。
- 以前と比較すると、H19より横這い状態が続いており、大きな変化は見られなかった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」に関しては、「よく理解できた」が12.8%、「理解できた」が69.5%であり、合わせると82.3%は内容を理解した上で授業を受けていることが分かった。
- 事前に理解していた学生の割合を以前と比較すると、あまり大きな変化はないもののH17よりわずかずつ増加する傾向が続いていたが、今回は前回より0.5ポイント低下していた。

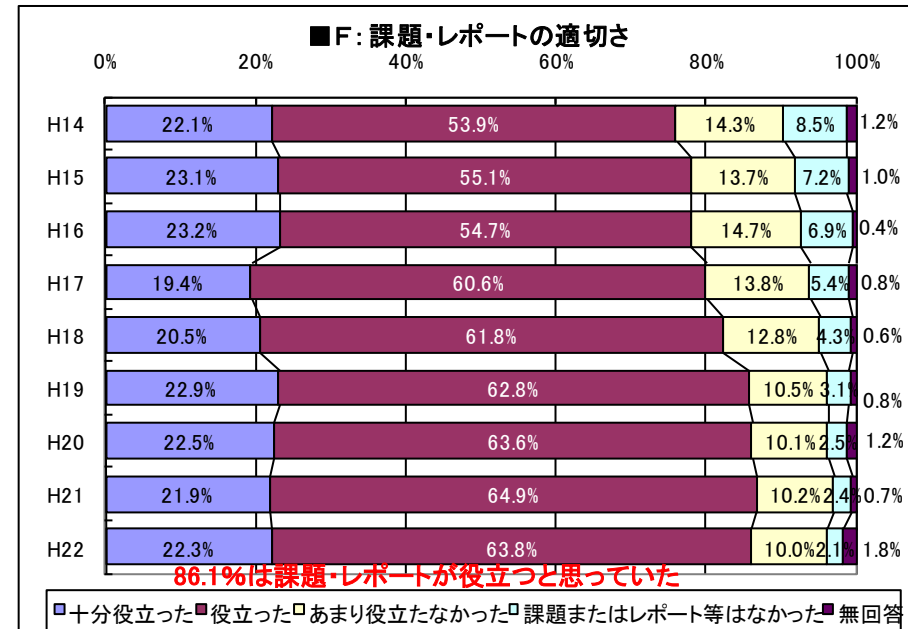
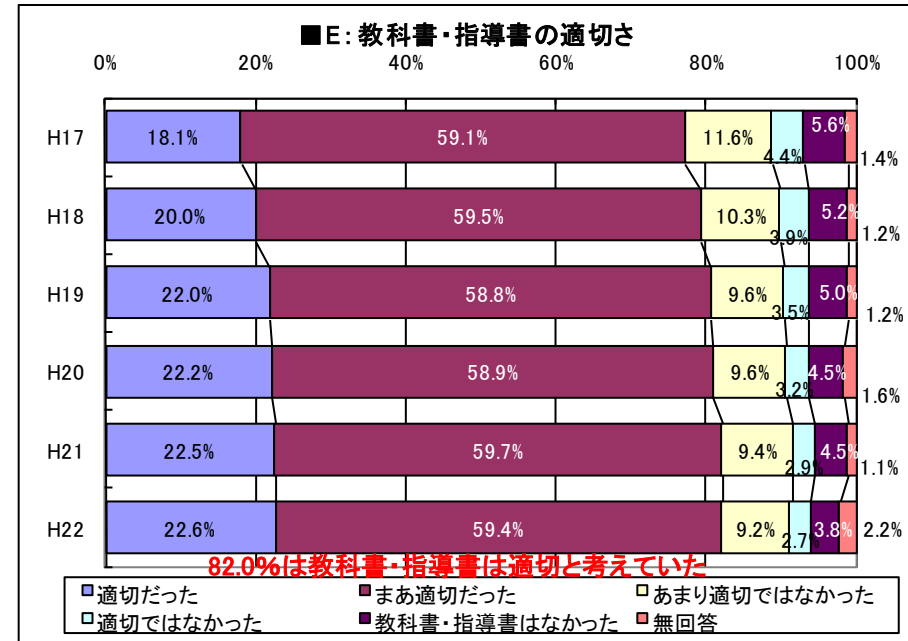


- 「C:自分の熱意と努力」については「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか？」という質問をしたが、「努力した」は25.4%、「どちらかといえば努力した」は60.0%であり、合わせると85.4%が熱意を持って努力したと答えていた。
- 以前と比較すると、それほど大きな変化ではないが、「努力した」だけの割合はH19よりわずかずつ少なくなってきたが、「努力した」と「どちらかといえば努力した」の合計は、H19からほとんど変わっていなかった。
- 「D:予習・復習、課外学習活動」については「1回の授業に対する予習・復習、課外学習時間はどの程度行いましたか？」という質問であるが、「30分程度」が最も多く25.5%であり、「2時間以上」が8.3%、「1～2時間」が21.8%、「1時間程度」が22.3%であった。
- 「学習は特にしなかった」は20.7%であり、8割の学生は何らかの学習をしていることが分かった。
- 以前と比較すると、「2時間以上」「1～2時間」が徐々に減少する傾向にあり、勉強時間は短くなっていると言える。

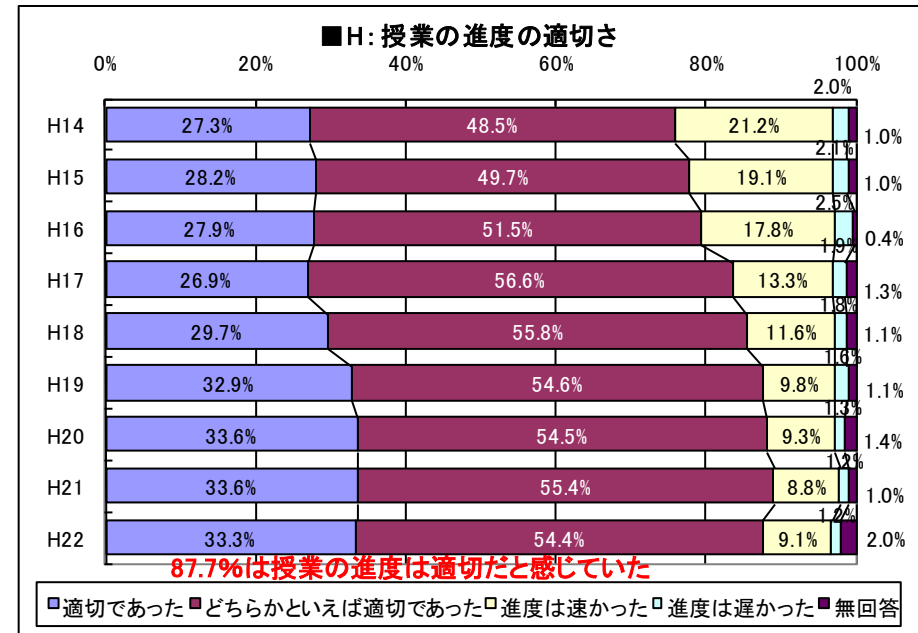
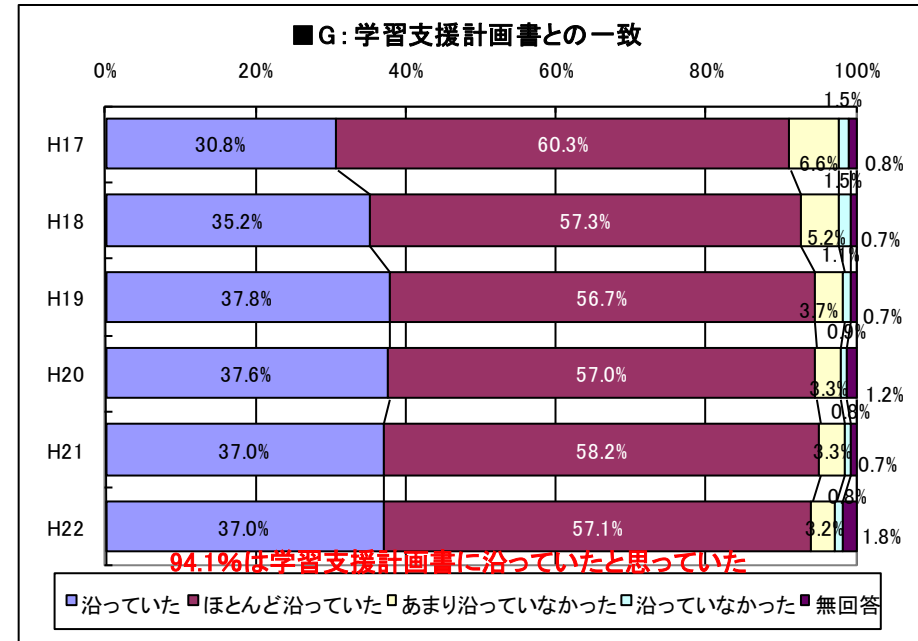


※H16までの設問:「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」

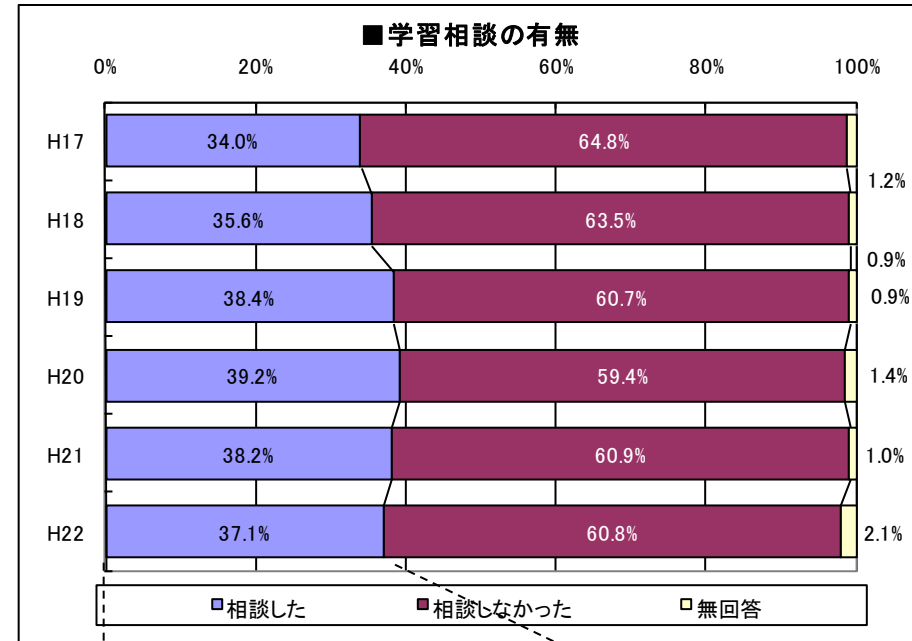
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」が22.6%、「まあ適切だった」が59.4%であり、合わせると82.0%は教科書・指導書が適切だったと感じていた。一方、適切ではなかったと感じていたのは11.9%であった。
- 「適切だった」と「まあ適切だった」の合計はH17より継続的に増加しており改善が進んでいたようであったが、今回は前回の評価とほぼ同じで横這いとなっていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか」という質問であるが、「十分役立った」が22.3%、「役に立った」が63.8%であり、「あまり役立たなかった」は10.0%であった。
- 「十分役立った」と「役に立った」の合計は継続的に増加する傾向が続いていたが、今回は前回の評価をわずかに下回っていた。



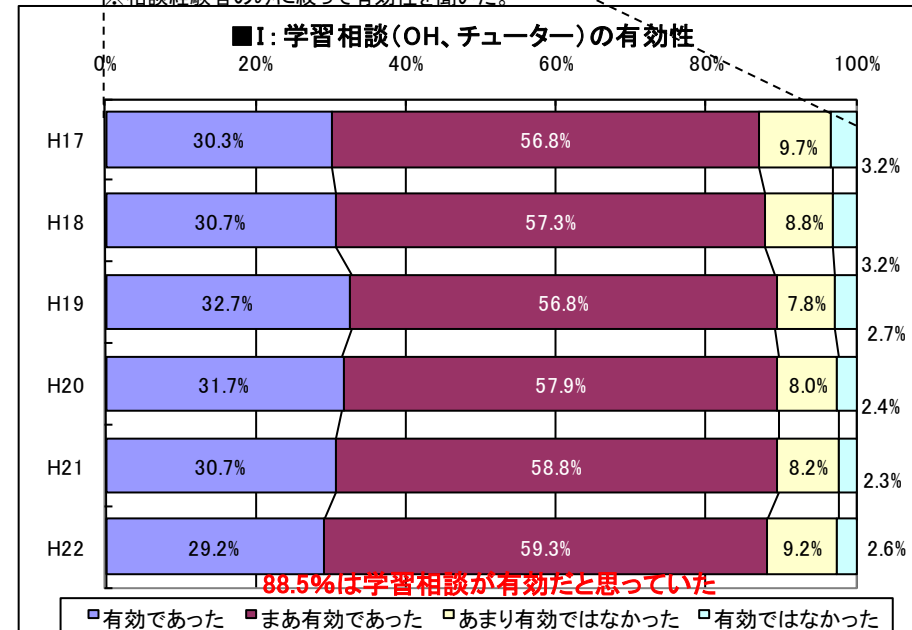
- 「G:学習支援計画書との一致」については「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」が37.0%で前回と同じで、「ほとんど沿っていた」が57.1%であり、合わせると94.1%は問題ないと考えているようであった。
- 「沿っていた」と「ほとんど沿っていた」の合計を見ると、わずかずつではあるがH17から継続的に増加していたが、今回は前回の評価をわずかに下回る結果となっていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」については「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」が33.3%、「どちらかといえば適切であった」が54.4%であり、合わせると87.7%が授業の進度に問題を感じていないようである。
- 授業の進度が適切と感じている学生の割合はH14から継続的に増加していたが、今回は前回の評価を1.3ポイント下回っていた。



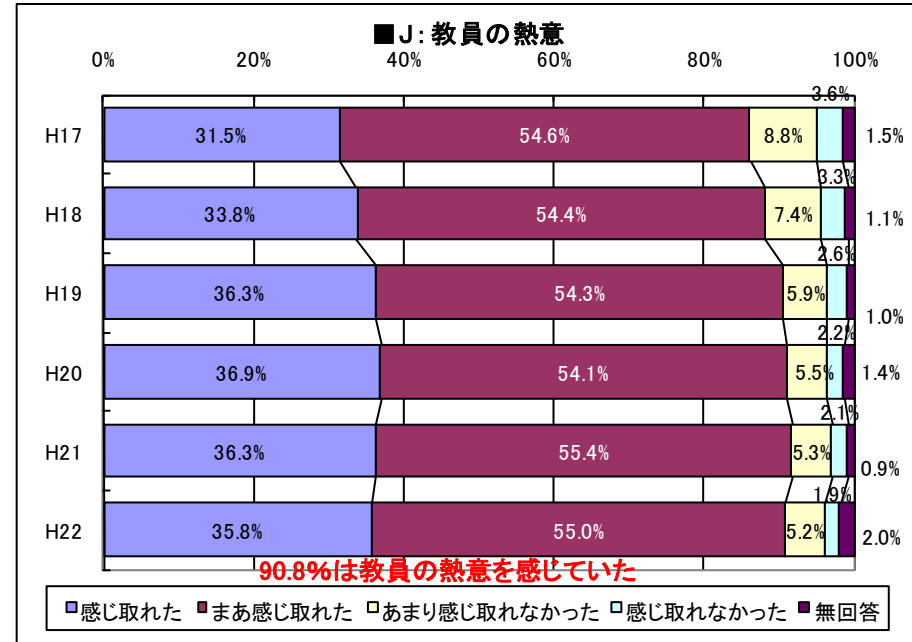
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」については「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という質問であるが、まず、「相談の有無」を確認すると、「相談した」が37.1%、「相談しなかった」が60.8%であり、学習相談をしない学生が6割いることが分かった。
- 「相談した」の割合はH17からH20までは増加する傾向にあったが、今回は前回より1.1ポイント下回っていた。
- 相談の経験がある学生だけに絞って「相談の有効性」を見たところ、「有効であった」が29.2%、「まあ有効であった」が59.3%であり、合わせると88.5%は学習相談の有効性を感じていた。
- 「有効であった」と「まあ有効であった」の合計はH19からH21までは横這い状態にあったが、今回は前回は1.0ポイントとわずかではあるが下回っていた。



※相談経験者のみに絞って有効性を聞いた。

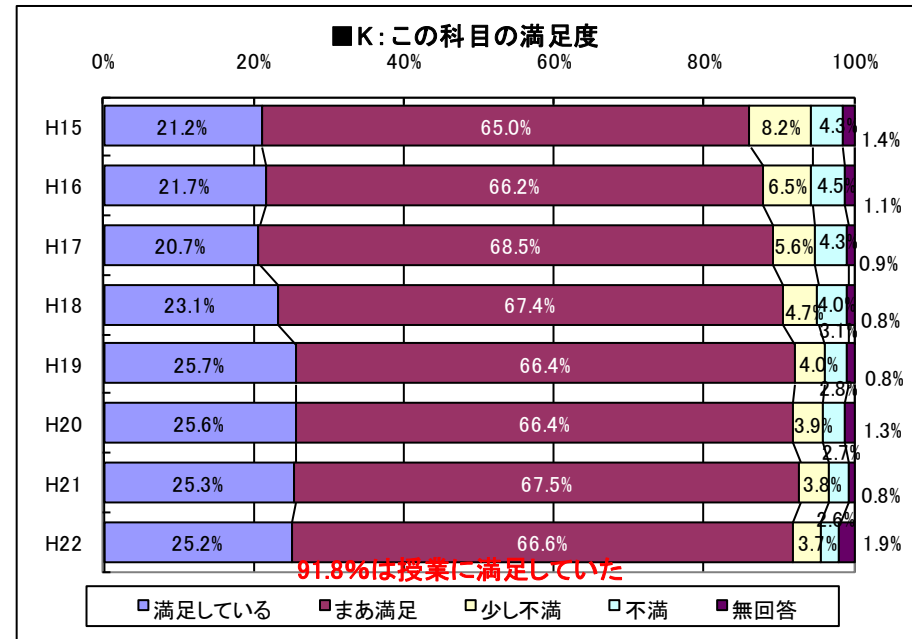


- 「J:教員の熱意」については「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」が35.8%、「まあ感じ取れた」が55.0%であり、合わせると90.8%の学生が教員の熱意を感じているようであった。
- 教員の熱意を感じているという学生はH17から継続的に増加していたが、今回は前回をわずかに下回っていた。
- 「K:この科目の満足度」では「満足している」が25.2%、「まあ満足」が66.6%であり、合わせると91.8%は各授業に満足していると答えており、高い満足度であった。
- 「満足している」と「まあ満足」の合計はH15から前回までは継続的に増加しており、わずかずつであるが満足度が上がってきていたが、今回は前回よりも1.0ポイント低下していた。



■ 満足している層の経年変化

年度	満足の割合	前年度との差
H15	86.2%	—
H16	87.9%	+1.7
H17	89.1%	+1.3
H18	90.5%	+1.4
H19	92.1%	+1.5
H20	92.0%	-0.1
H21	92.8%	+0.8
H22	91.8%	-1.0

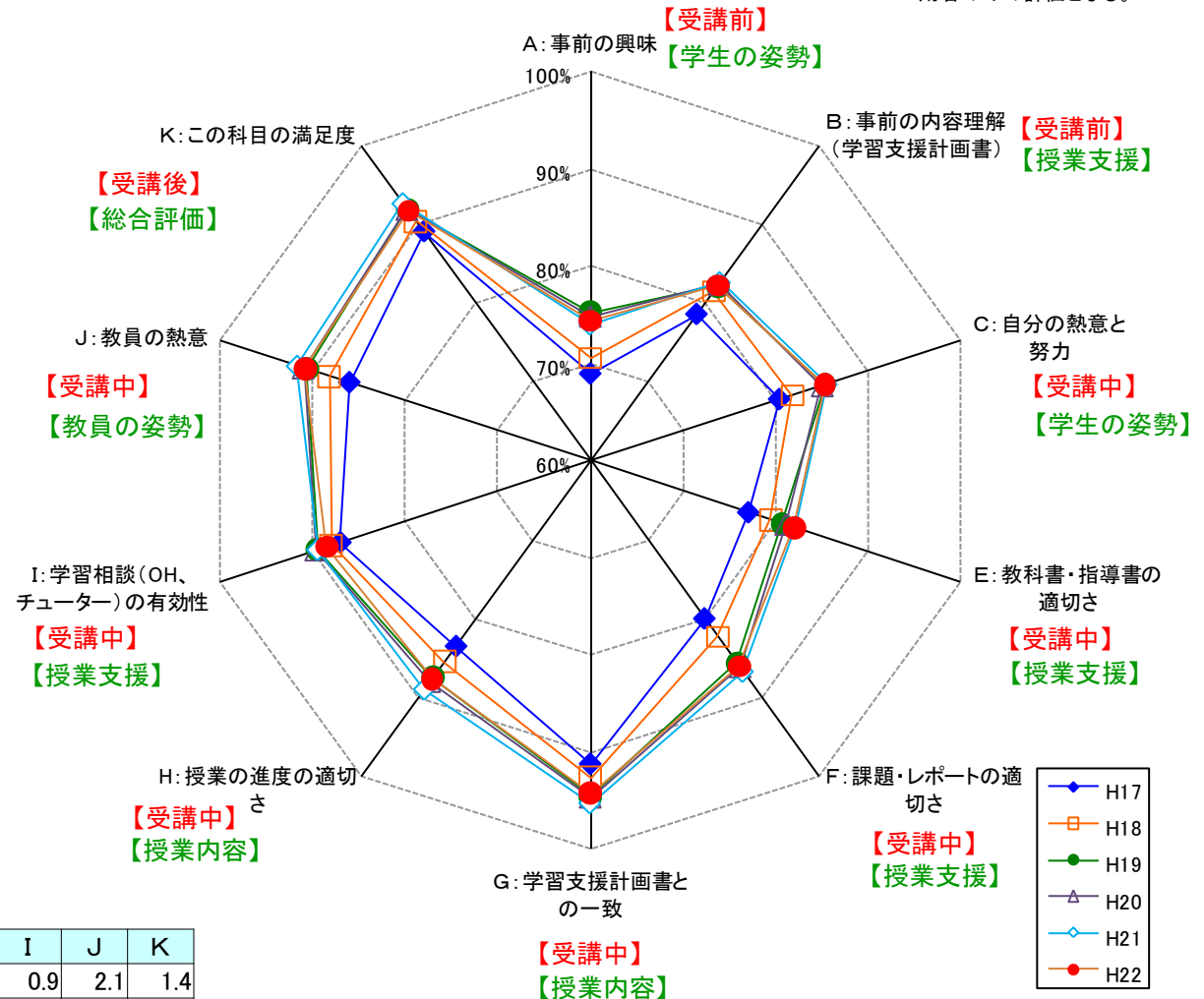


<2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

- 全体的な傾向を確認するため、肯定的な意見の割合をレーダーチャートにまとめた。肯定的な意見として集計できない「D: 予習・復習、課外活動」は加えておらず、「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の意見のみを集計している。
- 同じ評価軸で比べるのは難しいが、全体の傾向を見ると、「G: 学習支援計画書との一致」で肯定的な意見がやや多く、「A: 事前の興味」「B: 事前の内容理解」「E: 教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見がやや少なかった。
- 以前と比較すると、H22は全体的に肯定的な意見が減少しており、「H: 授業の進度の適切さ」がマイナス1.4ポイント、「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」がマイナス1.1ポイント、「G: 学習支援計画書との一致」と「K: この科目の満足度」がマイナス1.0ポイントとなっていた。
- 一方、前回より評価が上がったのは「A: 事前の興味」のプラス0.3ポイントだけであった。

■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

※「I: 学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみの評価となる。

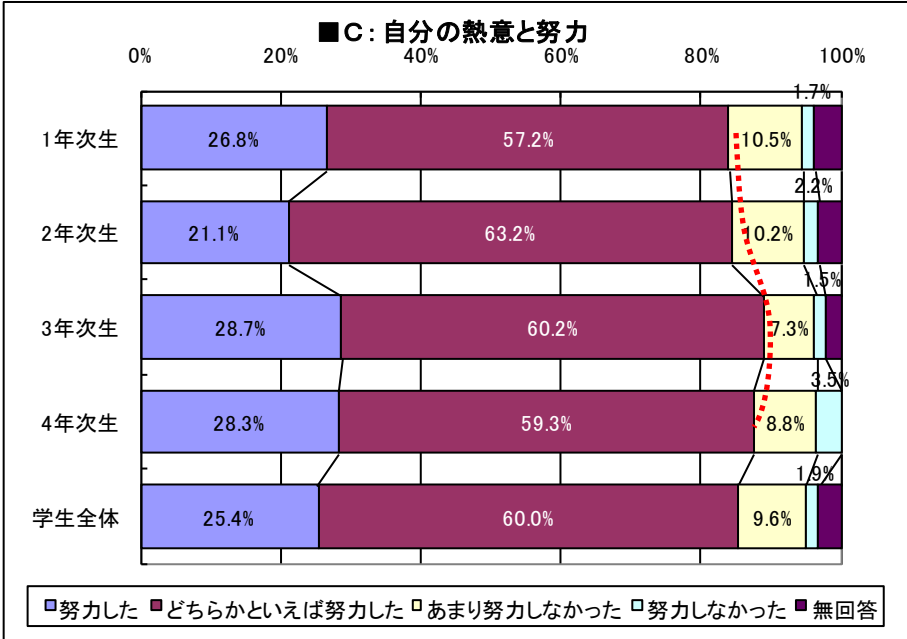
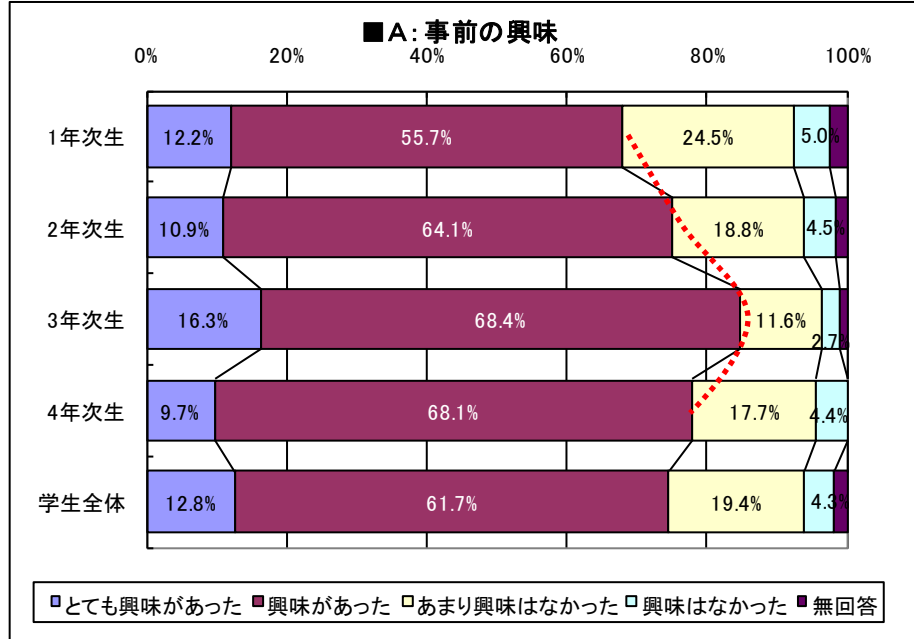
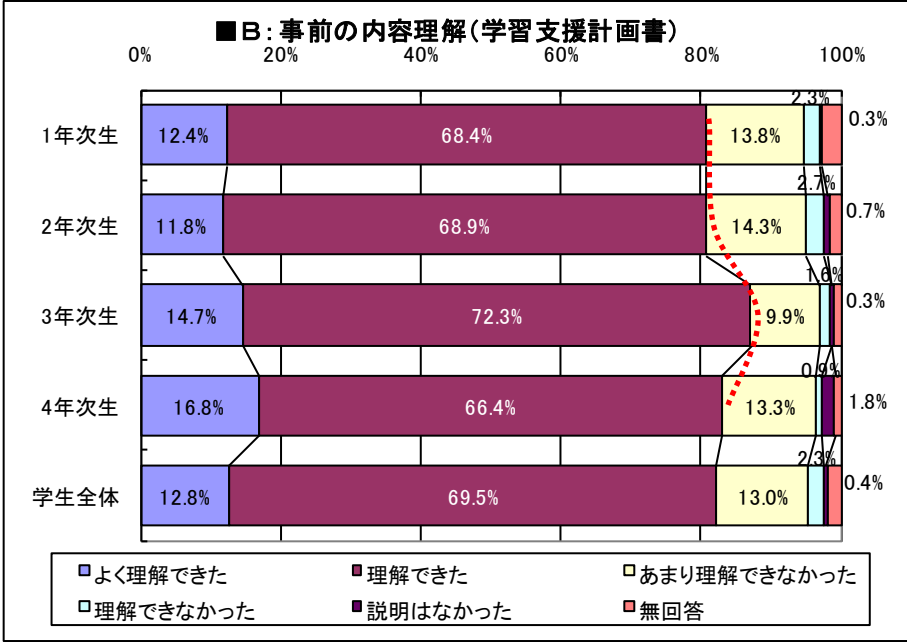


■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

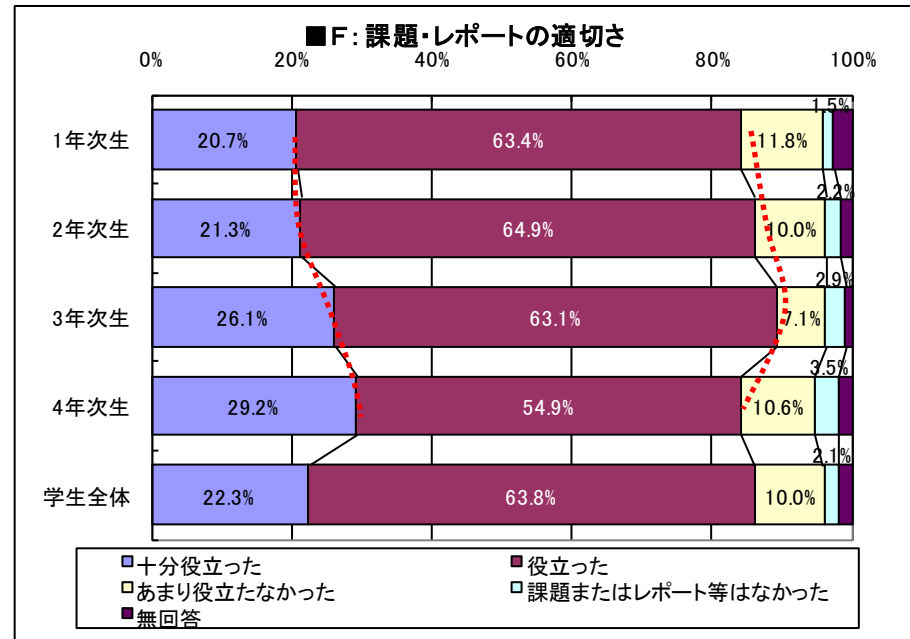
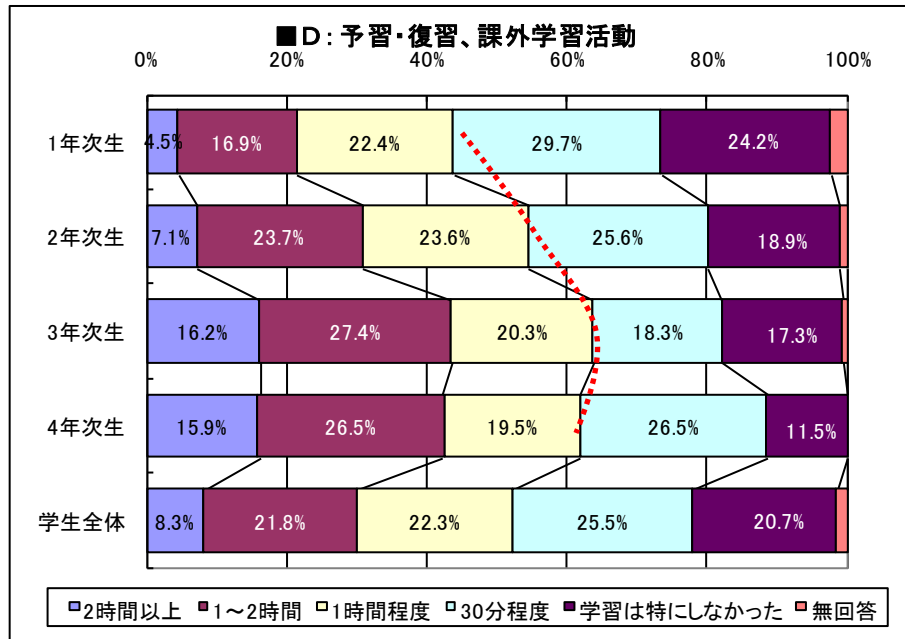
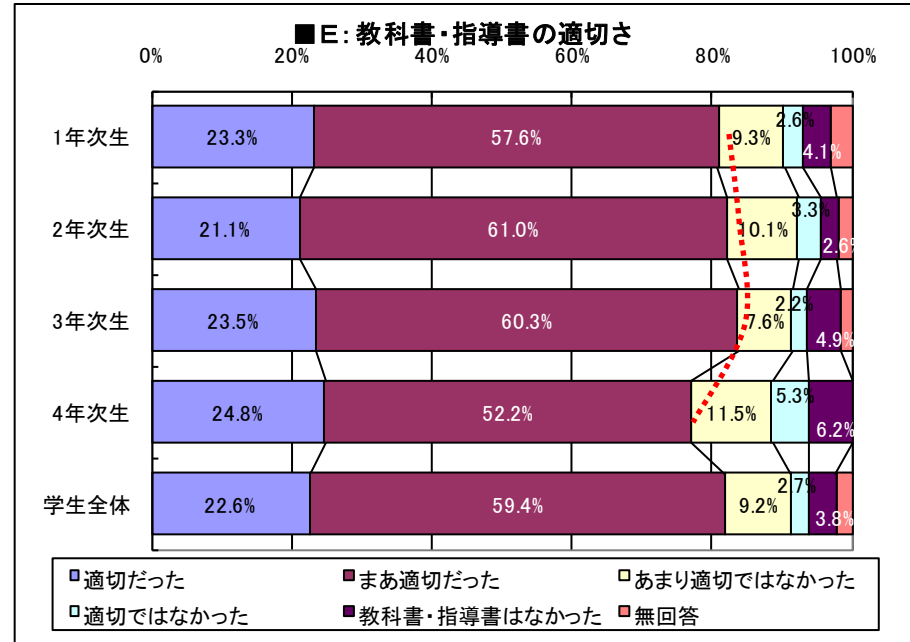
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20の上昇	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21の上昇	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8
H21からH22の上昇	0.3	-0.4	-0.3	-0.1	-0.7	-1.0	-1.4	-1.1	-0.8	-1.0

<3> 学年別の分析

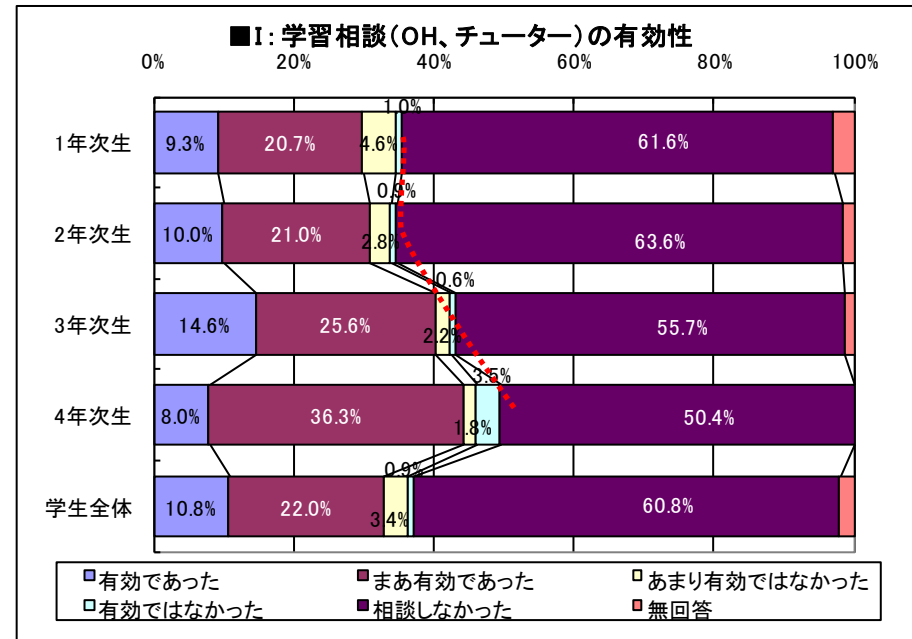
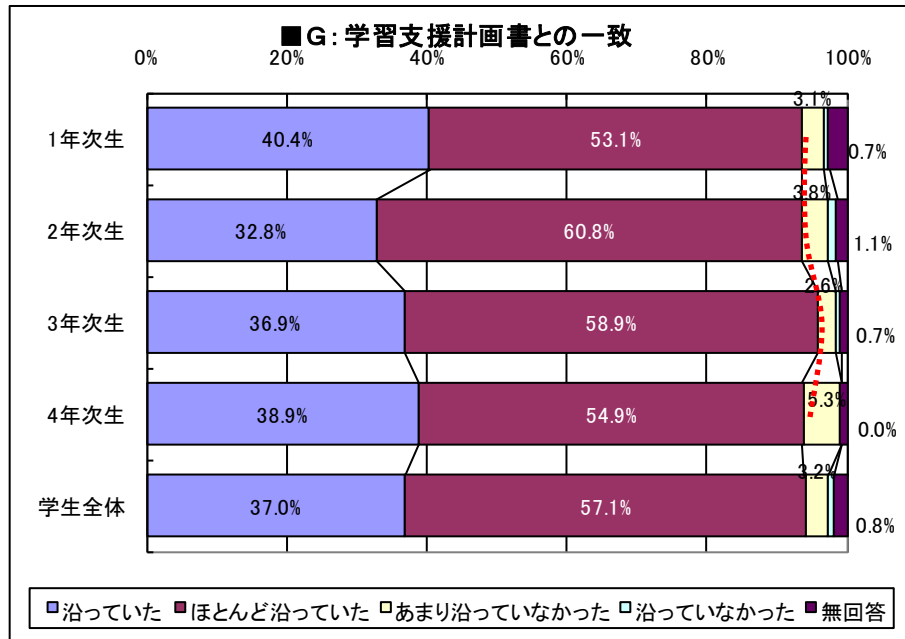
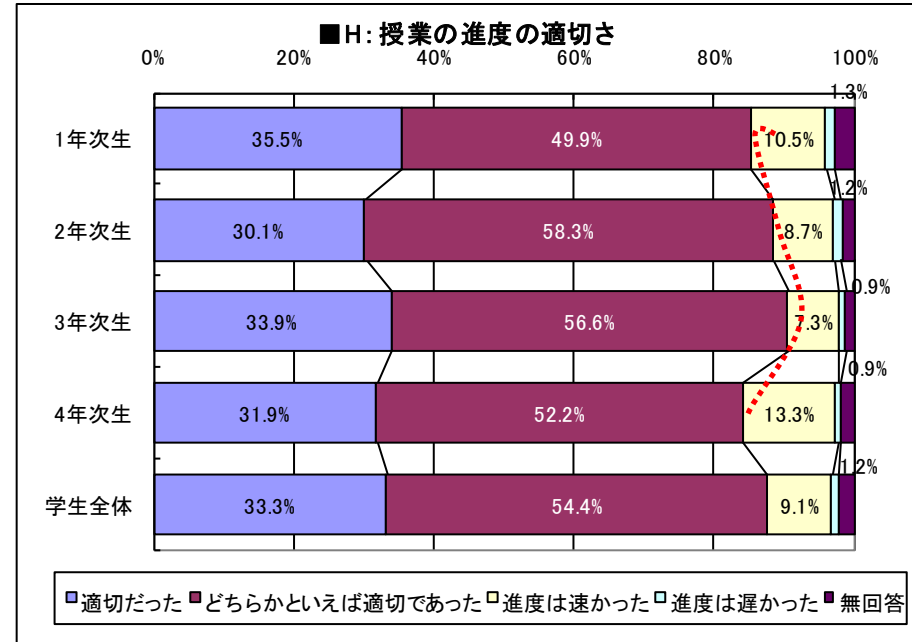
- 学年別に比較をしたところ、「A:事前の興味」では「3年次生」の84.7%が事前に興味を持っていたと答えており、「1年次生」の67.9%と比べると大きな差となっていた。新鮮な状態であるはずの「1年次生」の低さの要因を探ることが今後の課題になると思われる。
- 「B:事前の内容理解」は学年による差があまり大きくなかったが、「3年次生」で理解ができたという意見がやや多く見られた。また、「よく理解できた」だけを見ると、「4年次生」がやや多かった。
- 「C:自分の熱意と努力」も学年による差はそれほど大きくなかったが、「努力した」だけを見ると「2年次生」の低さが目立っており、「2年次生」がやや消極的になっているものと思われる。



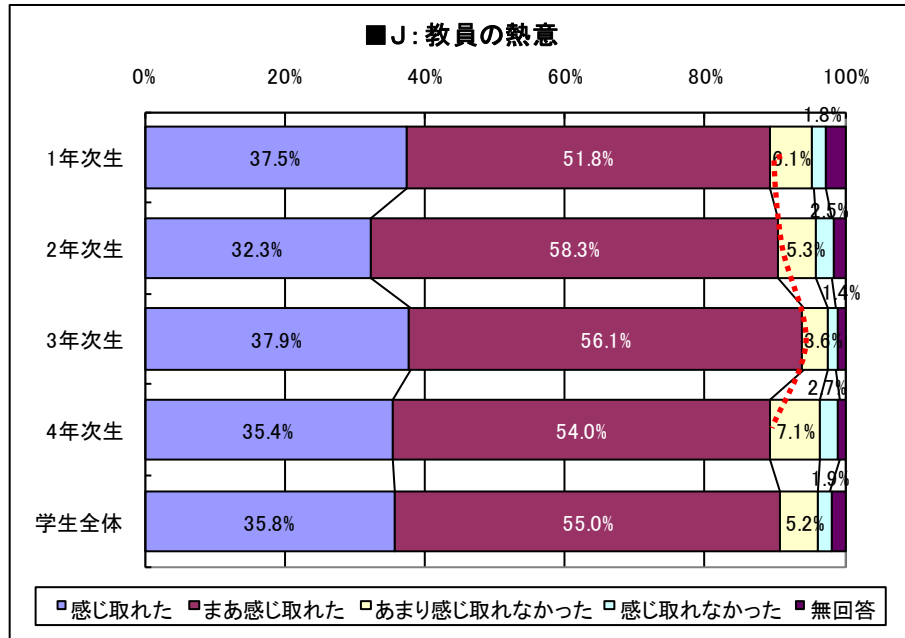
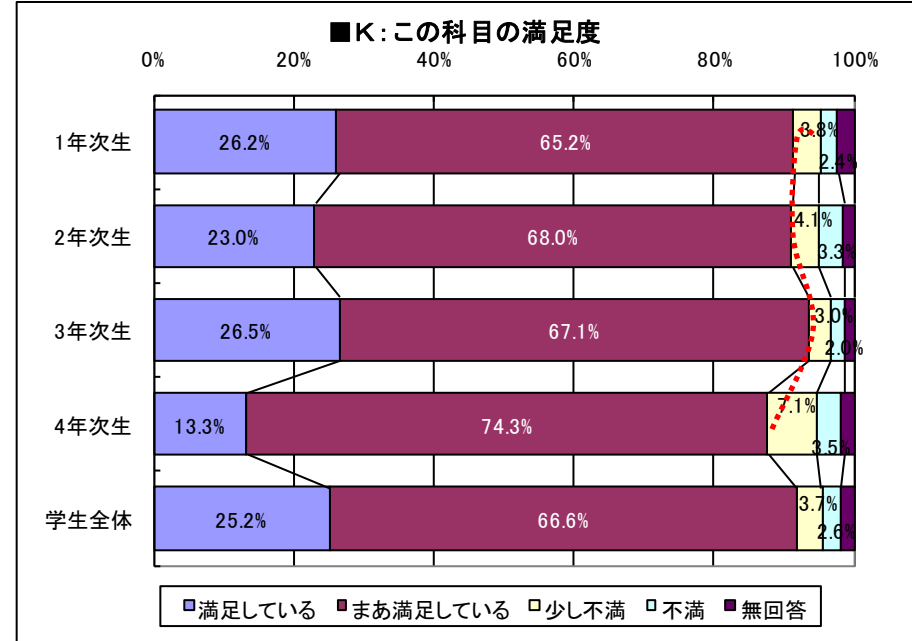
- 「D:予習・復習、課外学習活動」について「1時間程度」までの累積で比較したところ、「3年次生」が最も勉強をしている様子が見られた。また、「4年次生」もほぼ同じ程度の割合であったが、「1年次生」では「学習は特にしなかった」が24.2%であるなど、勉強時間が少ないことが分かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は学年による差がそれほど大きくなく、「1年次生」から「3年次生」まではほぼ同じ結果となっていた。そして、「4年次生」は否定的な意見がやや多く見られた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」で「十分役立った」だけを比較すると、高学年ほど肯定的な意見が多くなる傾向が見られた。しかし、「役立った」までを合計したもので比較すると「3年次生」が最も多く、「4年次生」の低さが目立っていた。



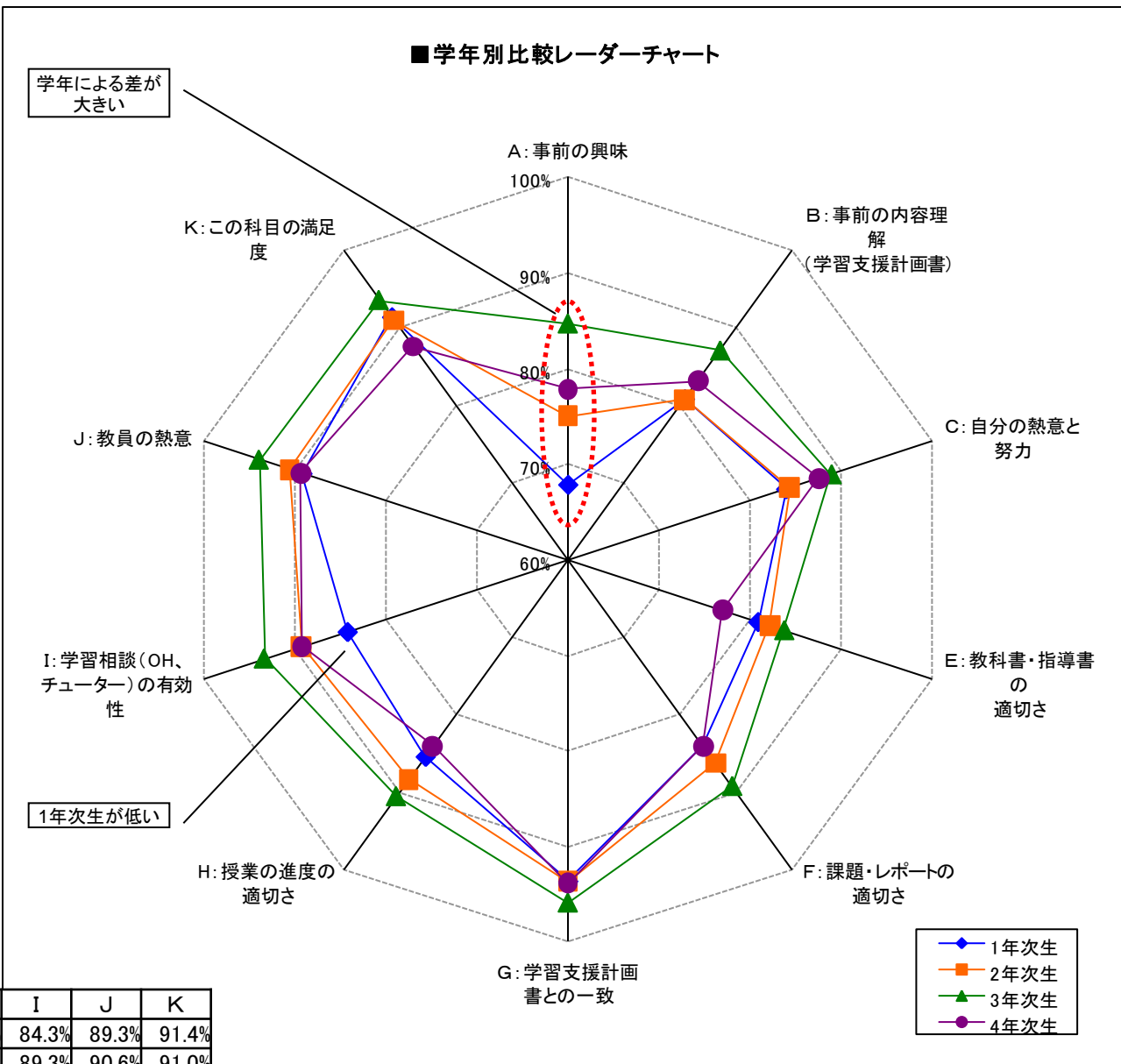
- 「G:学習支援計画書との一致」は学年による差がほとんどなく、いずれの学年も9割以上が肯定的な意見であったが、「沿っていた」だけを見ると「1年次生」の評価がやや高く、「2年次生」が低いという傾向が見られた。
- 「H:授業の進度の適切さ」では「3年次生」の評価が最も高く、「4年次生」の評価の低さが目立っていた。その「4年次生」では、「進度は速かった」という意見が13.3%と最も多かった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」割合を比較すると、「1年次生」と「2年次生」の差はほとんどないが、「3年次生」「4年次生」では学年が上がるほど相談しなかった学生が減っており、評価を見ると「3年次生」で「有効であった」が多く、「4年次生」で「まあ有効であった」が多いという結果となっており、高学年ほど評価が高いということでもなかった。



- 「J:教員の熱意」についても全学年で高い評価であったが、中でも「3年次生」はやや高く、肯定的な意見は94.0%であった。そして、「感じ取れた」だけを見ると「2年次生」がやや少なかった。
- 「K:この科目の満足度」では「4年次生」の満足度が低めであり、満足しているという意見は87.6%であった。そして、他の学年の差はあまりなく、約9割が満足しているという回答であった。



- 学年別に比較するため、肯定的な意見の割合をレーダーチャートにプロットした。
- 全体的に見ると「3年次生」が全ての項目で最も肯定的な意見が多く、良い状態にあることが分かった。
- 一方、「1年次生」と「4年次生」はやや低めであった。
- 「1年次生」は「A:事前の興味」「I:学習相談」の低さが目立っており、「4年次生」は「E:教科書・指導書の適切さ」「H:授業の進度の適切さ」「K:この科目の満足度」の低さが目立っていた。
- 「3年次生」は目立って低いものはなかったが、「B:事前の内容理解」がやや低めであった。
- 項目別には「A:事前の興味」の学年による差の大きさが目立っており、意識の違いが感じられた。

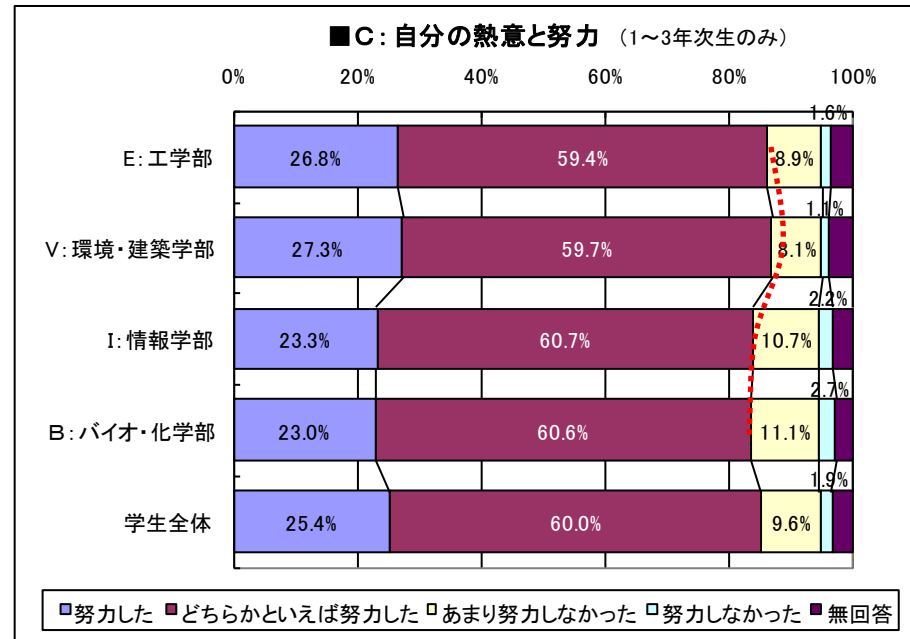
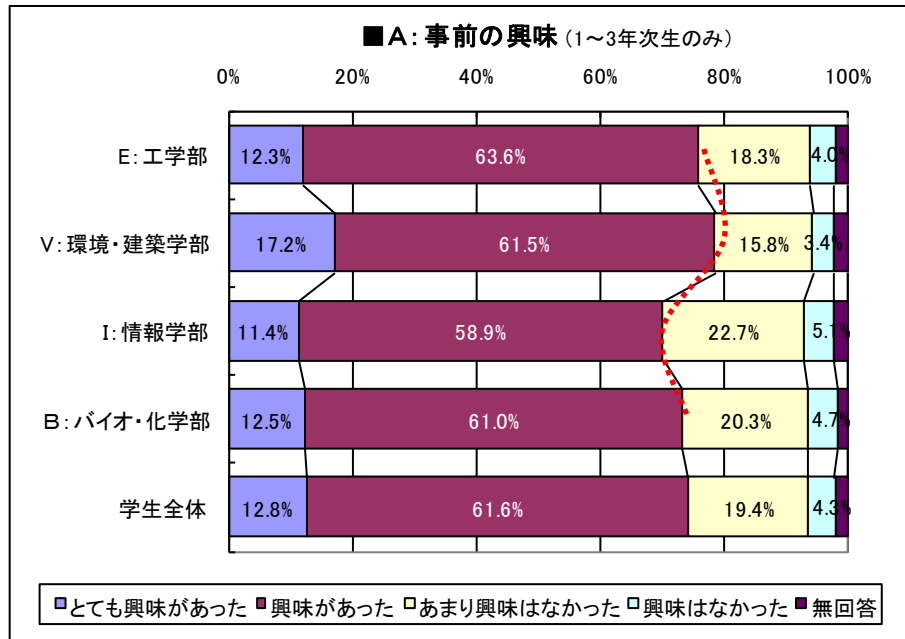
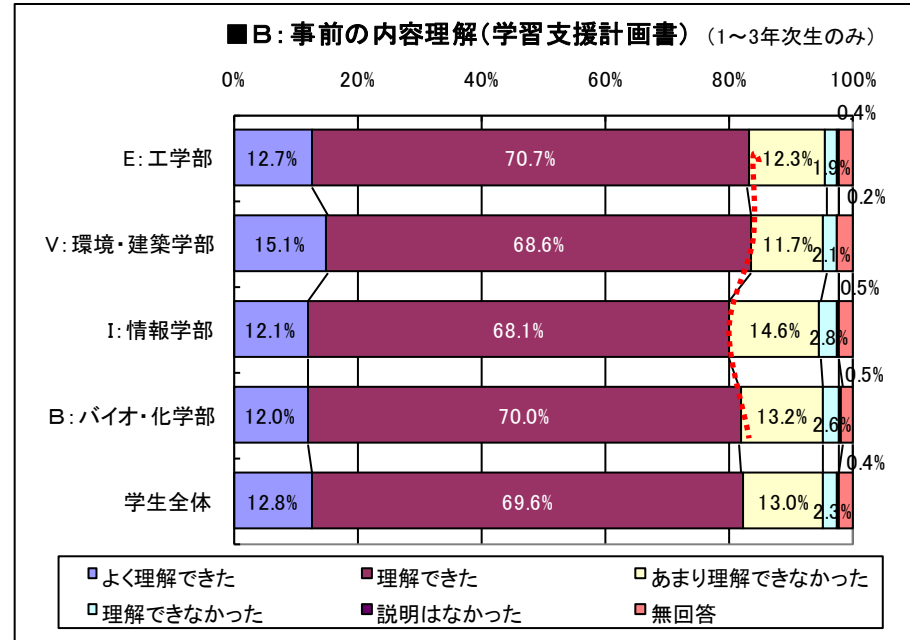


■ 学年別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次生	67.9%	80.8%	84.0%	80.9%	84.1%	93.6%	85.4%	84.3%	89.3%	91.4%
2年次生	75.1%	80.7%	84.4%	82.2%	86.3%	93.6%	88.4%	89.3%	90.6%	91.0%
3年次生	84.7%	87.1%	89.0%	83.8%	89.2%	95.8%	90.5%	93.4%	93.9%	93.6%
4年次生	77.9%	83.2%	87.6%	77.0%	84.1%	93.8%	84.1%	89.3%	89.4%	87.6%

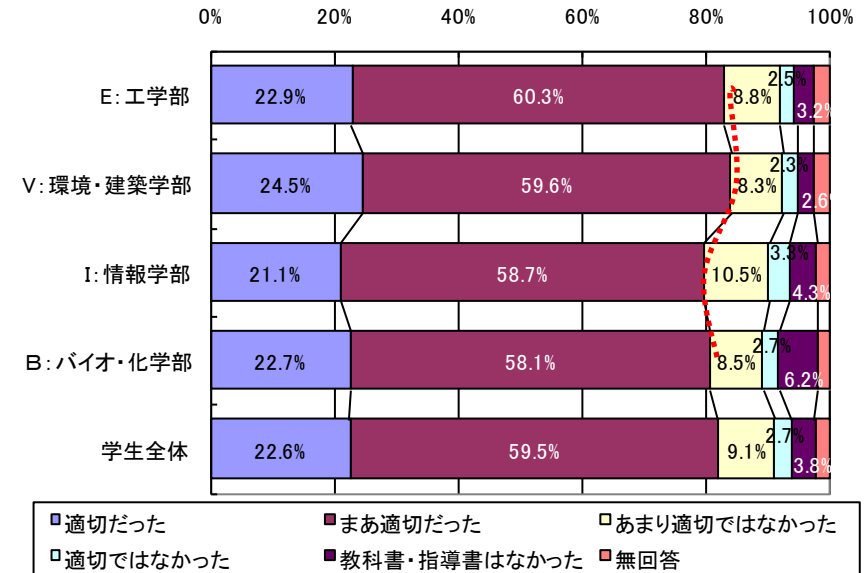
<4> 学部・学科別の分析

- 学部は新学部体制と旧学部体制があるが、まず、「1年次生」～「3年次生」の新学部体制で学部毎の授業評価の比較を行った。
- 「A:事前の興味」で「とても興味があった」と「興味があった」の合計を見ると、「V:環境・建築学部」が最も興味を持っており、「E:工学部」「B:バイオ・化学部」と続き、「I:情報学部」が最も興味を持っていないという結果だった。
- 「B:事前の内容理解」は、学部による差は小さいものの「V:環境・建築学部」の理解度が高めであり、「E:工学部」「B:バイオ・化学部」と徐々に低下し、「I:情報学部」の理解度が最も低いという結果となっていた。
- 「C:自分の熱意と努力」も学部の差は小さいものの、「V:環境・建築学部」が最も肯定的な意見が多くなっていた。そして、「E:工学部」が続いていたが、「I:情報学部」と「B:バイオ・化学部」の差はほとんど見られなかった。

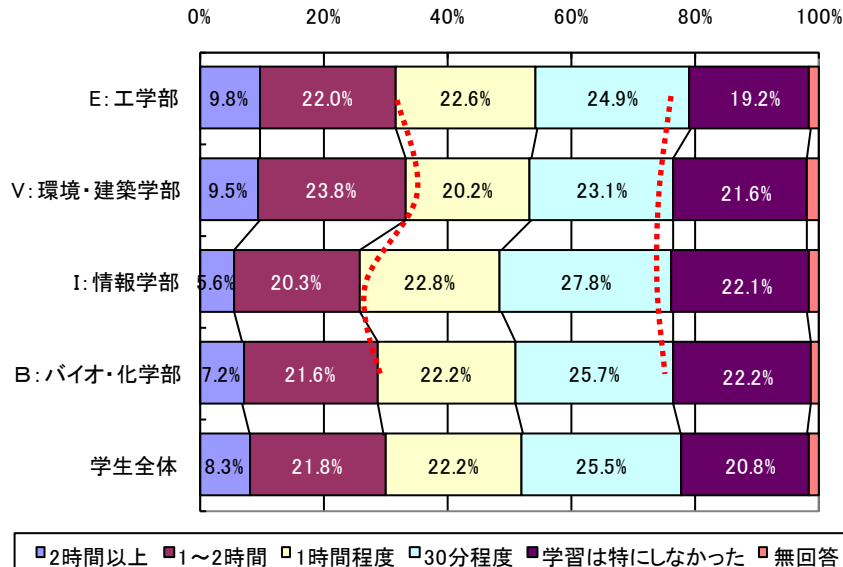


- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「2時間以上」と「1～2時間」の合計で比較すると、「V:環境・建築学部」の学習時間が最も長く、「I:情報学部」が最も短かった。「学習は特にしなかった」を見ると、学部間の差は小さいものの、「E:工学部」が最も少なかった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は学部による差が小さかったが、「V:環境・建築学部」と「E:工学部」の評価がやや高く、「I:情報学部」が最も厳しい評価をしていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」も学部による差は小さかったが、「V:環境・建築学部」と「E:工学部」で肯定的な意見が多く、「B:バイオ・化学部」が最も厳しい評価であった。ただし、「B:バイオ・化学部」では「課題またはレポート等はなかった」という回答が5.9%と多く、学部による方針の違いがあるものと思われる。

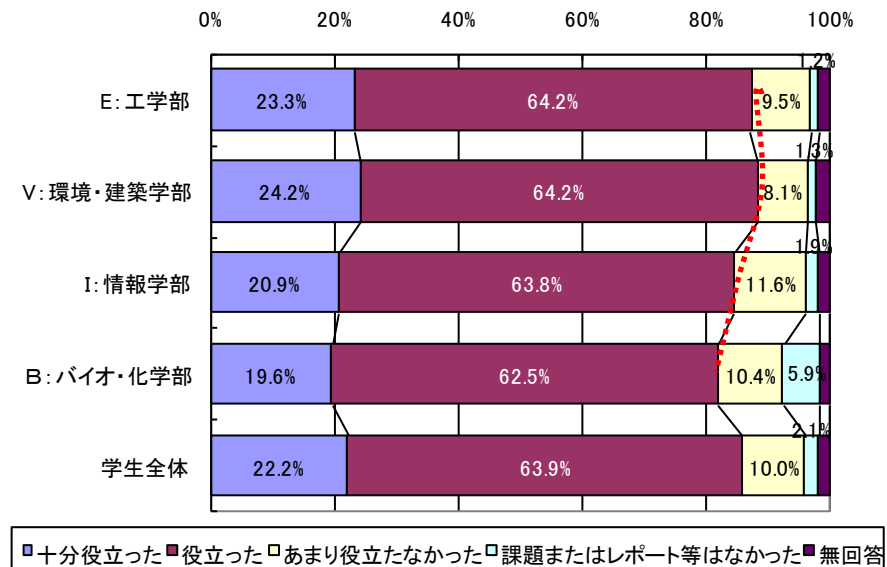
■ E:教科書・指導書の適切さ (1～3年次生のみ)



■ D:予習・復習、課外学習活動 (1～3年次生のみ)

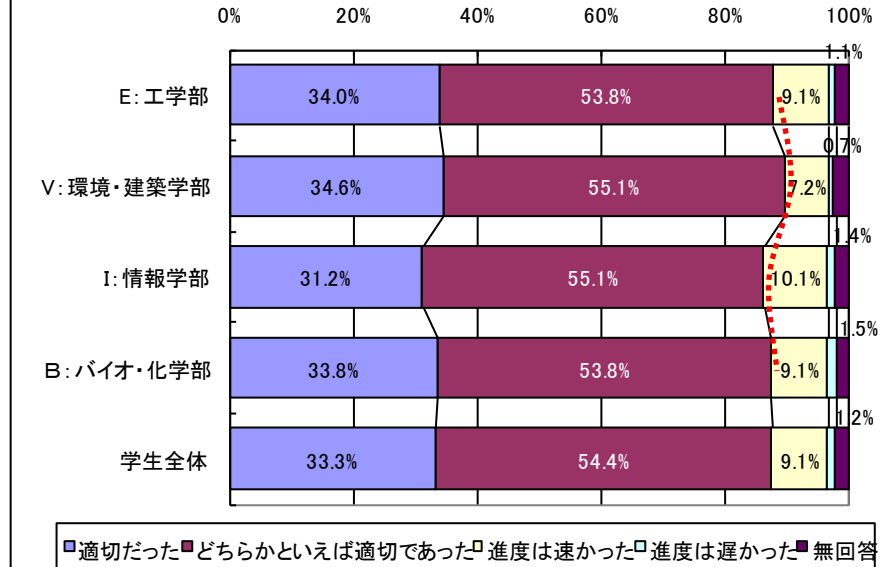


■ F:課題・レポートの適切さ (1～3年次生のみ)

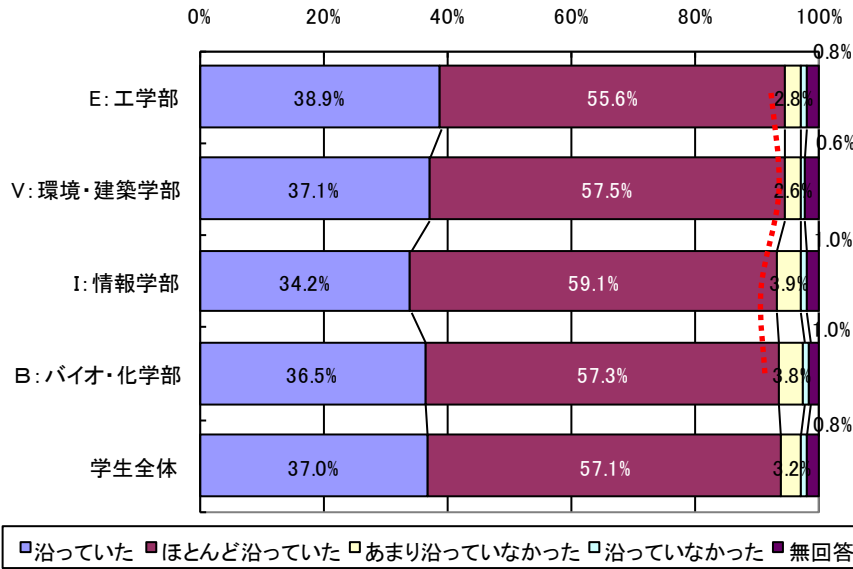


- 「G:学習支援計画書との一致」は学部間の差はほとんどなかったが、「沿っていた」だけを見ると「I:情報学部」がやや少なかった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も学部間の差は少なく、全体的に評価が高かった。ここでも「適切だった」だけを見ると「I:情報学部」が少なく、「進度は速かった」という意見がやや多かった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」を比較すると、「V:環境・建築学部」が最も少なく、「E:工学部」と「I:情報学部」が同程度、「B:バイオ・化学部」が最も多いという結果となっていた。そして、「V:環境・建築学部」では「有効であった」と「まあ有効であった」の合計が41.0%であり、学習相談をしっかりと活用している様子が見えてきた。

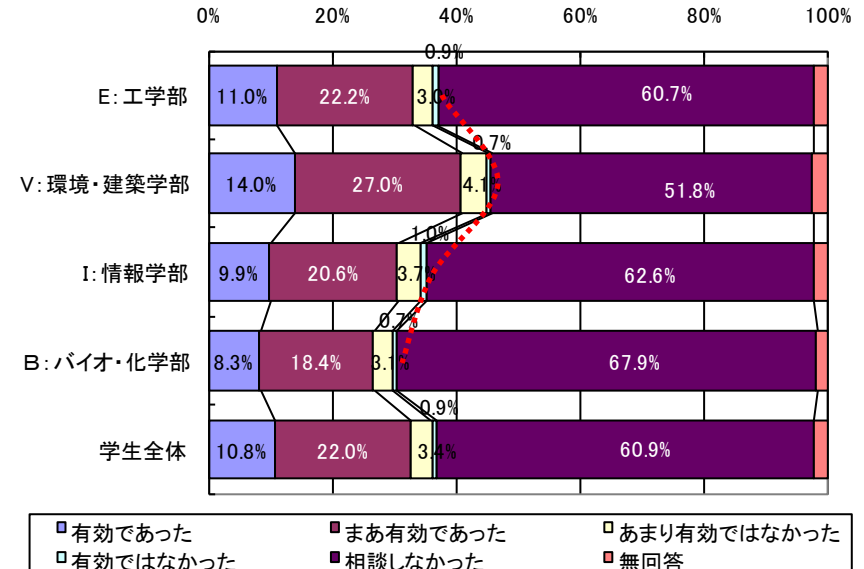
■ H: 授業の進度の適切さ (1~3年次生のみ)



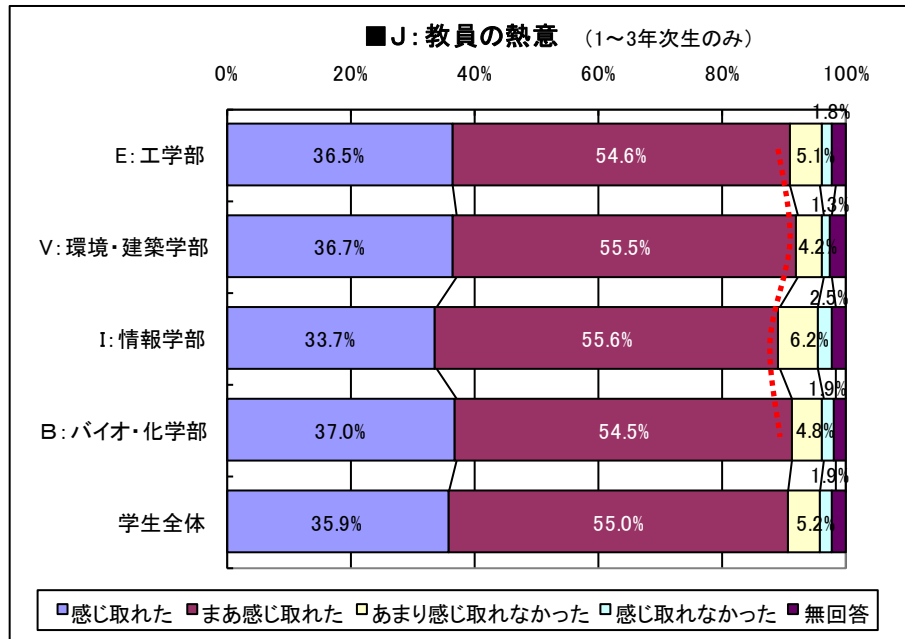
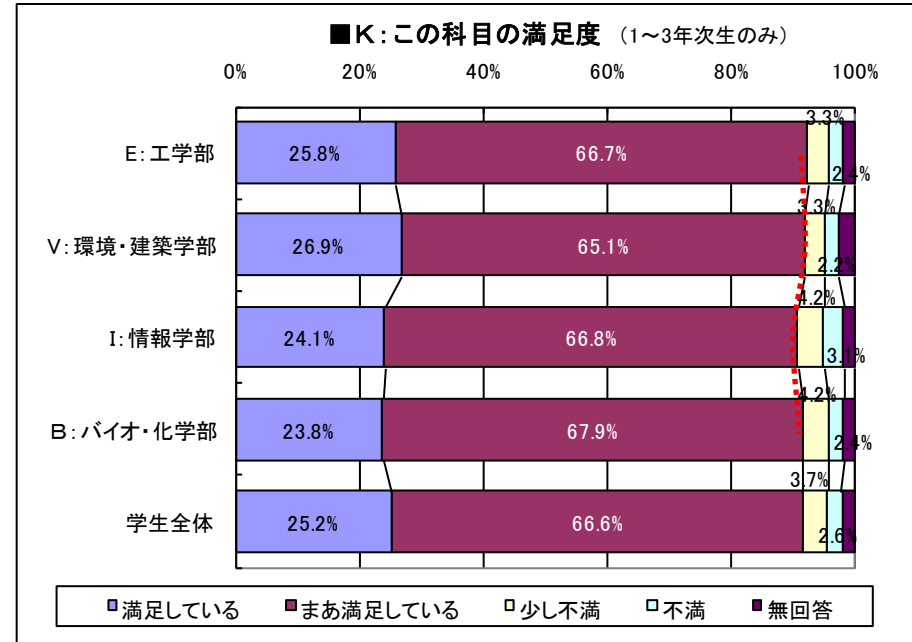
■ G: 学習支援計画書との一致 (1~3年次生のみ)



■ I: 学習相談(OH、チューター)の有効性 (1~3年次生のみ)



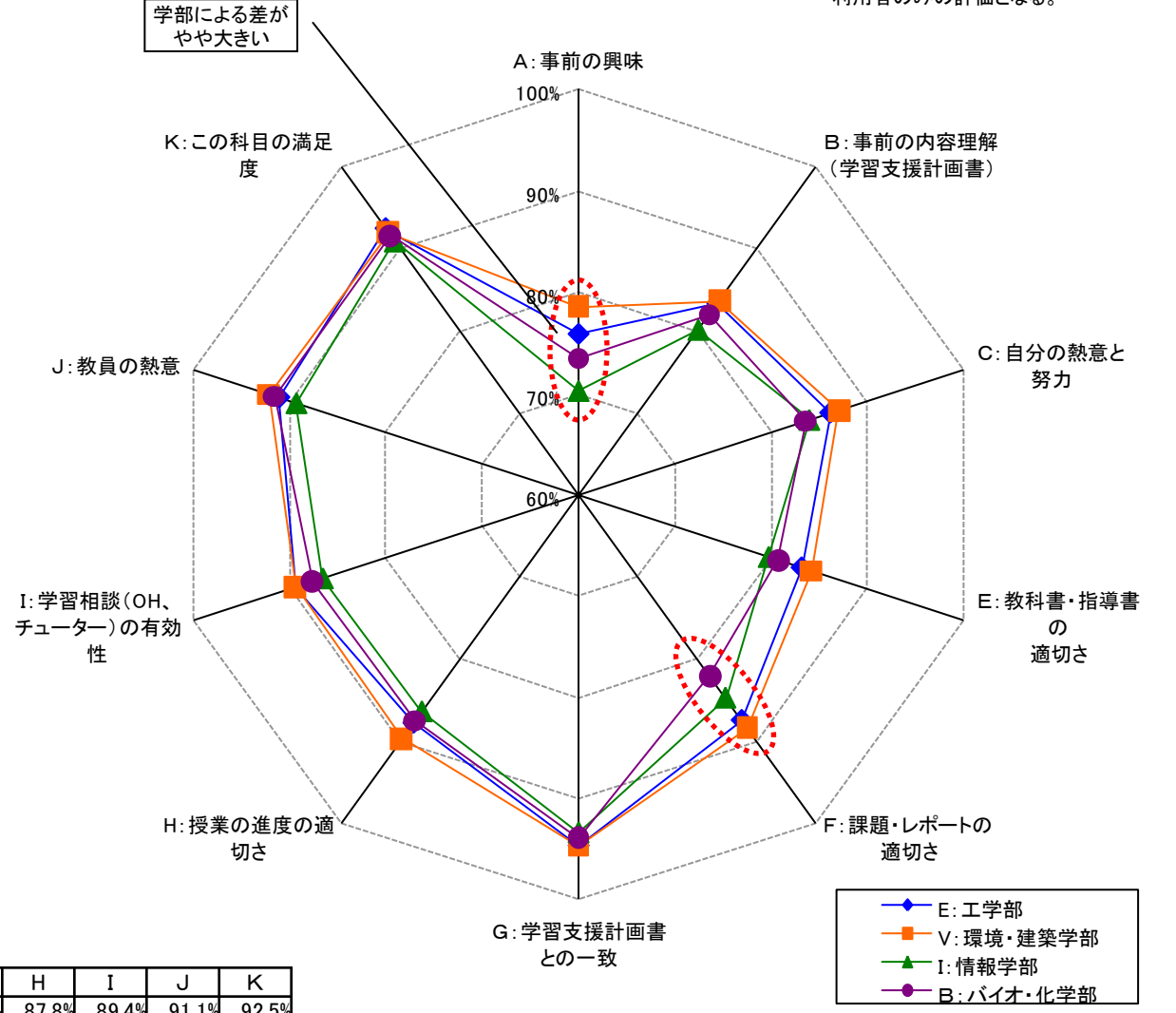
- 「J:教員の熱意」に関しても学部による差が非常に少なく、「I:情報学部」がやや低いものの、他の3学部にはほとんど差が見られなかった。
- 「K:この科目の満足度」も学部による差が非常に小さく、いずれの学部も9割以上が満足と答えていた。ただし、「満足している」だけを見ると「V:環境・建築学部」の満足度が高めであり、「I:情報学部」がやや低めになっていた。



- 新学部体制の学部別に肯定的な意見の割合を比較したところ、右のレーダーチャートのようになった。
- 学部間の差はそれほど大きくないが、ここまで見えてきたように、全体的に「V:環境・建築学部」で肯定的な意見が多く、「I:情報学部」で少ないという傾向となっていた。
- 「B:バイオ・化学部」は目立ったものはなかったが、「F:課題・レポートの適切さ」では学部中で最も低かった。
- 学部による差が大きかったのは「A:事前の興味」「F:課題・レポートの適切さ」といった項目であった。
- 一方、「K:この科目の満足度」「G:学習支援計画書との一致」は学部による差が非常に少なく、評価が一致していた。

■学部別比較レーダーチャート
(1~3年次生のみ)

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみでの評価となる。

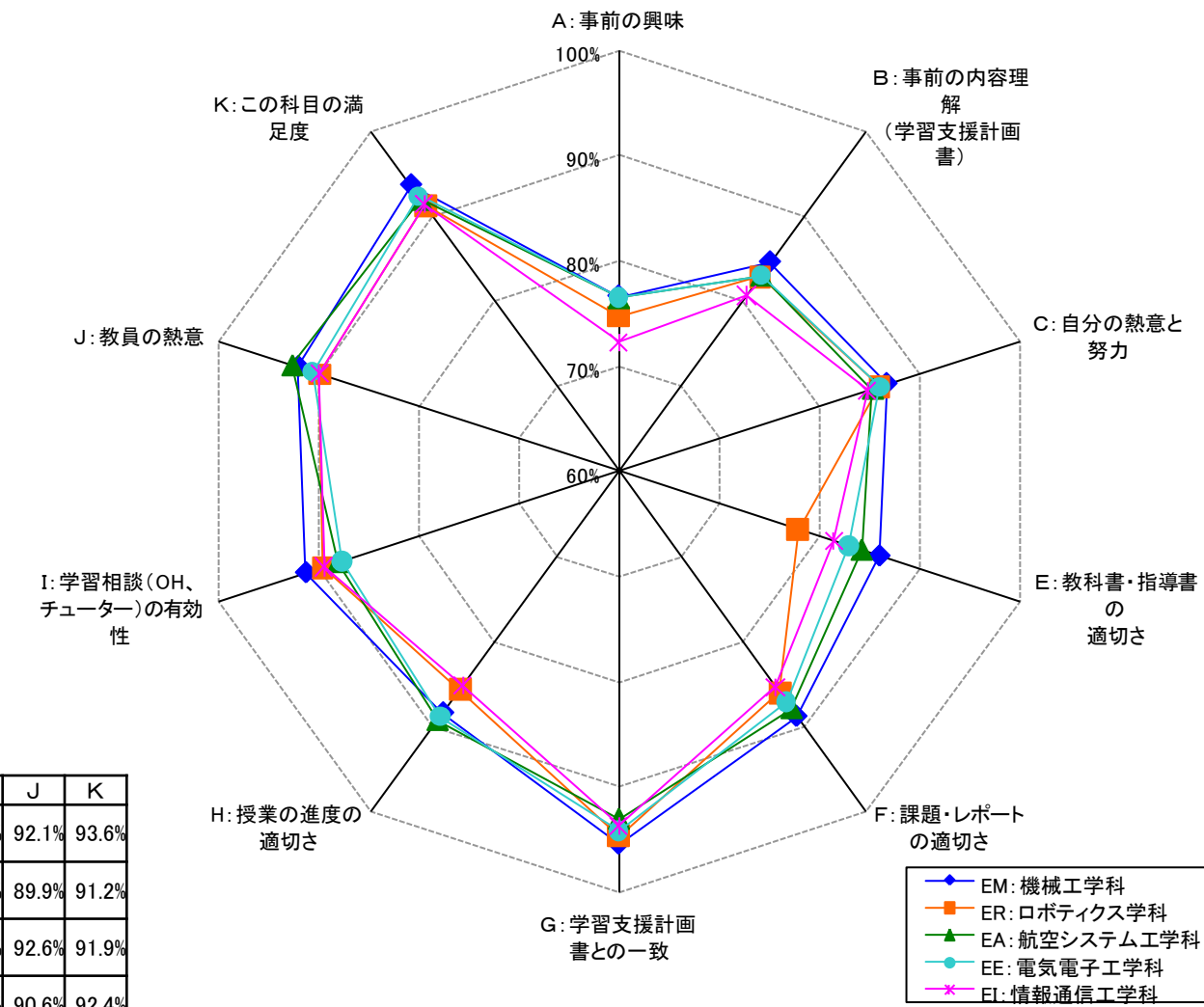


■学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	75.9%	83.4%	86.2%	83.2%	87.5%	94.6%	87.8%	89.4%	91.1%	92.5%
V: 環境・建築学部	78.6%	83.7%	87.0%	84.2%	88.4%	94.6%	89.7%	89.4%	92.2%	92.0%
I: 情報学部	70.3%	80.1%	84.0%	79.8%	84.7%	93.3%	86.4%	86.6%	89.3%	90.9%
B: バイオ・化学部	73.5%	82.0%	83.6%	80.8%	82.1%	93.8%	87.6%	87.7%	91.6%	91.6%

- 学科別に比較を行うには学科の数が多いため、全体の比較を行わず、学部毎に分けて学科の比較を行った。
- 工学部の5学科では学科間の差はそれほど大きくなかったが、「EM:機械工学科」「EA:航空システム工学科」がやや高めであり、「ER:ロボティクス学科」「EI:情報通信工学科」がやや低めとなっていた。
- 特に「EI:情報通信工学科」は「A:事前の興味」が低く、「ER:ロボティクス学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」の低さが目立っていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は学科間の差がやや大きめであり、「EM:機械工学科」の評価が高めであった。

■工学部 学科別比較レーダーチャート (1~3年次生のみ)

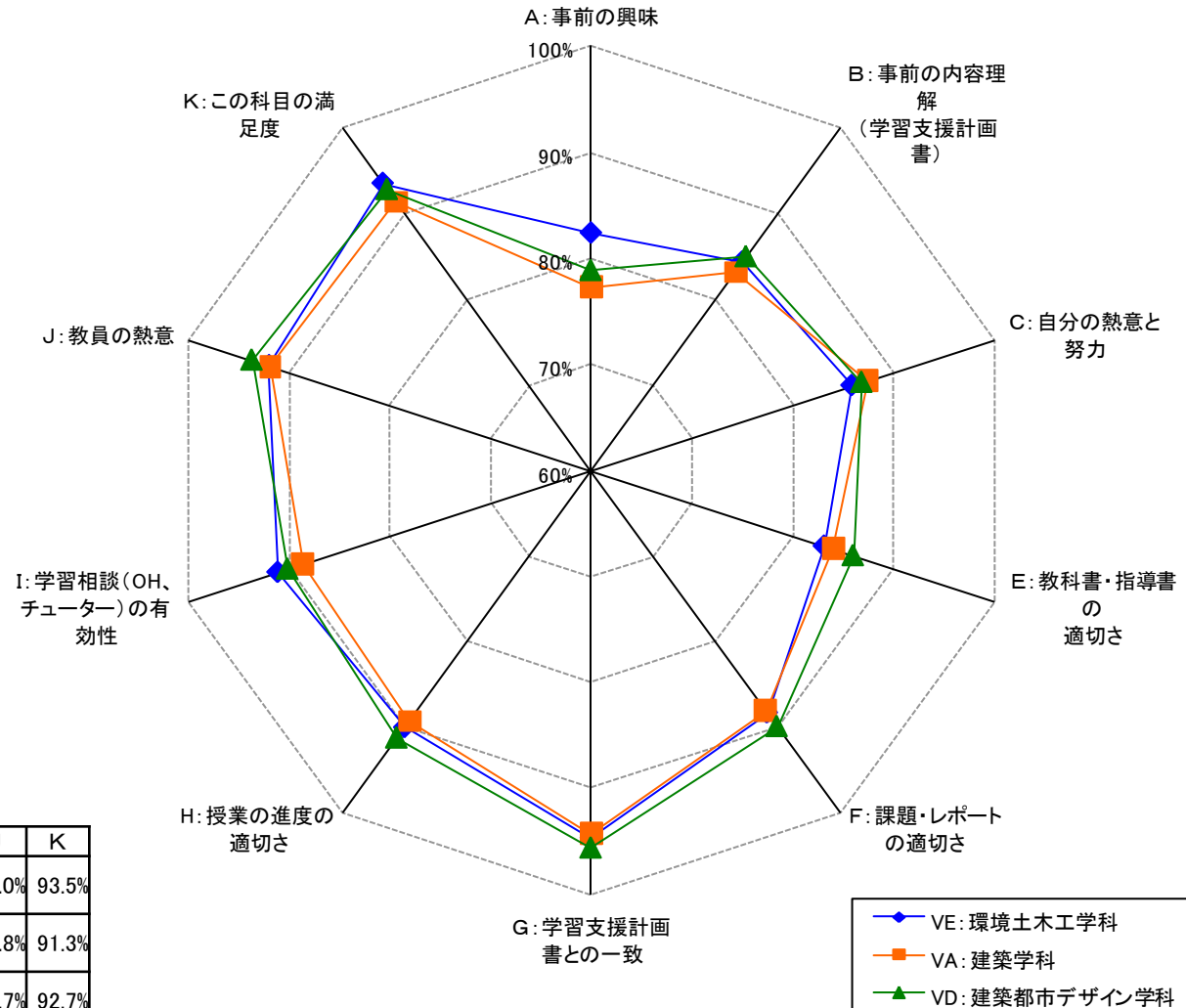


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	76.6%	84.5%	86.8%	86.1%	88.8%	95.5%	88.4%	91.3%	92.1%	93.6%
ER: ロボティクス学科	74.7%	82.8%	86.0%	77.9%	86.0%	94.6%	85.6%	89.6%	89.9%	91.2%
EA: 航空システム工学科	76.5%	83.0%	85.4%	84.2%	87.9%	93.1%	89.3%	88.0%	92.6%	91.9%
EE: 電気電子工学科	76.5%	83.0%	86.1%	83.0%	87.1%	94.2%	88.8%	87.7%	90.6%	92.4%
EI: 情報通信工学科	72.3%	80.7%	84.8%	81.5%	85.4%	93.6%	85.2%	89.5%	89.9%	91.4%

- 環境・建築学部は3学科の比較であるが、ここでも学科間の差はあまり見られなかった。
- わずかな差ではあるが、全体的に「VA:建築学科」で肯定的な意見が少な目であった。
- 「VE:環境土木工学科」は「A:事前の興味」がやや高めであり、「VD:建築都市デザイン学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」が高いなど、授業関連のツールの評価がやや高かった。
- 「VA:建築学科」は全体的にやや低めであり、特に「A:事前の興味」と「K:この科目の満足度」が低い点が気になった。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート (1~3年次生のみ)

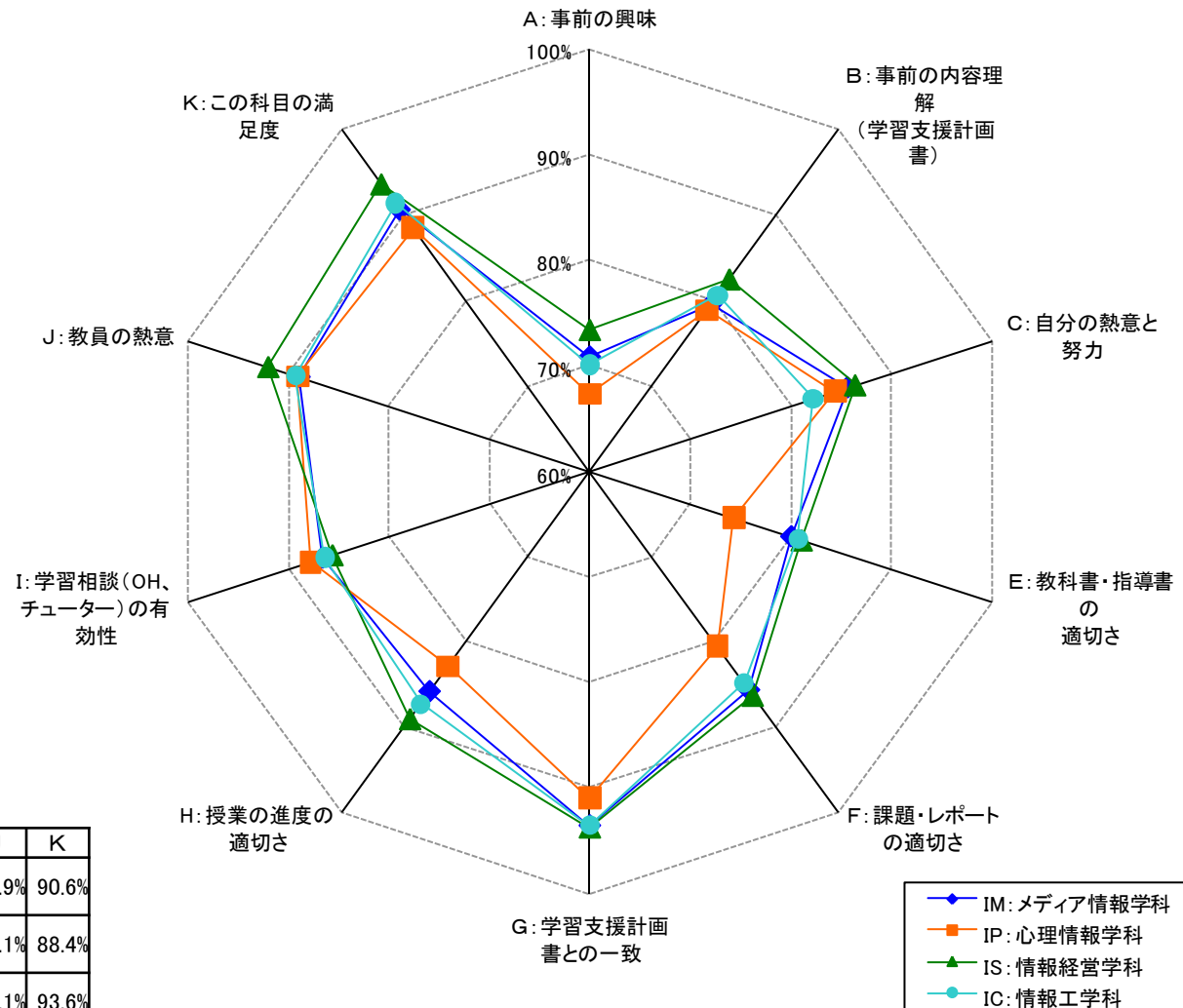


■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VE: 環境土木工学科	82.4%	84.3%	85.9%	83.2%	88.3%	94.7%	90.0%	91.2%	92.0%	93.5%
VA: 建築学科	77.3%	83.2%	87.4%	84.0%	88.0%	94.3%	89.2%	88.7%	91.8%	91.3%
VD: 建築都市デザイン学科	78.8%	84.9%	86.9%	86.0%	89.9%	95.6%	91.2%	90.1%	93.7%	92.7%

- 学部別比較で全体的に低かった情報学部を学科別に比較すると、他の学部と比べて学科の差がやや大きいという特徴が見られた。
- 全体的に「IS:情報経営学科」がやや高めであり、特に「A:事前の興味」「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」が高く、積極的に授業に取り組んでいる様子が見られた。
- 一方、「IP:心理情報学科」は全体的に低めであり、「A:事前の興味」「E:教科書・指導書の適切さ」といった項目の低さが目立っていた。
- 「IM:メディア情報学科」「IC:情報工学科」は特に目立った傾向は見られず、全体的に中庸な評価となっていた。

■情報学部 学科別比較レーダーチャート (1~3年次生のみ)

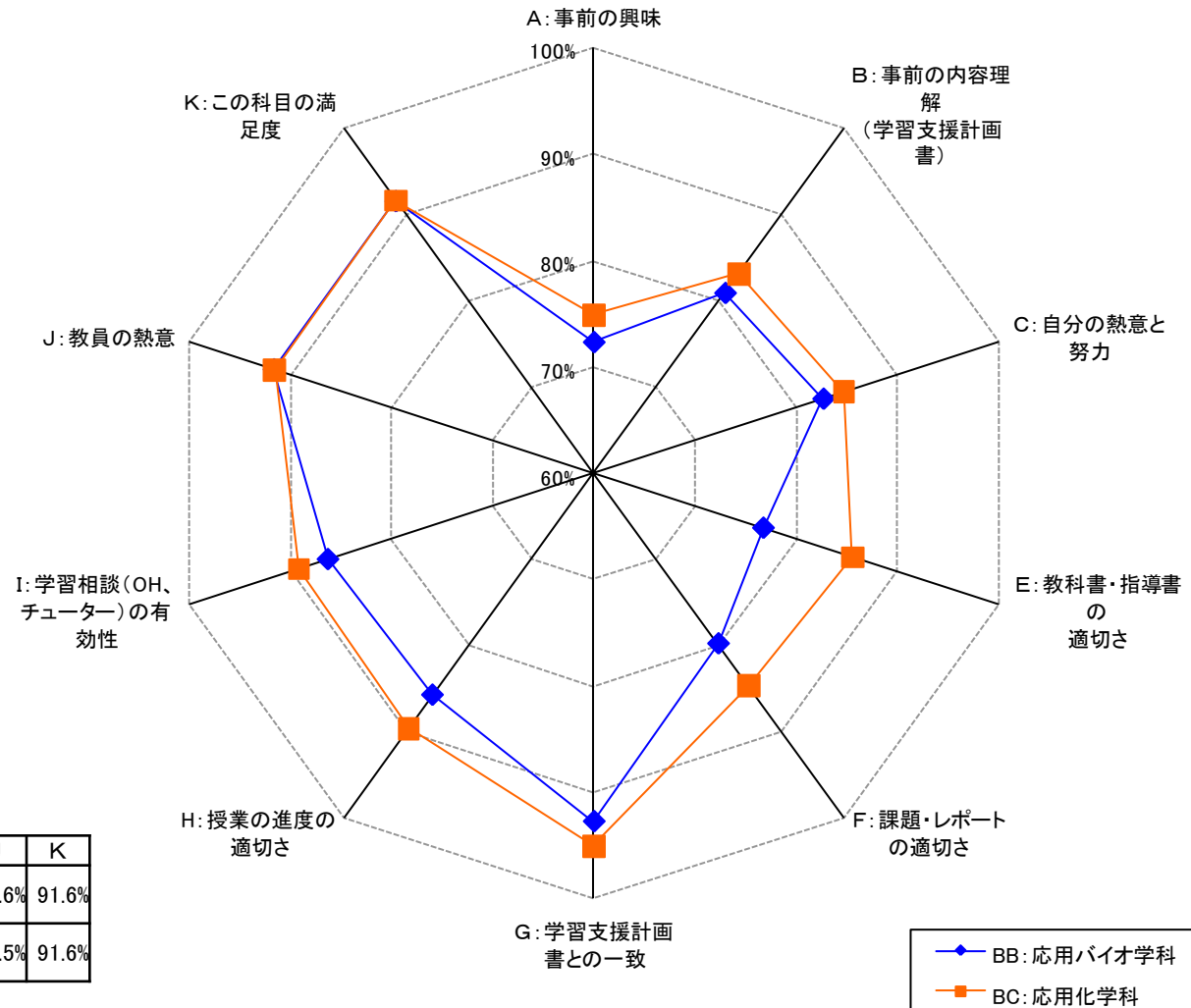


■情報学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
IM:メディア情報学科	70.8%	79.5%	85.6%	80.0%	85.6%	93.6%	85.8%	86.6%	88.9%	90.6%
IP:心理情報学科	67.3%	78.8%	84.4%	74.3%	80.5%	90.9%	82.8%	87.8%	89.1%	88.4%
IS:情報経営学科	73.4%	82.5%	86.5%	81.1%	86.3%	93.7%	89.0%	85.7%	92.1%	93.6%
IC:情報工学科	70.0%	80.5%	82.2%	80.7%	84.8%	93.5%	87.2%	86.4%	89.3%	91.3%

- バイオ・化学部は2学科であるが、「BB:応用バイオ学科」が全体的に低く、「BC:応用化学科」が高いという結果となっていた。
- 2学科の差を見ると、「E:教科書・指導書の適切さ」の差がやや大きく、「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」にはほとんど差が見られなかった。

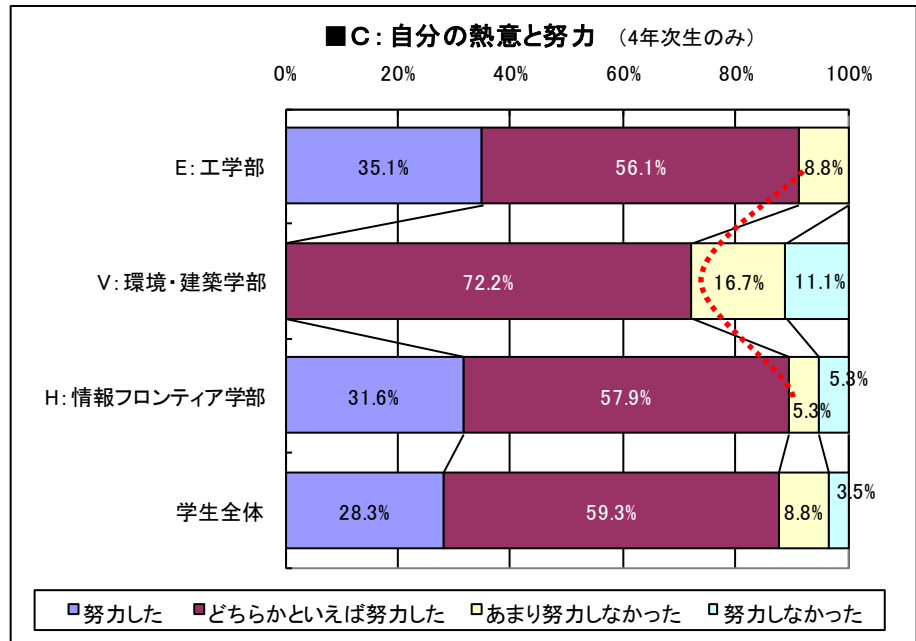
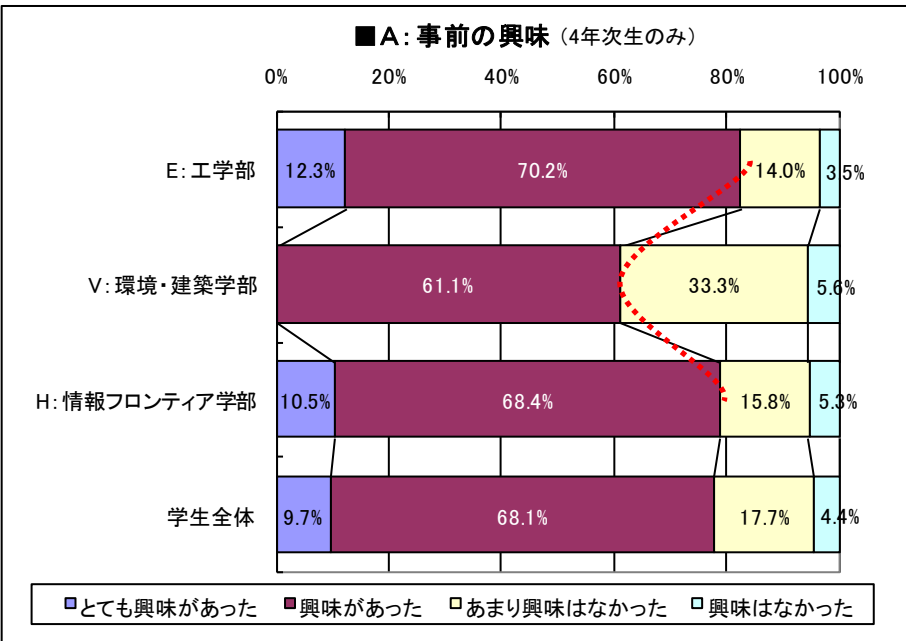
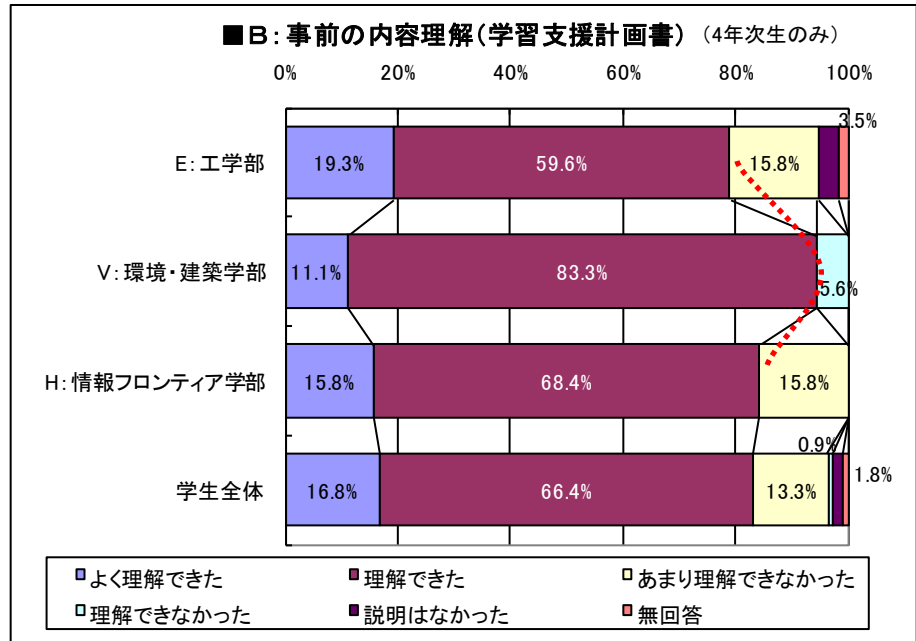
■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート (1~3年次生のみ)



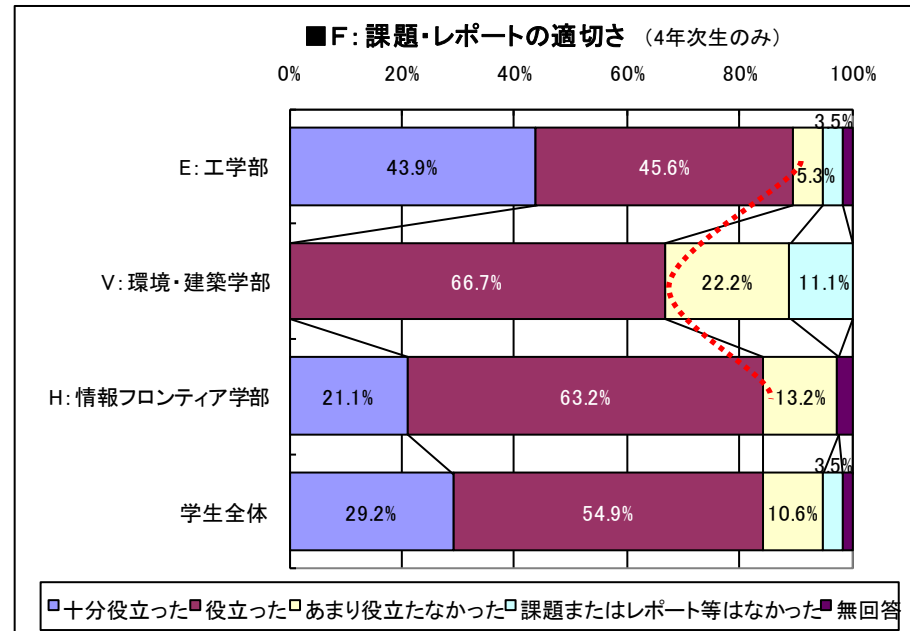
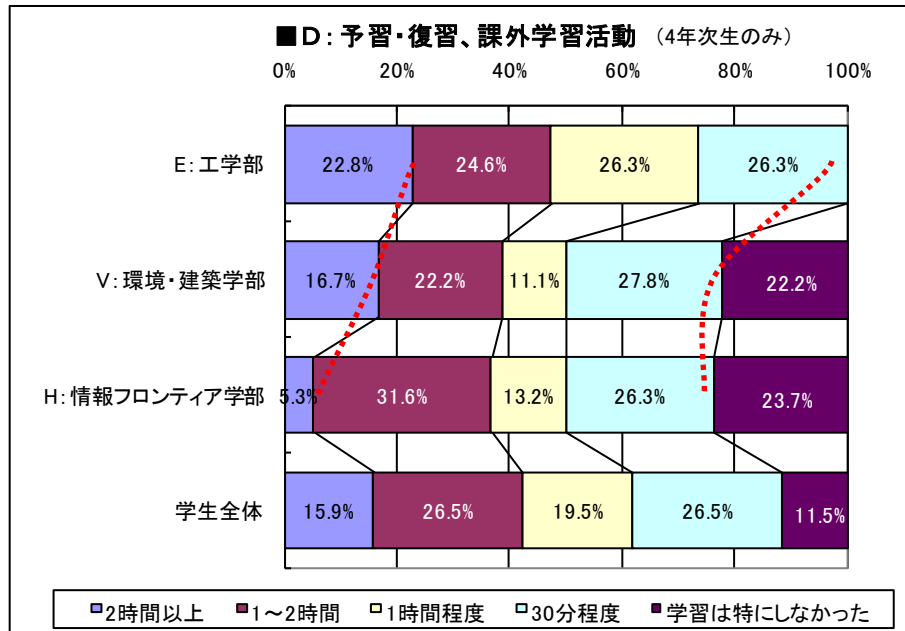
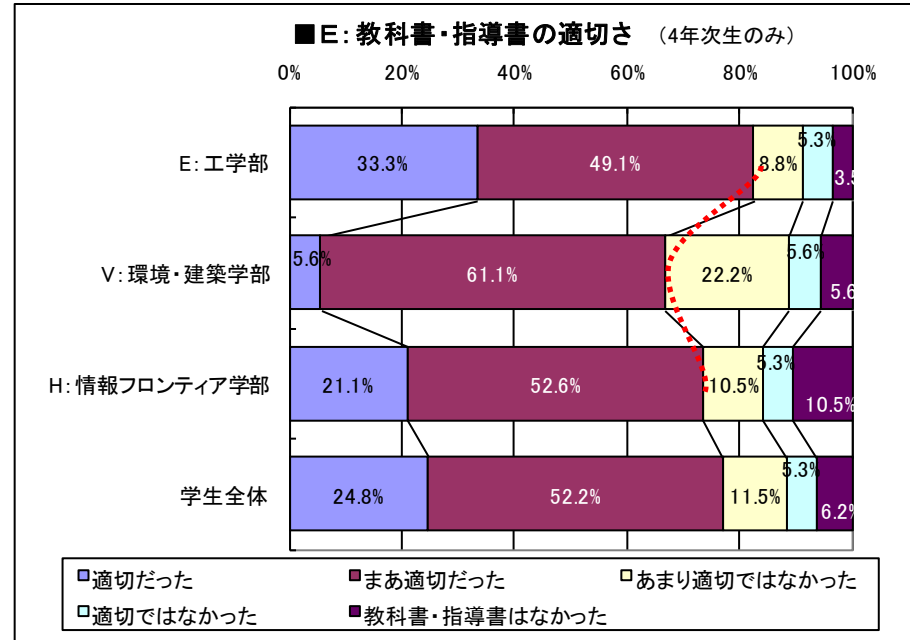
■ バイオ・化学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BB: 応用バイオ学科	72.3%	81.0%	82.6%	76.7%	79.8%	92.8%	85.8%	86.3%	91.6%	91.6%
BC: 応用化学科	74.9%	83.2%	84.7%	85.6%	84.7%	95.0%	89.6%	89.2%	91.5%	91.6%

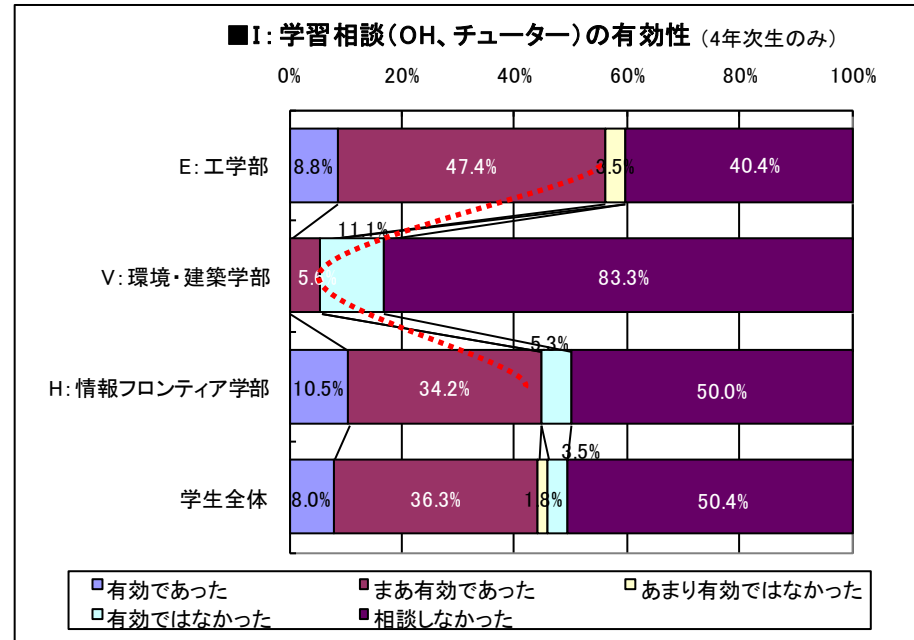
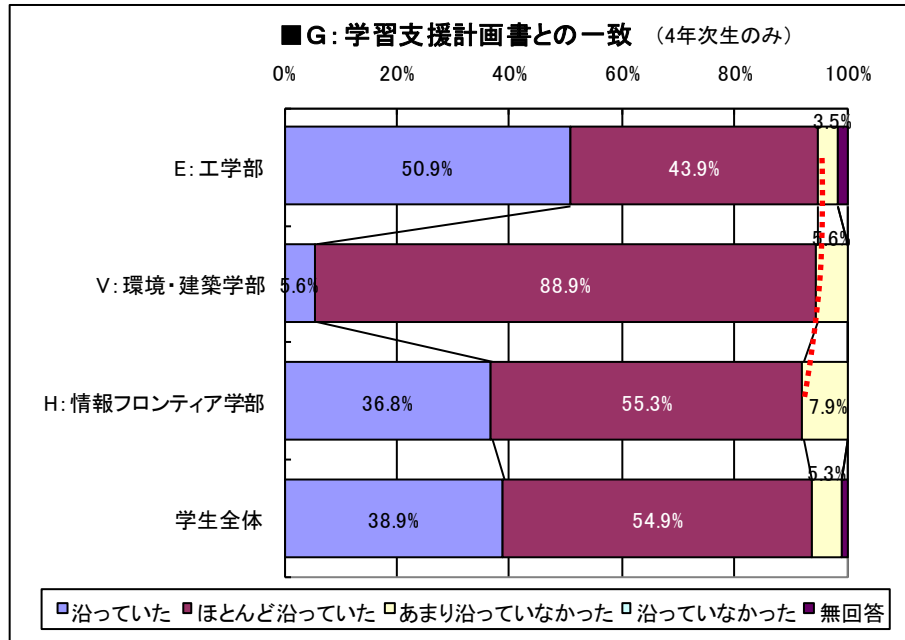
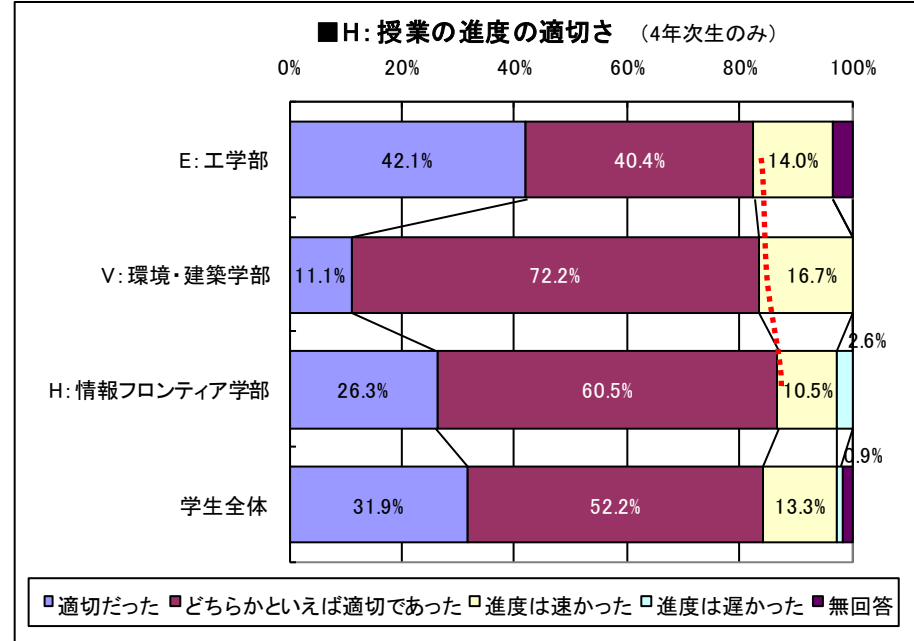
- 「4年次生」は3つの旧学部体制で集計を行ったが、対象サンプル数は「E:工学部」が57サンプル、「V:環境・建築学部」が18サンプル、「H:情報フロンティア学部」が38サンプルと非常に少ないため、特徴が極端に出ている可能性も考えられる。
- 「A:事前の興味」で「とても興味があった」と「興味があった」の合計を見ると、「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」では約8割が興味を持っていたと答えていたが、「V:環境・建築学部」では「とても興味があった」という回答がなく、「興味があった」が61.1%であり、特徴が極端に現れていた。
- 「B:事前の内容理解」に関しては「V:環境・建築学部」で理解ができたという意見が多く、「H:情報フロンティア学部」と「E:工学部」が同じような結果であった。
- 「C:自分の熱意と努力」でも「V:環境・建築学部」の特徴が極端に現れており、「努力した」が0%、「どちらかといえば努力した」が72.2%となっていたが、「E:工学部」「H:情報フロンティア学部」はいずれも約9割が努力したと答えていた。



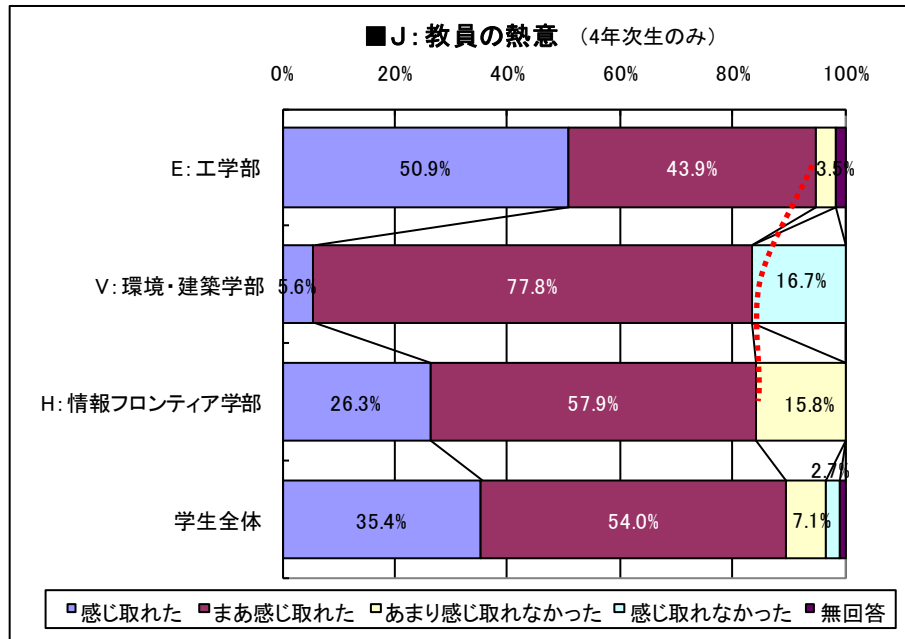
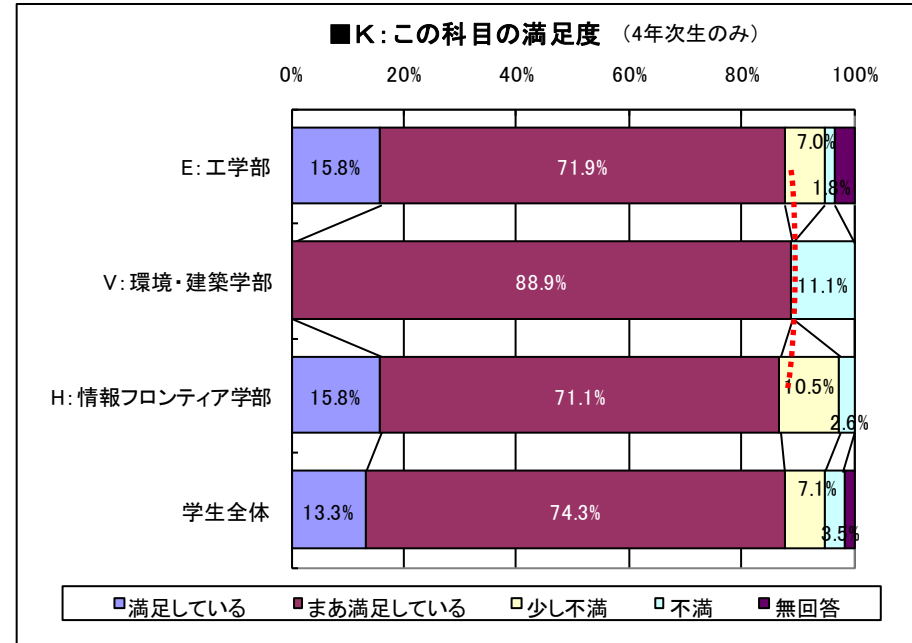
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「2時間以上」を比較すると、「E:工学部」が22.8%と最も多く、次いで「V:環境・建築学部」「H:情報フロンティア学部」の順となっていた。そして、「学習は特にしなかった」を比較すると、「E:工学部」では0%であり、「H:情報フロンティア学部」「V:環境・建築学部」が同程度で2割を超えていた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では「E:工学部」で適切だったと評価する意見が最も多く、「V:環境・建築学部」で最も少なかった。そして、「教科書・指導書はなかった」という意見は「H:情報フロンティア学部」で10.5%と最も多かった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」も「E:工学部」が最も高い評価をしており、次いで「H:情報フロンティア学部」、「V:環境・建築学部」の順となっていた。そして、「課題またはレポート等はなかった」は「V:環境・建築学部」で11.1%と最も多かった。



- 「G:学習支援計画書との一致」に関しては「沿っていた」と「ほとんど沿っていた」を合わせると9割以上が肯定的な意見であった。しかし、「沿っていた」だけを見ると、「E:工学部」が50.9%と半数を占めていることに比べて「V:環境・建築学部」では5.6%であり、評価の差は非常に大きかった。
- 「H:授業の進度の適切さ」に関しても「適切だった」と「どちらかといえば適切であった」の合計では学部間の差はそれほど大きくなかったが、「適切だった」だけを見ると「E:工学部」が42.1%、「V:環境・建築学部」が11.1%となっており、「G:学習支援計画書との一致」と同じように大きな差が見られた。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」に関しては、「相談しなかった」を比較すると、「V:環境・建築学部」で83.3%と非常に多い点が特徴的であった。有効性の評価では、「E:工学部」では56.2%、「H:情報フロンティア学部」では44.7%が肯定的な意見であった。



- 「J:教員の熱意」を「感じ取れた」と「まあ感じ取れた」の合計で比較すると、「E:工学部」は94.8%と非常に高く、「V:環境・建築学部」は83.4%、「H:情報フロンティア学部」は84.2%と、ほぼ同じであった。「感じ取れた」だけを比較すると、「E:工学部」は50.9%であったが、「V:環境・建築学部」では5.6%と、非常に大きな差が見られた。
- 「K:この科目の満足度」も「満足している」と「まあ満足している」の合計で見るといずれの学部の満足度も高く、学部による差はそれほど大きくなかった。しかし、「満足している」だけを比べると、「V:環境・建築学部」では0%であり、特徴が極端に現れていた。

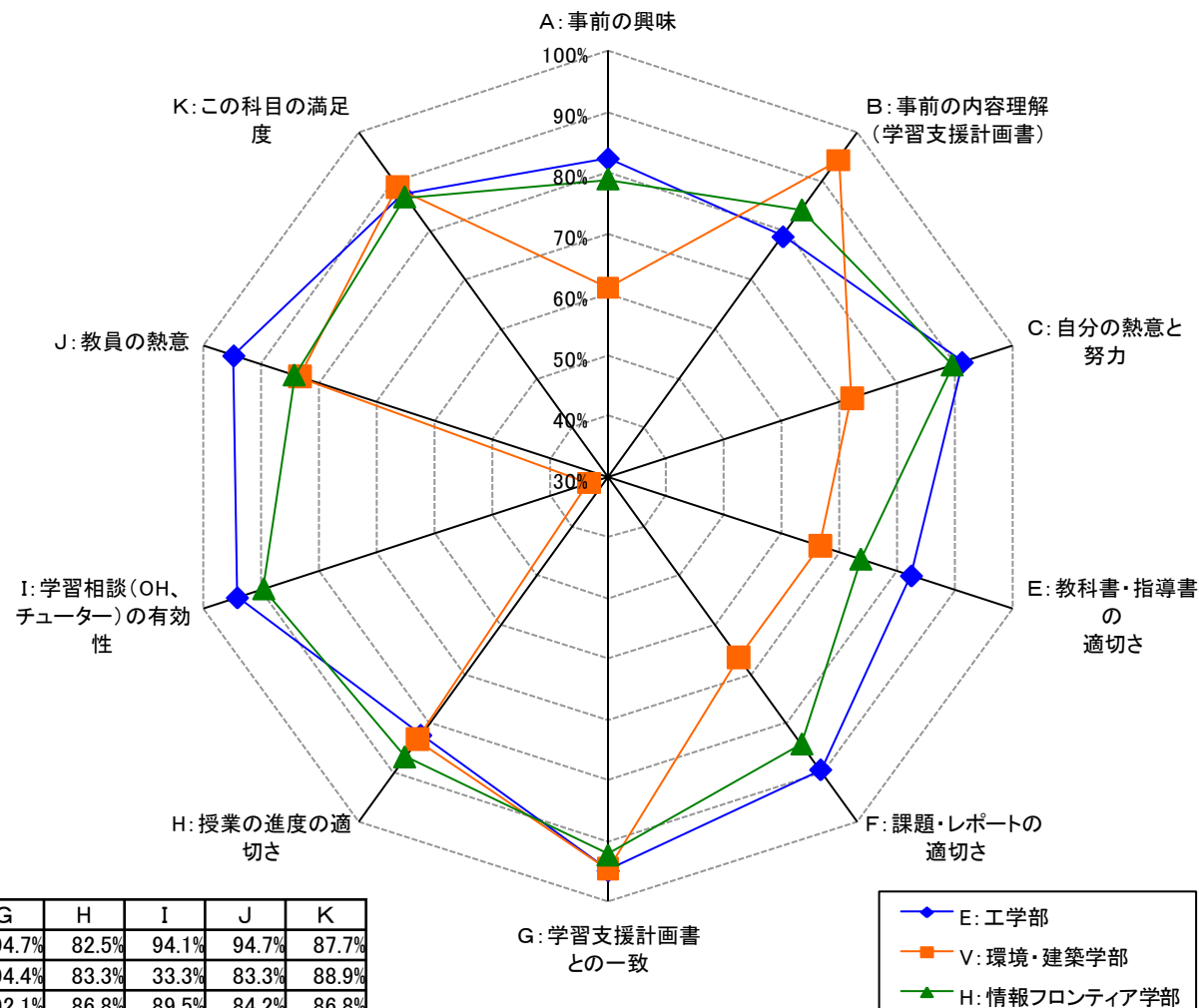


- 旧学部構成の3学部の比較をレーダーチャートで見ると右記のようになる。ここまでのレーダーチャートは60%から100%までの軸であったが、旧学部では30%から100%の軸となっている。
- 全体を見ると、「V:環境・建築学部」で極端な数値が見られた。特に「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」の評価が非常に低い点が特徴的であったが、これにはサンプル数が少ないことが関係していると思われる。
- 「E:工学部」と「H:情報フロンティア学部」にはあまり差は見られなかったが、やや「E:工学部」の方が肯定的な意見が多いようであった。
- 学部によっていくつかの特徴が見られたが、「K:この科目の満足度」は学部による差がほとんどなく、いずれの学部も高い満足度となっていた。

■学部別比較レーダーチャート

(4年生のみ)

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。

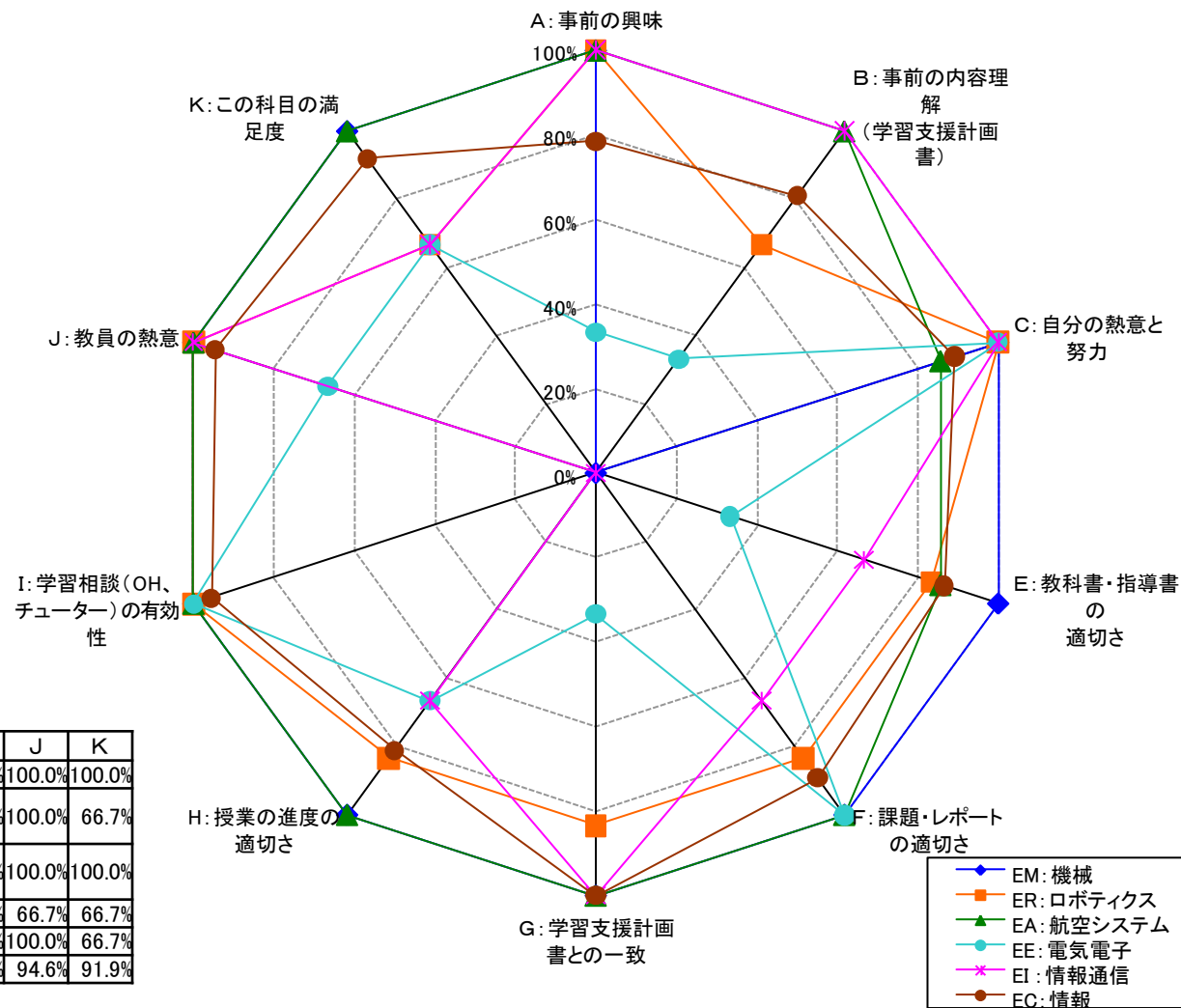


■学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	82.5%	78.9%	91.2%	82.5%	89.5%	94.7%	82.5%	94.1%	94.7%	87.7%
V: 環境・建築学部	61.1%	94.4%	72.2%	66.7%	66.7%	94.4%	83.3%	33.3%	83.3%	88.9%
H: 情報フロンティア学部	78.9%	84.2%	89.5%	73.7%	84.2%	92.1%	86.8%	89.5%	84.2%	86.8%

- 旧学部構成では3つの学部に分け、その中の学科毎に比較を行った。学科別の比較に関してもサンプル数が非常に少なくなるため極端な回答が見られた。そのため評価軸は0%～100%としている。
- 工学部は6つの学科の比較となるが、「EM:機械」はサンプル数が1であり、「EE:電気電子」と「EI:情報通信」は3、「ER:ロボティクス」は6、「EA:航空システム」で7、「EC:情報」で37というものであった。
- 「EM:機械」「EA:航空システム」「EI:情報通信」では肯定的な意見が100%を占めるものも多く見られたが、サンプル数が少ないため、極端な数値となった。
- 「EE:電気電子」のサンプル数は3つだったが、肯定的な意見が33.3%と低いものも多く見られた。

■工学部 学科別比較レーダーチャート
(4年次生のみ)

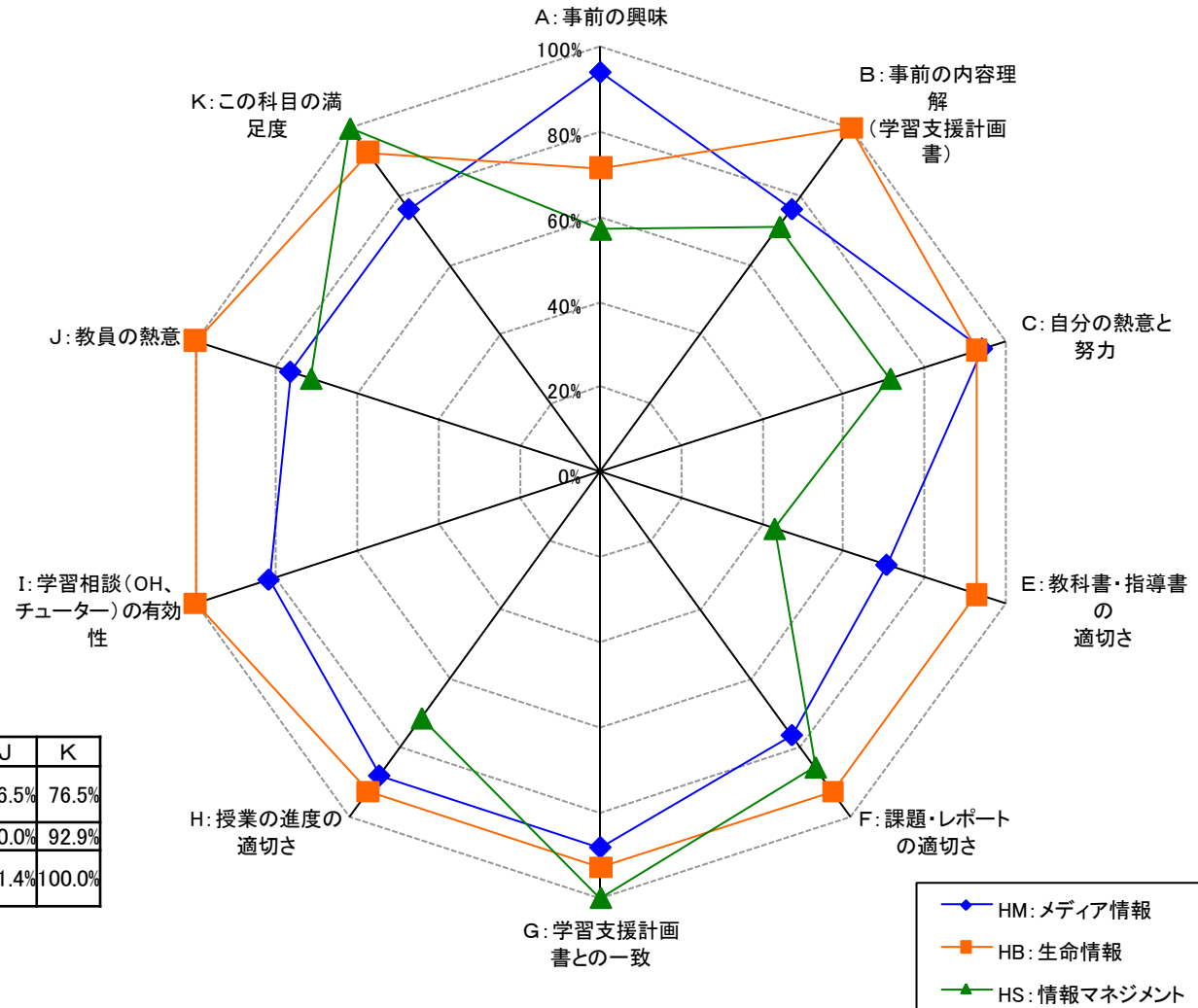


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
ER: ロボティクス	100.0%	66.7%	100.0%	83.3%	83.3%	83.3%	83.3%	100.0%	100.0%	66.7%
EA: 航空システム	100.0%	100.0%	85.7%	85.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
EE: 電気電子	33.3%	33.3%	100.0%	33.3%	100.0%	33.3%	66.7%	100.0%	66.7%	66.7%
EI: 情報通信	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%	66.7%	100.0%	66.7%	0.0%	100.0%	66.7%
EC: 情報	78.4%	81.1%	89.2%	86.5%	89.2%	100.0%	81.1%	95.7%	94.6%	91.9%

- 「情報フロンティア学部」は3学科の比較で、サンプル数は「HM:メディア情報」が17、「HB:生命情報」が14、「HS:情報マネジメント」が7というものであり、それほど極端な数値は見られなかった。
- 全体を見ると「HB:生命情報」で肯定的な意見が多く、「HS:情報マネジメント」がやや低めという結果となっていた。
- 「HM:メディア情報」は「A:事前の興味」は最も高いものの、その他では中庸な結果であった。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート
(4年生のみ)

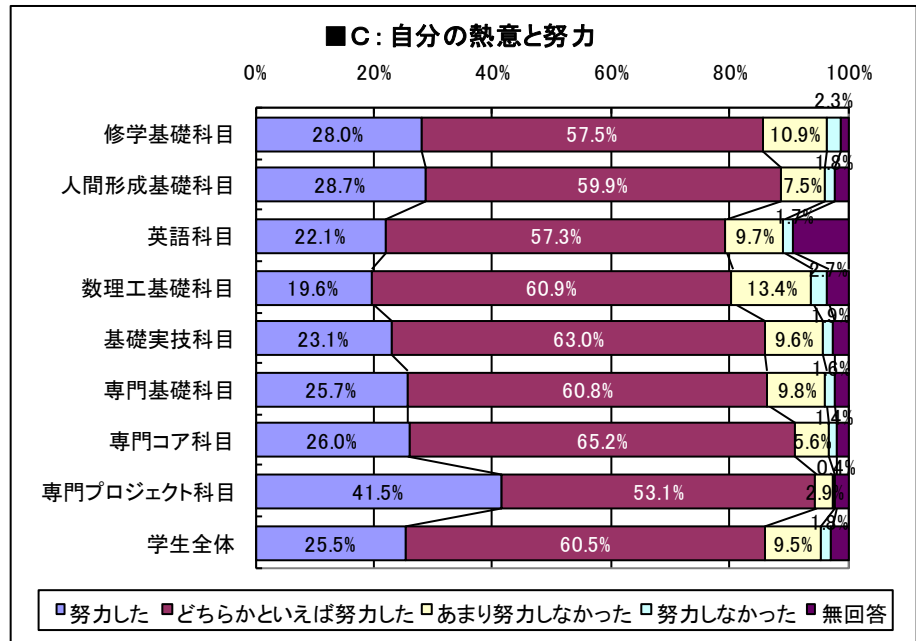
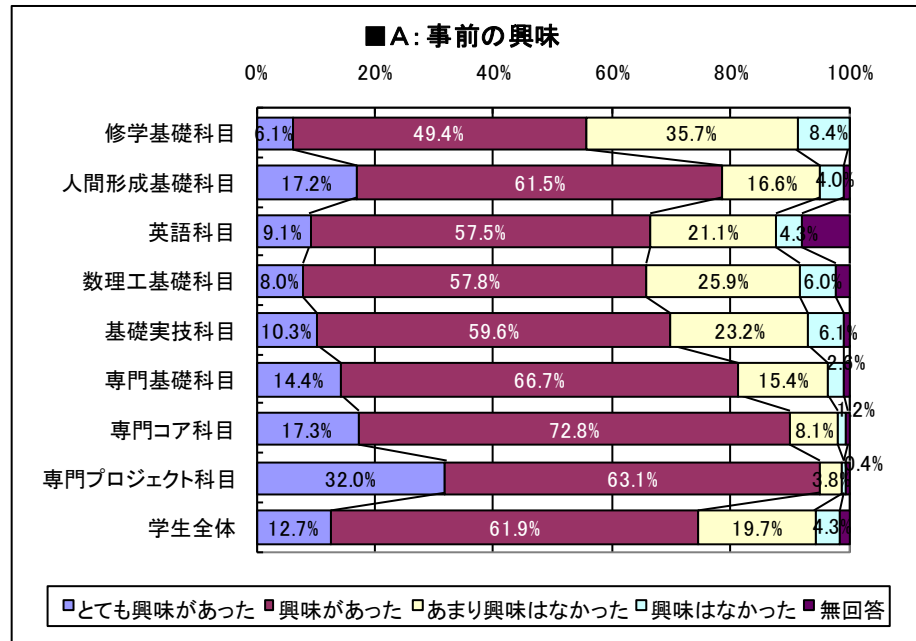
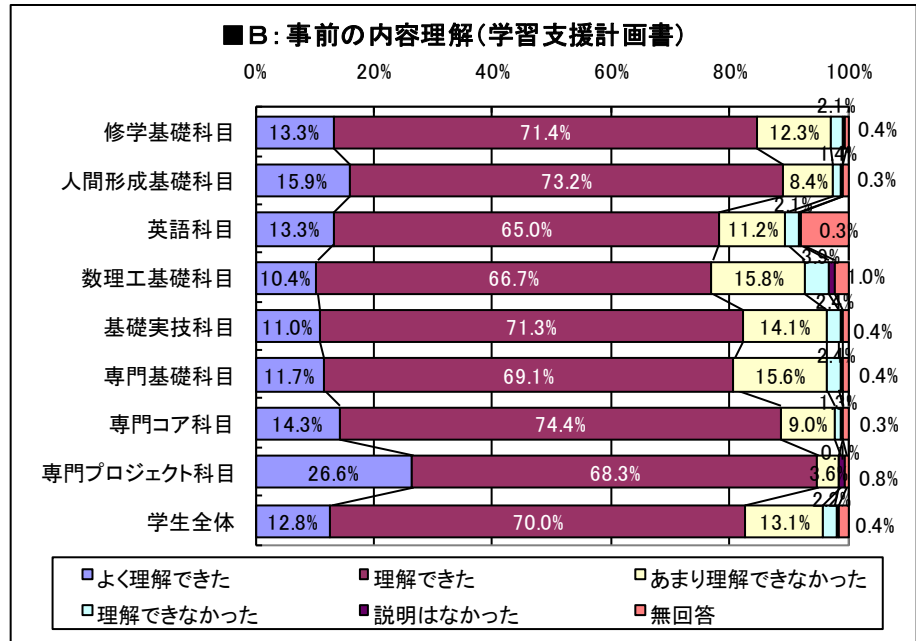


■情報フロンティア学部 学科別比較

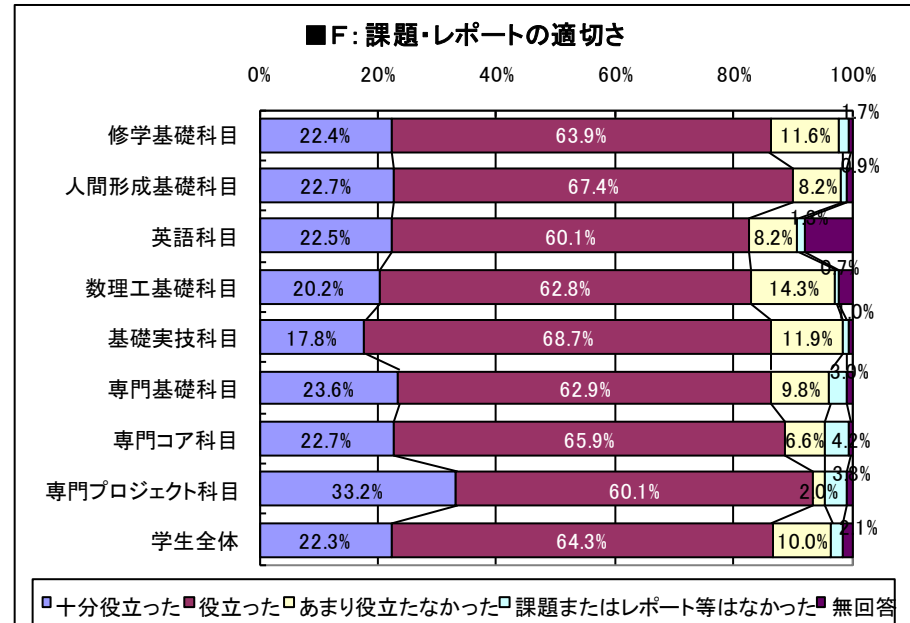
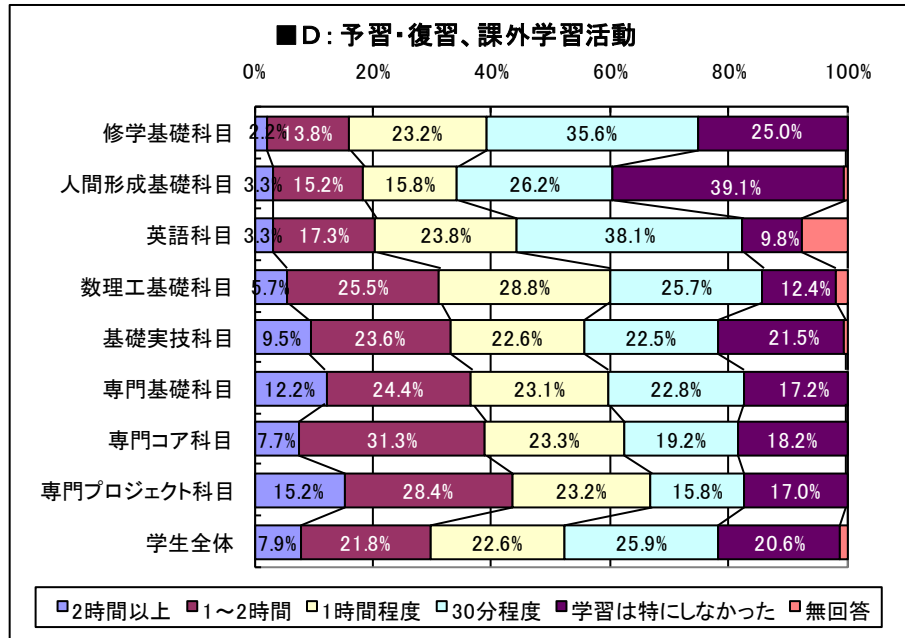
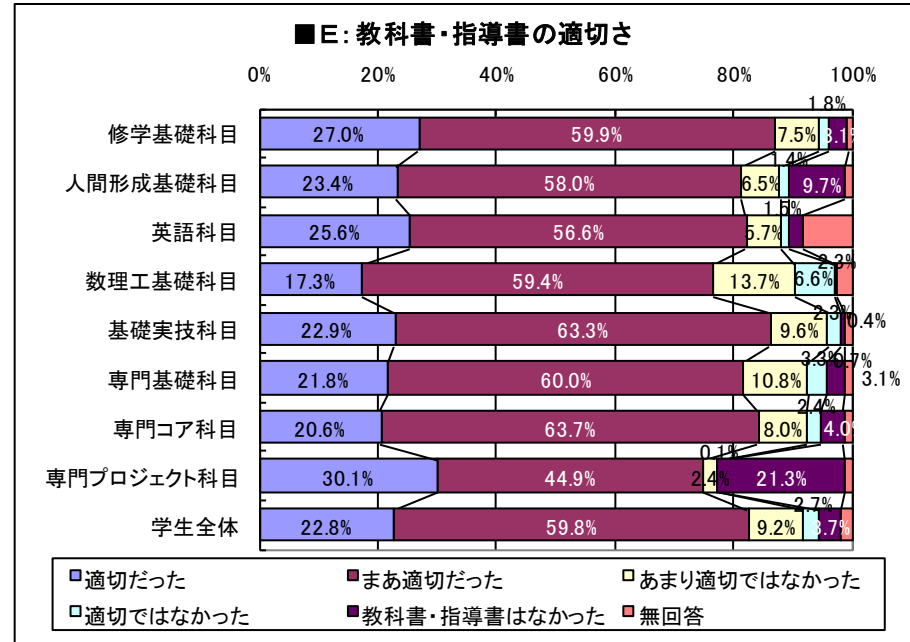
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
HM:メディア情報	94.1%	76.5%	94.1%	70.6%	76.5%	88.2%	88.2%	81.8%	76.5%	76.5%
HB:生命情報	71.4%	100.0%	92.9%	92.9%	92.9%	92.9%	100.0%	100.0%	92.9%	92.9%
HS:情報マネジメント	57.1%	71.4%	71.4%	42.9%	85.7%	100.0%	71.4%	—	71.4%	100.0%

<5>科目区分別の分析

- 科目区分毎に評価の比較を行った。
- 「A:事前の興味」では「専門プロジェクト科目」に対する興味が最も強く、「とても興味があった」と「興味があった」の合計は95.1%であった。次いで「専門コア科目」「専門基礎科目」「人間形成基礎科目」と続いており、上位には専門系の科目が多く見られた。そして、最も興味を持たれていなかった科目は「修学基礎科目(55.5%)」であった。
- 「B:事前の内容理解」は科目区分による差はそれほど大きくなかったが、「専門プロジェクト科目」「人間形成基礎科目」「専門コア科目」で肯定的な意見がやや多かった。
- 「C:自分の熱意と努力」も科目区分による差はそれほど大きくなかったが、「専門プロジェクト科目」では「努力した」という意見が41.5%と突出しており、その他では「専門コア科目」「人間形成基礎科目」で肯定的な意見が多めであった。

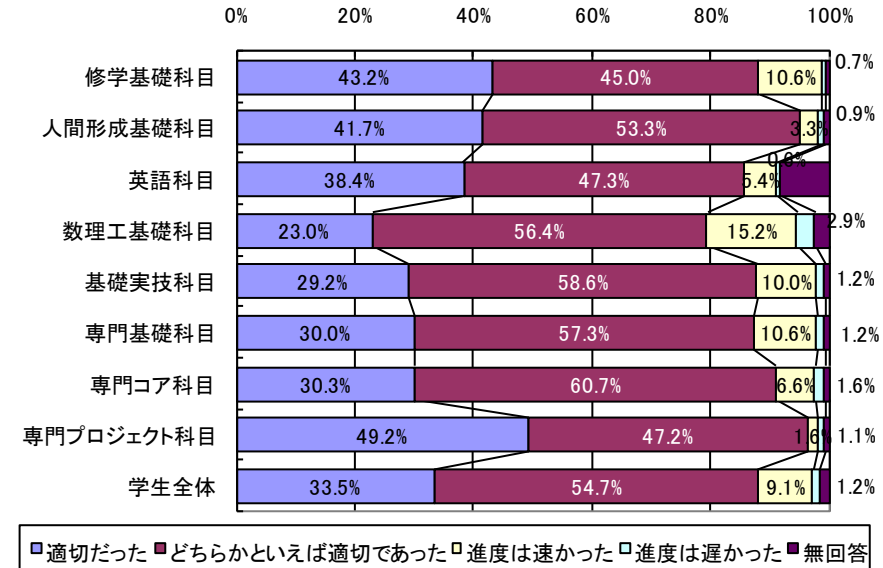


- 「D:予習・復習、課外学習活動」は科目区分による差が大きく、「2時間以上」と「1～2時間程度」を合わせた割合で見ると「専門プロジェクト科目」に最も学習時間を充てており、「専門コア科目」「専門基礎科目」などの専門系の科目に関してしっかり勉強している様子がうかがえた。一方、「学習は特にしなかった」を見ると、「人間形成基礎科目」が39.1%と突出していた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」では科目区分による差はそれほど大きくなかったが、「修学基礎科目」「基礎実技科目」で肯定的な意見がやや多く、「数理工基礎科目」で少なかった。ただし、「専門プロジェクト科目」は「教科書・指導書はなかった」という意見が21.3%と非常に多い点特徴的であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」も科目区分による差が少なかったが、「専門プロジェクト科目」「人間形成基礎科目」で肯定的な意見がやや多かった。また、「専門プロジェクト科目」では「十分役立った」が33.2%と突出しており、特徴であった。

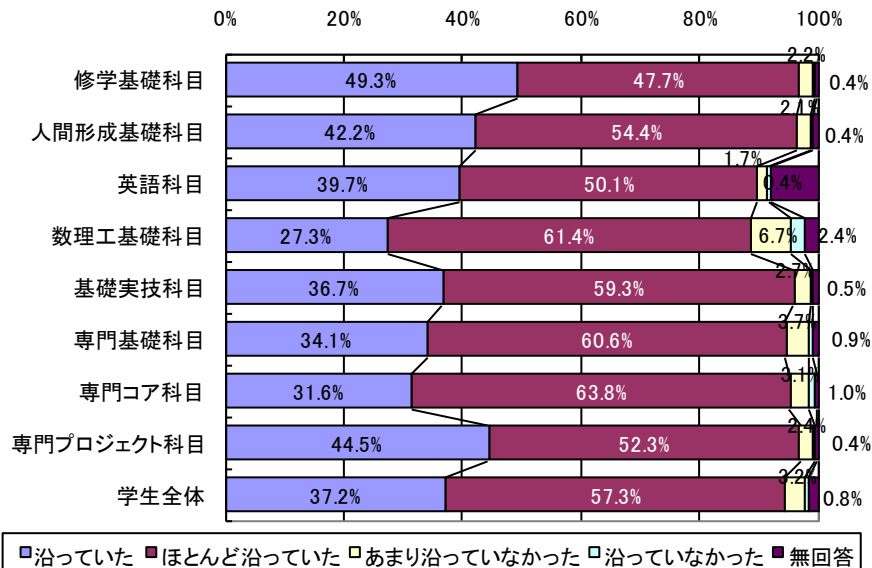


- 「G:学習支援計画書との一致」では、「沿っていた」と「ほぼ沿っていた」の合計ではいずれの科目区分でも9割前後が肯定的な意見であったが、「沿っていた」だけを見ると「修学基礎科目」「専門プロジェクト科目」の評価が高めであり、「数理工基礎科目」の低さが目立っていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「専門プロジェクト科目」「人間形成基礎科目」で肯定的な意見が多めであり、「数理工基礎科目」の評価が低めであった。特に「数理工基礎科目」では「進度は速かった」という意見が15.2%と最も多かった。
- 「I:学習相談の有効性」では、「専門プロジェクト科目」で「有効であった」という意見が非常に多く、「相談しなかった」は33.3%と、他の科目区分と比べると非常に少なかった。他の科目では「相談しなかった」が6割前後を占めており、あまり大きな特徴は見られなかった。

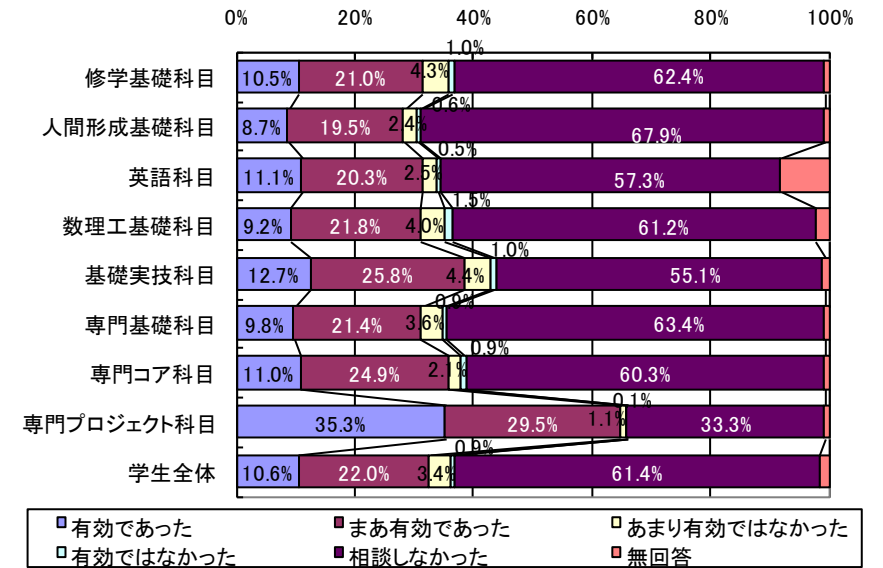
■H: 授業の進度の適切さ



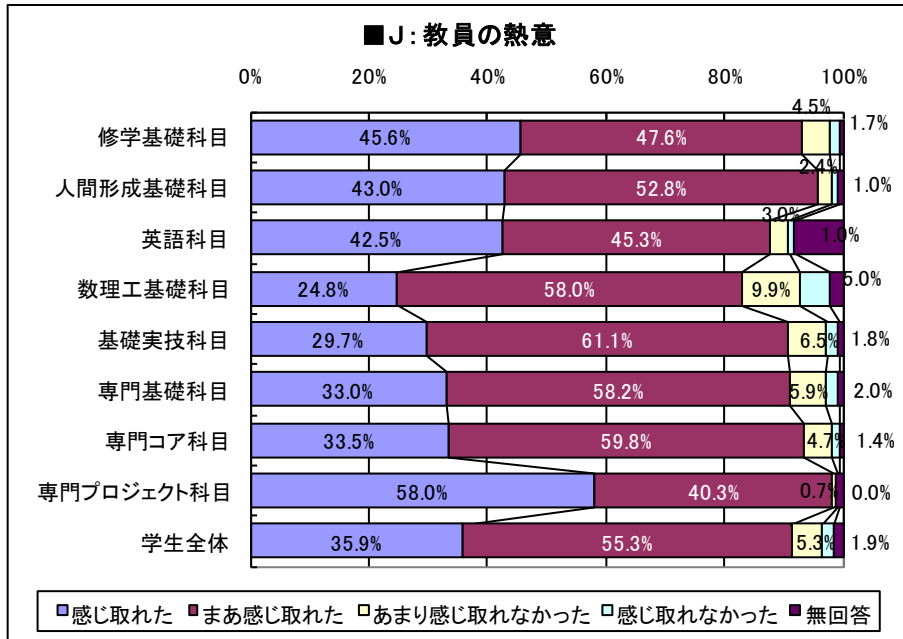
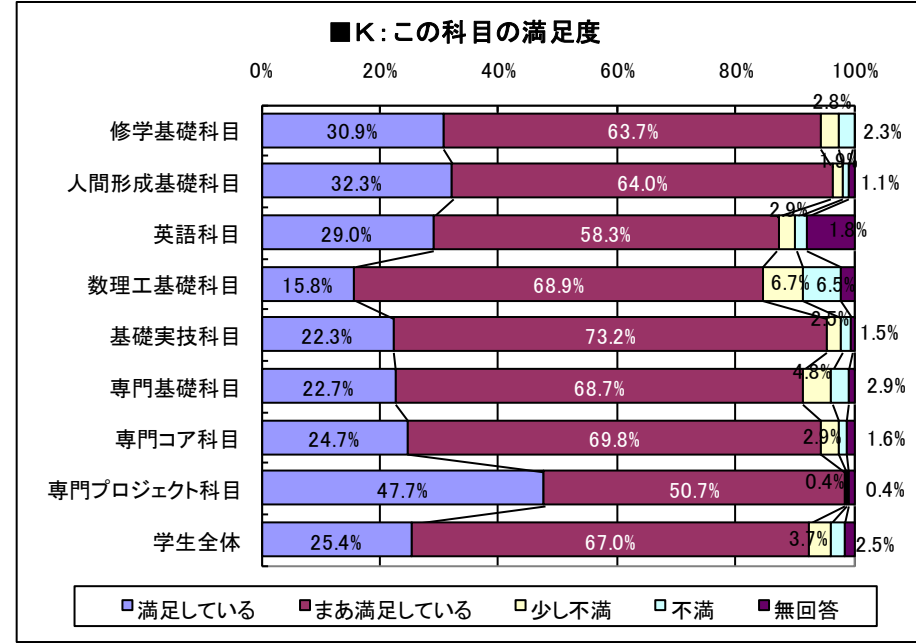
■G: 学習支援計画書との一致



■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



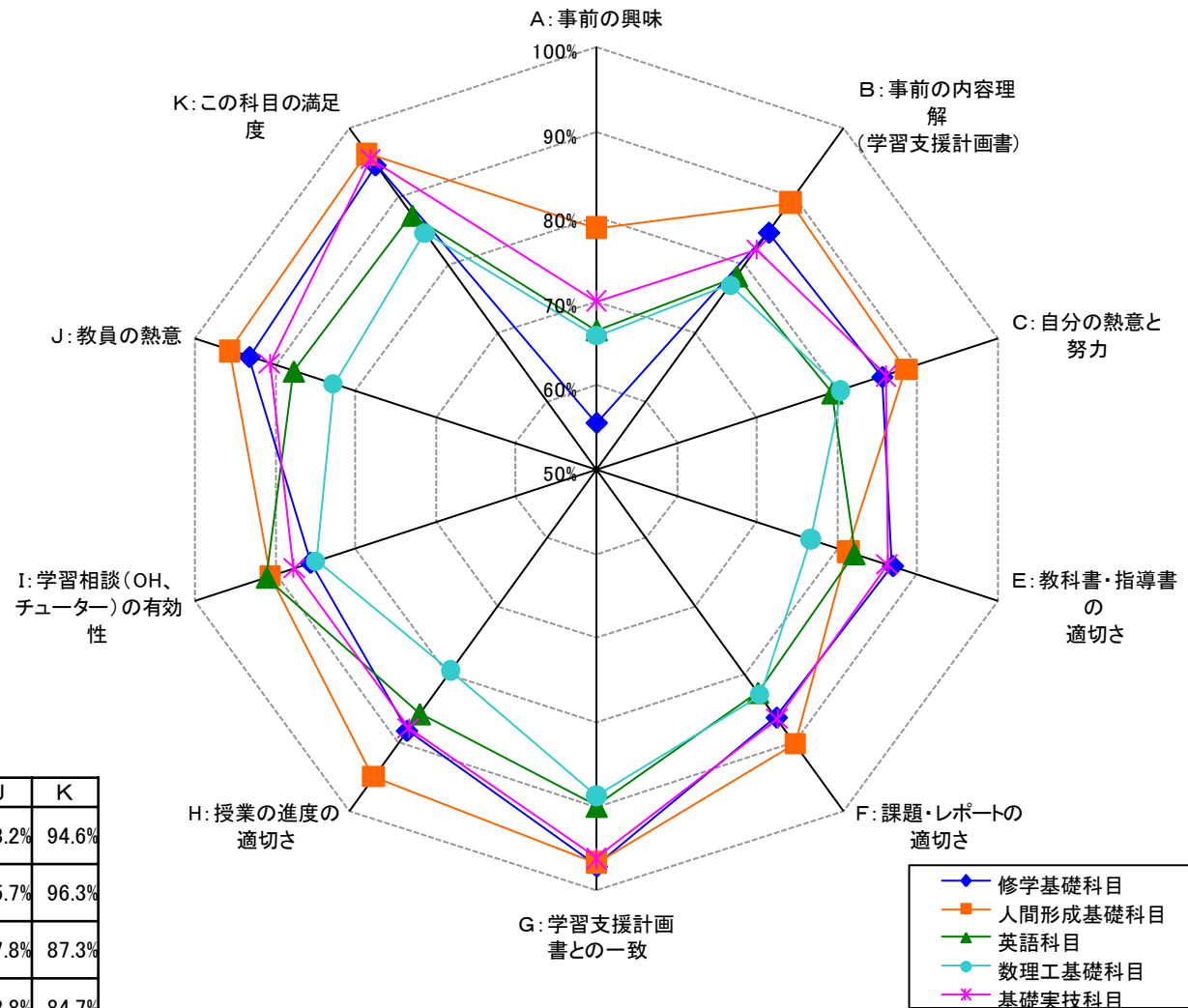
- 「J:教員の熱意」で「感じ取れた」と「まあ感じ取れた」を合わせたものを比較すると、「専門プロジェクト科目」で肯定的な意見が多い点が特徴的であり、「感じ取れた」だけを見ても58.0%と突出していた。そして、「数理工基礎科目」は最も肯定的な意見が少な目であったが、それでも82.8%は教員の熱意を感じていると答えていた。
- 「K:この科目の満足度」も「専門プロジェクト科目」で肯定的な意見が多く、「満足している」は47.7%であった。一方、「数理工基礎科目」は肯定的な意見がやや少なかったものの、いずれの科目区分でも8割以上が満足しているという回答であった。



<5-2> 肯定的な意見の科目区分別比較

- すべての科目区分を比べると数が多いため、一般系の5科目と専門系の3科目に分けて学科同士の比較を行った。
- 一般系の5科目は下記の通りであるが、全体的に「人間形成基礎科目」に肯定的な意見が多かった。「人間形成基礎科目」は特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」の高さが目立っており、受講前の期待の高さがうかがえる。
- 一方、全体的に評価が低かったのは「数理工基礎科目」と「英語科目」であった。
- 「数理工基礎科目」は「H:授業の進度の適切さ」の低さが目立っており、「英語科目」は「I:学習相談の有効性」を除くと全体的に低めであった。また、「修学基礎科目」は「A:事前の興味」の低さが目立っていた。

■科目区分別比較レーダーチャート①(一般系科目)

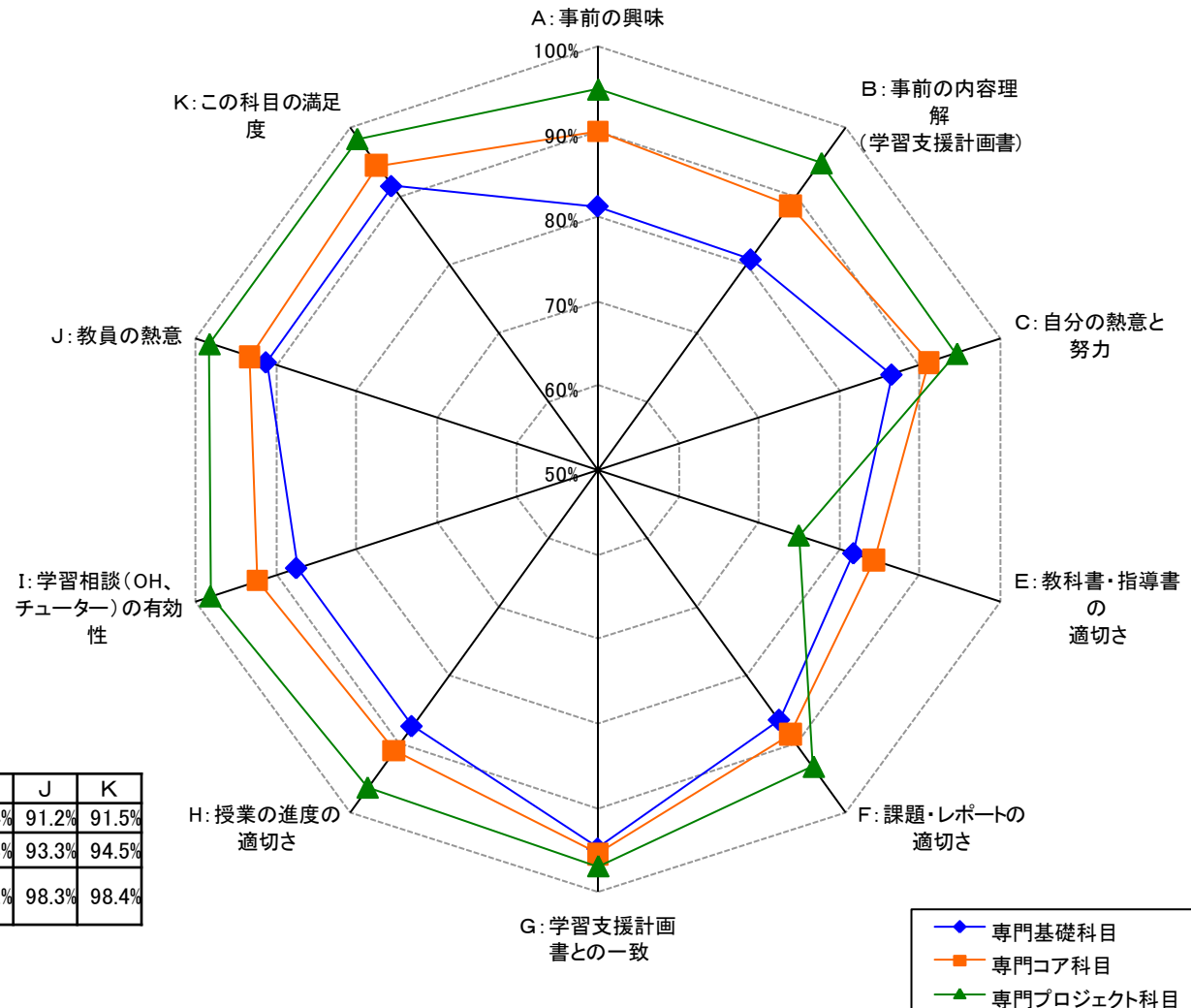


■一般系科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	55.6%	84.7%	85.6%	86.9%	86.3%	97.0%	88.2%	85.6%	93.2%	94.6%
人間形成基礎科目	78.7%	89.1%	88.6%	81.3%	90.1%	96.6%	95.0%	90.7%	95.7%	96.3%
英語科目	66.6%	78.4%	79.4%	82.2%	82.6%	89.9%	85.7%	91.2%	87.8%	87.3%
数理工基礎科目	65.8%	77.0%	80.5%	76.7%	83.0%	88.7%	79.4%	85.0%	82.8%	84.7%
基礎実技科目	70.0%	82.3%	86.1%	86.2%	86.5%	96.1%	87.9%	87.7%	90.8%	95.5%

- 「専門系」は3つの科目で比較しているが、科目区分による特徴がハッキリとしていた。
- 「専門プロジェクト科目」はほとんどの項目で肯定的な意見が最も多かった。「E:教科書・指導書の適切さ」だけは評価が低かったが、これは「教科書・指導書はなかった」という意見が21.3%と多かったためであり、それを除外すると非常に充実した授業になっていると言える。
- 「専門基礎科目」はほとんどの科目で最も低い評価となっていた。特に「A:事前の興味」「B:事前の内容理解」といった、授業の前段階の評価が低い点が特徴的であった。
- 「専門コア科目」は全体的に中庸な評価であり、これといった特徴は見られなかったが、「E:教科書・指導書の適切さ」の評価は最も高かった。

■科目区分別比較レーダーチャート②(専門系科目)



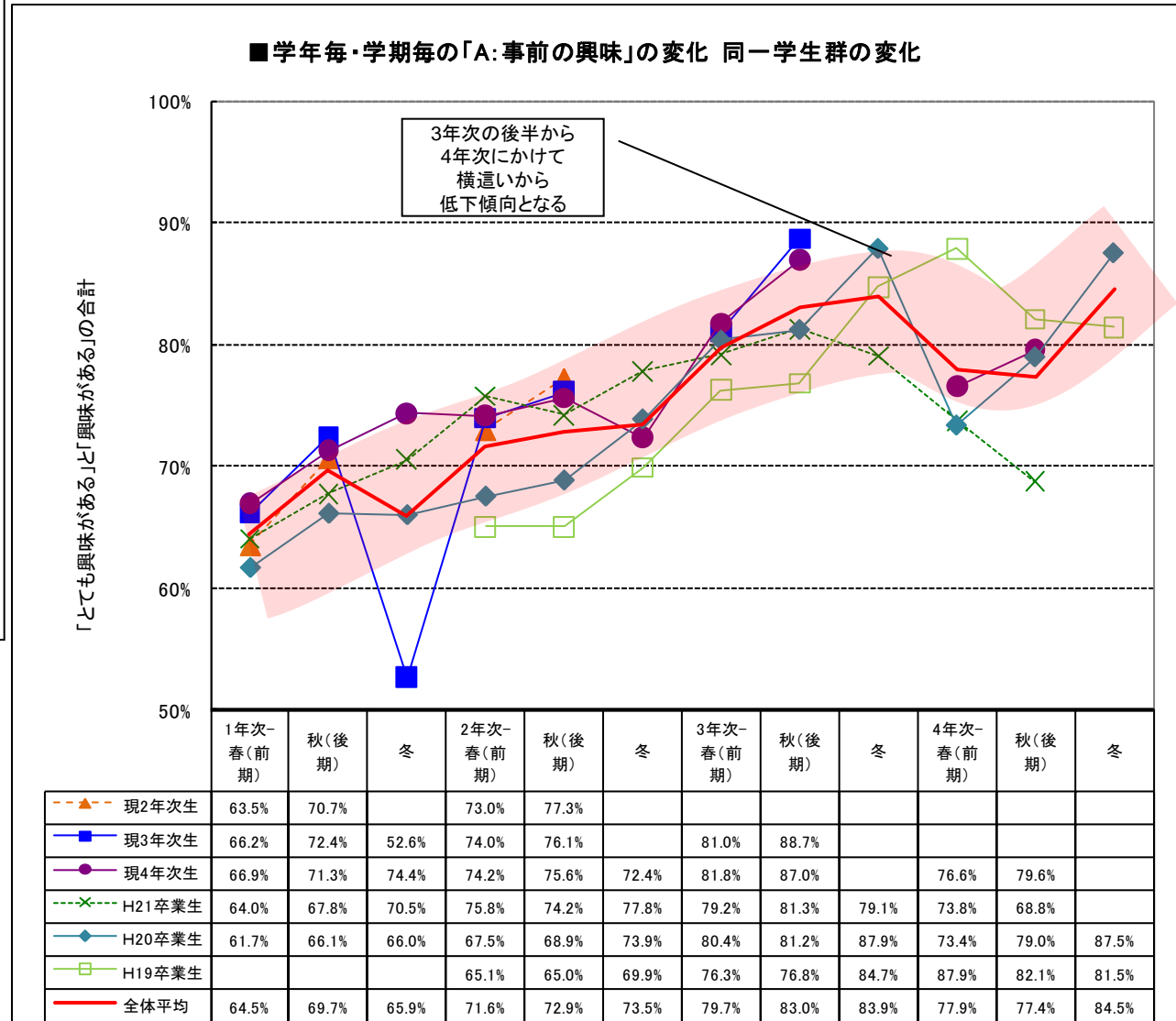
■専門系科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
専門基礎科目	81.2%	80.7%	86.5%	81.8%	86.4%	94.7%	87.4%	87.4%	91.2%	91.5%
専門コア科目	90.1%	88.7%	91.2%	84.3%	88.7%	95.4%	91.0%	92.3%	93.3%	94.5%
専門プロジェクト科目	95.0%	94.9%	94.6%	74.9%	93.3%	96.8%	96.4%	98.2%	98.3%	98.4%

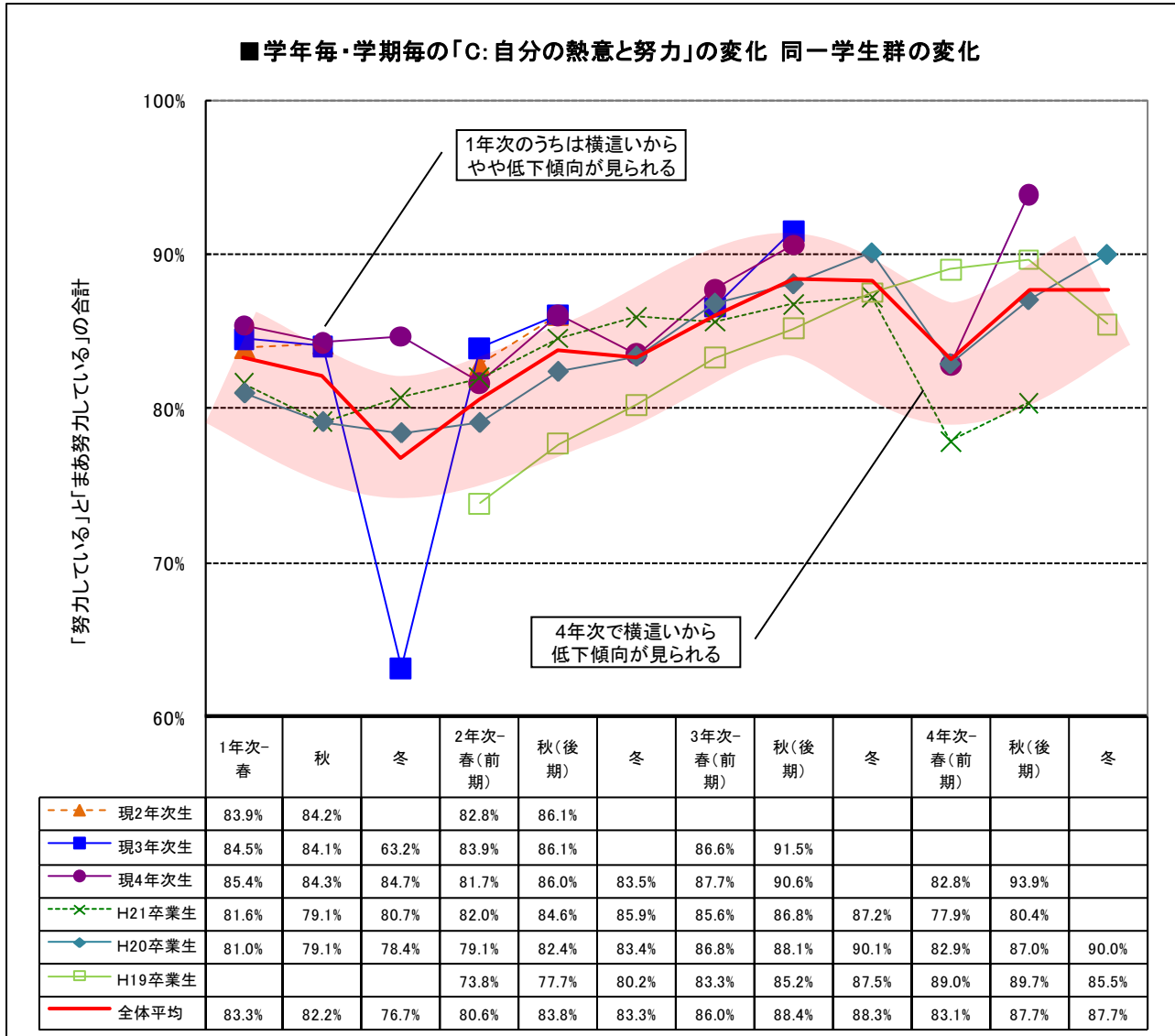
<6> 同一学生群の分析

<6-1>同一学生群の変化に関する分析

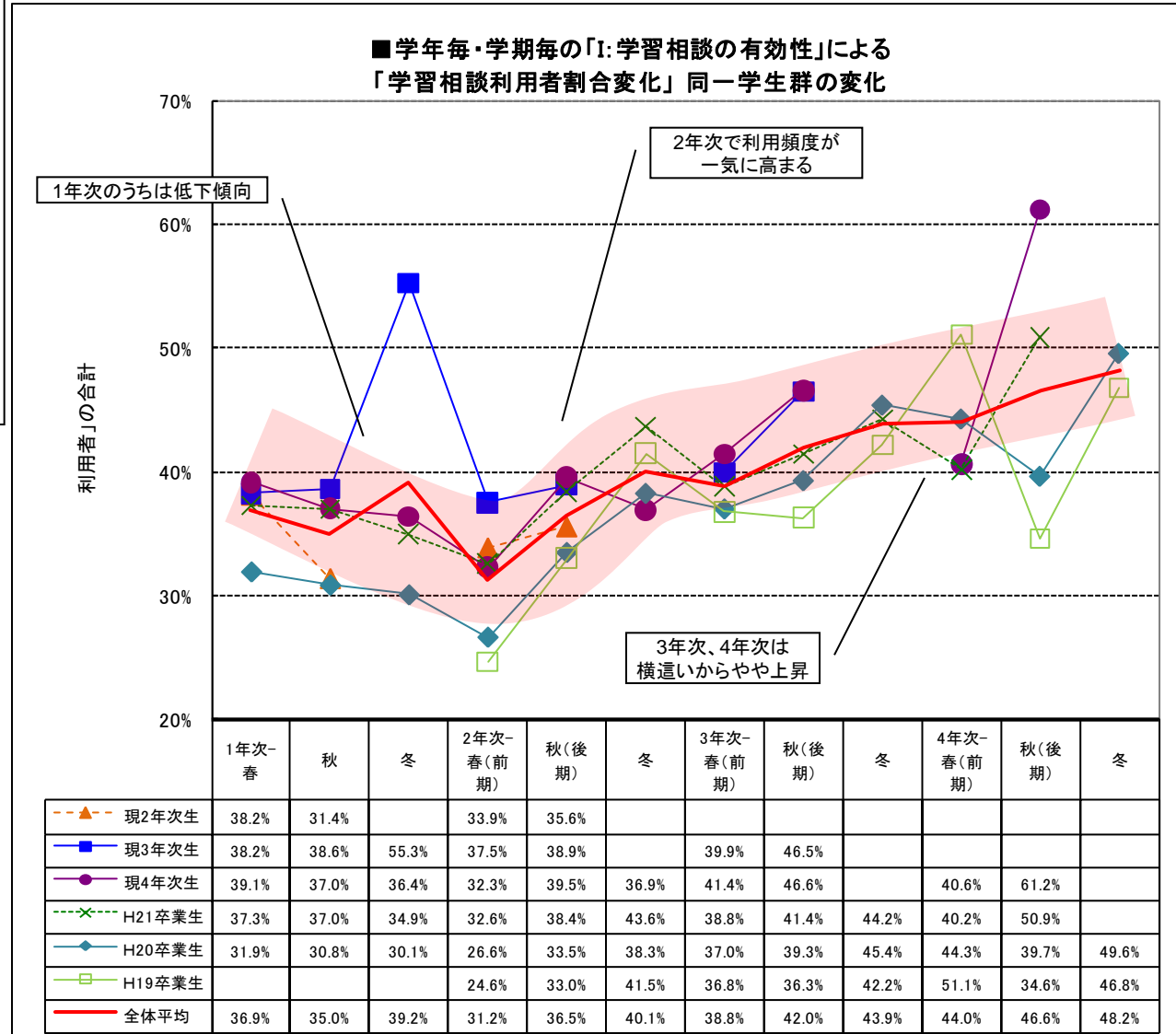
- ここまでに学年毎、学部毎などの差や特徴などを見てきたが、ここでは同一学生群ではどのような変化をしているのか、主な指標に関して確認した。
- 3学期制と2学期制の学生が混在しているが、2学期制の「後期」は3学期制の「秋学期」と一緒にプロットしている。
- 「A:事前の興味」に関しては、例外があるものの、ほとんどの学生群で「1年次」から「3年次」にかけて興味が強くなっており、「4年次」の段階で低下したり横這いになる傾向が見られた。
- 「現3年次生」は「1年次」の「冬学期」で興味が一気に下がってやや心配があったが、その後は興味が増しており、今回の調査ではこれまでの他の学生群よりも強い興味を持つに至っていた。
- 「4年次」の段階での興味の低下が課題のように見ることができているが、授業アンケートに回答している「4年次生」の回答数は全回答の1%以下であるため、それほど緊急性の高い課題と考える必要はないと思われる。



- 次に代表的な指標である「C:自分の熱意と努力」を見ると、入学後から「2年次」にかけて「熱意と努力」がゆるやかに低下し、「2年次」から「3年次」にかけてはゆるやかに上昇する傾向が見られた。
- 前項でも見たように「4年次生」は対象者が少ないため、それほど重視する必要はないものと思われるが、全体平均を見ると「4年次」には「熱意と努力」が大きく低下する傾向が見られた。
- 学生群の特徴を見ると、「現3年次生」は前項の「興味」と同様に「1年次」の「冬学期」に大きく低下していたが、その後は強い熱意と努力が感じられ、「現4年次生」はいずれの学年でも熱意と努力が高めに推移していた。

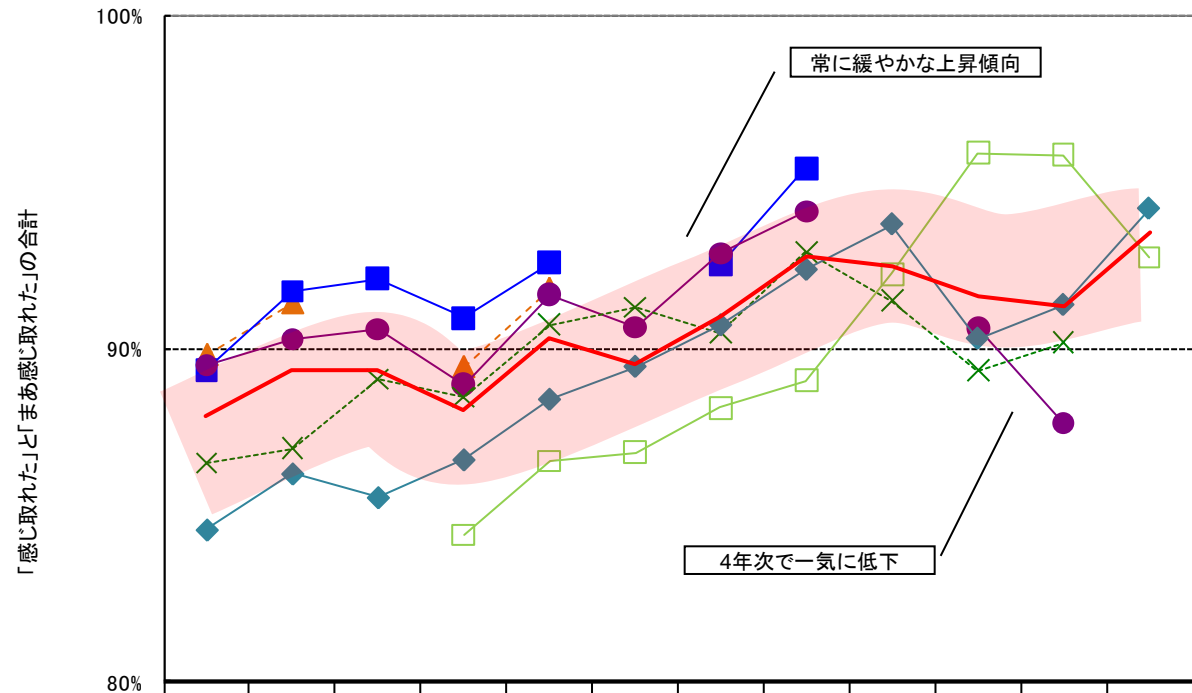


- 「I:学習相談の有効性」に関しては、内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を確認した。
- 利用者の割合は入学後から「2年次」の「前期」にかけて一気に減少し、「2年次生」の「後期」から「4年次」にかけて上昇するという変化であった。
- これらの変化を見ると、低学年は「学習相談」をしっかり活用できていないのではないかとと思われる。
- 学生群の特徴を見ると、「現3年次生」は「1年次」の「冬学期」で「学習相談」の利用率が非常に高くなっていたが、その後は平均的な推移となっていた。また、「現4年次生」では「4年次」の「秋学期」に利用率が非常に高くなっていた。



- 「J:教員の熱意」は「1年次」の後半から「2年次」の前半でやや低下するものの、全体的に緩やかに肯定的な意見が増加しており、学年が上がるほど教員の熱意を感じるようになってきているようであった。
- 学生群の特徴を見ると、「現3年次生」は常に肯定的な意見が多く、教員の熱意を強く感じているようであった。
- 「現4年次生」もやや高めであったが、「4年次」で一気に低下しており、これまでにない変化となっていた。
- 全体を見ると、教員の熱意はしっかり伝わっているものと思われる。低学年でも、9割程度の学生が教員の熱意を感じており、大きな課題はないと言える。ただし、「現4年次生」の「4年次」での低下は気になる点であった。

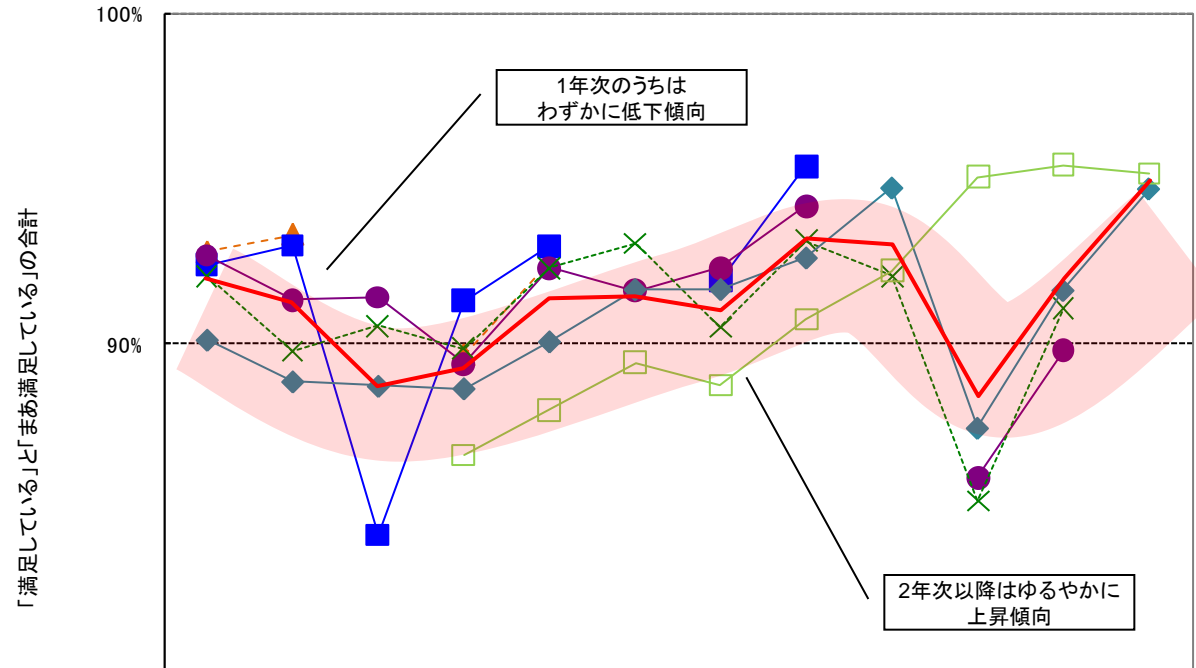
■ 学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



	1年次-春	秋	冬	2年次-春(前期)	秋(後期)	冬	3年次-春(前期)	秋(後期)	冬	4年次-春(前期)	秋(後期)	冬
---▲--- 現2年次生	89.8%	91.4%		89.5%	91.8%							
---■--- 現3年次生	89.4%	91.7%	92.1%	90.9%	92.6%		92.5%	95.4%				
---●--- 現4年次生	89.5%	90.3%	90.6%	88.9%	91.6%	90.6%	92.9%	94.1%		90.6%	87.8%	
---×--- H21卒業者	86.6%	87.0%	89.1%	88.5%	90.7%	91.2%	90.5%	92.9%	91.4%	89.3%	90.2%	
---◆--- H20卒業者	84.6%	86.2%	85.5%	86.7%	88.5%	89.5%	90.7%	92.4%	93.7%	90.3%	91.3%	94.2%
---□--- H19卒業者				84.4%	86.6%	86.9%	88.2%	89.0%	92.2%	95.9%	95.8%	92.7%
--- 全体平均	88.0%	89.3%	89.3%	88.1%	90.3%	89.6%	91.0%	92.8%	92.5%	91.5%	91.3%	93.5%

- 「K:この科目の満足度」も入学後から「2年次」に至るまではやや低下するものの、その後はゆるやかに上昇傾向となり、「4年次」で急に下がる傾向が見られた。
- 回答者の少ない「4年次生」を除くと、満足度は安定しており、どの学年でも9割以上が満足と答えていた。
- 学生群による特徴を見ると、「現3年次生」は他の項目と同様に「1年次」の「冬学期」で大きく低下しているものの、その後は他の学年よりも満足度が高くなっており、今回は95.4%が満足と答えていた。
- 「現4年次生」は常に満足度が高かったが、「4年次」になって満足度が非常に下がるとい特徴が見られた。

■ 学年毎・学期毎の「K:満足度」の変化 同一学生群の変化

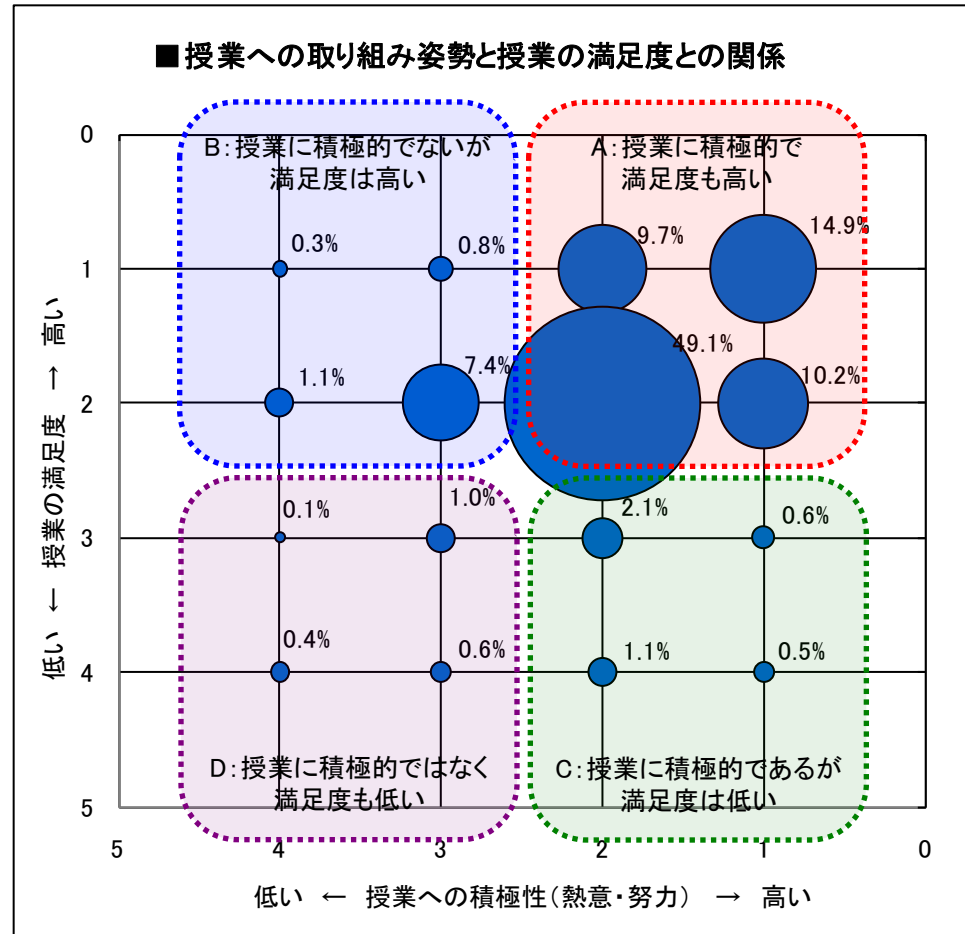


	1年次-春	秋	冬	2年次-春(前期)	秋(後期)	冬	3年次-春(前期)	秋(後期)	冬	4年次-春(前期)	秋(後期)	冬
---▲--- 現2年次生	92.8%	93.3%		89.7%	92.5%							
---■--- 現3年次生	92.4%	93.0%	84.2%	91.3%	93.0%		91.9%	95.4%				
---●--- 現4年次生	92.7%	91.3%	91.4%	89.4%	92.3%	91.6%	92.3%	94.2%		85.9%	89.8%	
---×--- H21卒業者	92.0%	89.8%	90.5%	89.9%	92.3%	93.0%	90.5%	93.1%	92.0%	85.2%	91.1%	
---◆--- H20卒業者	90.1%	88.9%	88.7%	88.6%	90.1%	91.7%	91.7%	92.6%	94.7%	87.5%	91.6%	94.7%
---□--- H19卒業者				86.6%	88.0%	89.4%	88.7%	90.7%	92.2%	95.1%	95.4%	95.2%
--- 全体平均	92.0%	91.3%	88.7%	89.2%	91.4%	91.4%	91.0%	93.2%	93.0%	88.4%	92.0%	94.9%

<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

<7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

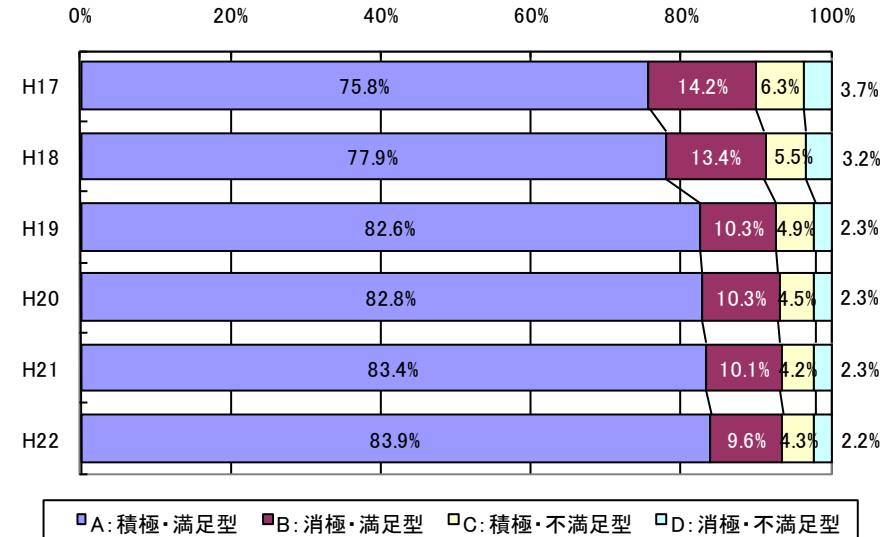
- 「C:自分の熱意と努力」と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、学生を4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」という良い状態の学生は全体の83.9%であった。その中でも「満足度」も「積極性」もいずれも最も高い学生は14.9%であり、いずれも「まあまあ」という学生は49.1%で、全体で最も多かった。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」という学生は9.6%であった。これらの層は積極性を持っていないが授業には満足している学生と言える。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」という学生は4.3%であった。これらの学生は積極的に取り組んだものの満足感を得られていない層であり、「期待はずれ」「物足りない」「授業についていけない」といった原因が考えられる。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」という学生は全体の2.2%と非常に少なかったが、最も大きな課題を抱えている学生群であると言える。



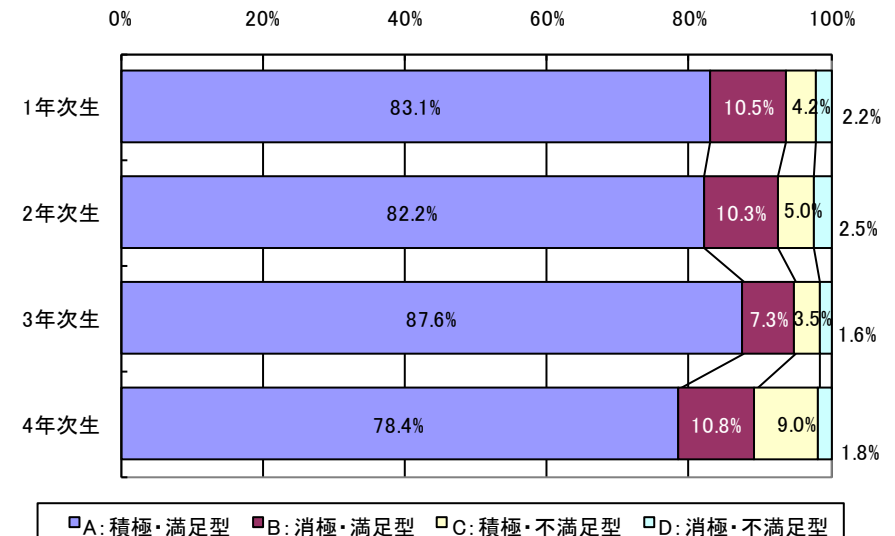
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	83.9%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	9.6%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っぱられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	4.3%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	2.2%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 積極性と満足度で分けた4つのグループの割合の経年変化を見ると、今回の「A:積極・満足型」は83.9%であり、前回より0.5ポイントの増加であった。増加傾向はH17から継続的に続いており、わずかずつではあるが良い状態の学生が増えていると言える。
- 「C:積極・不満足型」と「D:消極・不満足型」は以前と比較してほとんど変化はなく、「B:消極・満足型」は0.5ポイントの減少であった。
- 学年別に割合を比較すると、「1年次生」と「2年次生」は「A:積極・満足型」はほぼ8割で、同じような傾向であった。そして、「3年次生」は「A:積極・満足型」が87.6%と多く、良い状態の学生が多いようであった。
- 「4年次生」は「A:積極・満足型」が78.4%とやや少なく、「C:積極・不満足型」が9.0%と多めであった。

■ 積極性と満足度の経年変化

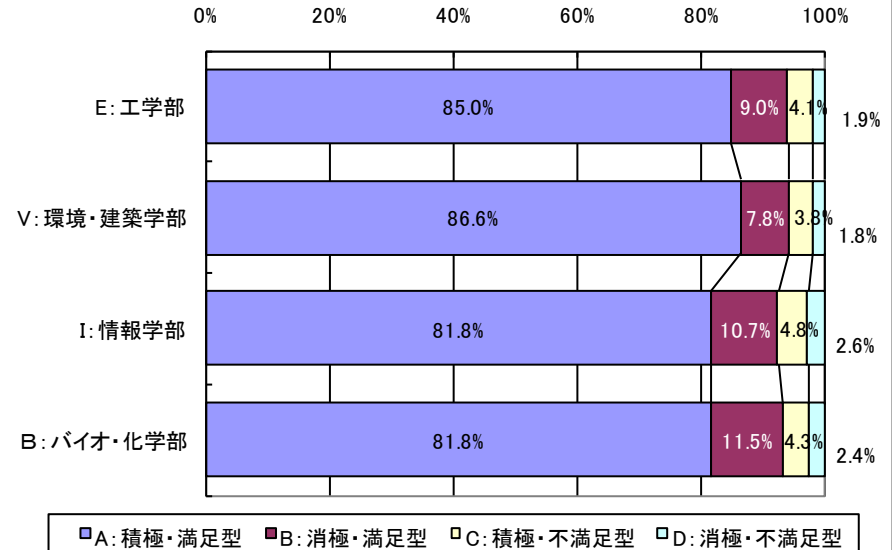


■ 積極性と満足度の学年別比較

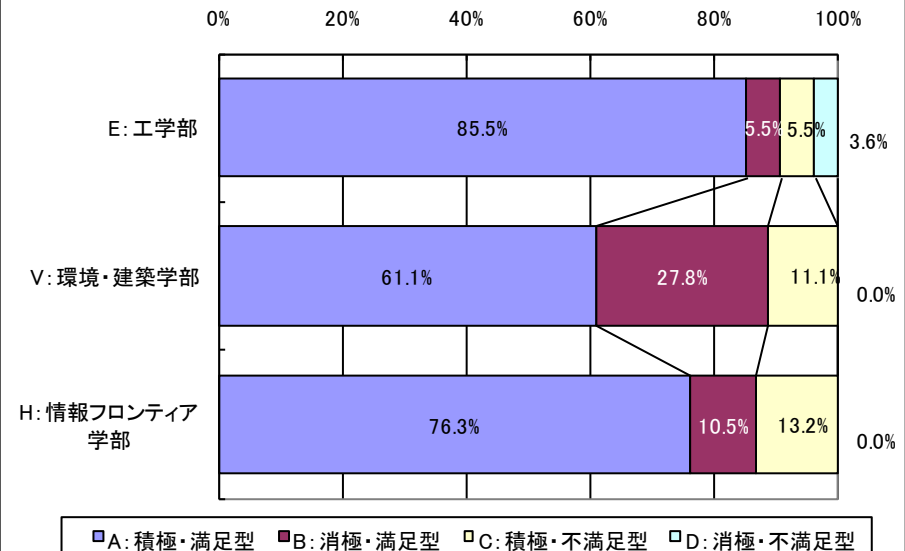


- 新学部体制(1~3年次生)の4学部で比較したところ、差はそれほど大きくなかったが、「A:積極・満足型」は「V:環境・建築学部」で86.6%、「E:工学部」で85.0%で、この2学部は同じような傾向であり、良い状態にあると思われる。そして、「I:情報学部」と「B:バイオ・化学部」も同じような傾向であった。
- 旧学部体制(4年次生)ではサンプル数が少なかったことも影響してくると思われるが、学部間の差が大きかった。
- 「E:工学部」は「A:積極・満足型」が85.5%と最も多く、「V:環境・建築学部」の61.1%と比べると24.4ポイントの大きな差が見られた。「V:環境・建築学部」では特に「B:消極・満足型」が27.8%と多い点の特徴であり、「H:情報フロンティア学部」では「C:積極・不満足型」がやや多かった。

■新学部 積極性と満足度の学部別比較



■旧学部 積極性と満足度の学部別比較



<8> 全体のまとめ

<8-1>全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

91.8%が授業に満足しており、満足度は高いと言える。
そして、85.4%が熱意を持って取り組んでいた。
「事前の興味」はやや低い、大きな問題はないと思われる。

- ◆ 全体の91.8%が授業に満足したと答えており、満足度は高いと言える。そして、85.4%は熱意を持って努力したと答えていた。
- ◆ 授業を受ける前の状況としては、事前に興味を持っていた学生は74.5%、事前に内容を理解していた学生は82.3%であり、事前の興味がやや弱いと言える。
- ◆ 授業を通して教員の熱意を感じていた学生は90.8%と多く、教員が熱意を持って学生に接している様子がうかがえた。
- ◆ 「学習支援計画書」「教科書」「課題・レポート」などには8～9割が満足していたが、「学習相談」の利用者は37.1%にとどまった。

【経年変化で確認できた事】

「授業の満足度」「自分の熱意」をはじめとして、ほとんどの項目で前年よりも肯定的な意見が減少していた。
ただし、「事前の興味」だけは前年を上回っていた。

- ◆ 全体的に前年より肯定的な意見が減少していた。
- ◆ 「授業の満足度」は1.0ポイント、「自分の熱意」は0.3ポイントと、本当にわずかではあるが前年よりも低かった。
- ◆ 他の設問でもほとんどが以前と比較して低下していた。
- ◆ 唯一、「A:事前の興味」だけは、前年より0.3ポイント上昇していた。その前のH20からH21に低下していたが、今回はこの項目だけが上昇する結果となっていた。

【学年別比較で確認できた事】

「満足度」「教員の熱意」などをはじめとして、全体的に「3年次生」で肯定的な意見が多かった。「1年次生」の「事前の興味の低さ」や低学年の「学習相談」の利用の少なさが課題になるとと思われる。

- ◆ 例外もあるが、全体的に「3年次生」で肯定的な意見が多く見られた。
- ◆ 「満足度」はあまり大きな差ではないが「3年次生」が高く、「4年次生」の低さが目立っていた。また、「熱意」に関しては「3年生」がやや高く、「2年次生」が低めであった。
- ◆ 「事前の興味」「事前の内容理解」は「3年次生」の高さが目立っており、「興味」に関しては「1年次生」の低さが課題になるとと思われる。
- ◆ 「学習相談」は高学年ほど活用する傾向が見られ、低学年に対する利用促進も今後の課題になるとと思われる。

【同一学生群で確認できた事】

同一学生群の変化を見ると、「満足度」は入学直後にわずかに低下して「2年次生」から上昇するが、「事前の興味」は入学後から継続的に上昇しており、興味が低下することはなかった。

- ◆ 同一学生群では基本的には「1年次」から「2年次」にかけて肯定的意見がやや減少し、その後は「3年次」まで増加する傾向が見られた。
- ◆ 「事前の興味」は「1年次」から「3年次」にかけて継続的に強くなっており、特に「現3年次生」「現4年次生」は強い興味を持っていた。
- ◆ 「満足度」はどの学年群でも高いが、入学直後はやや低下して、「2年次」から「3年次」にかけて横這いからやや上昇する傾向が見られた。そして、「4年次」では再履修のため満足度の低下が見られた。
- ◆ 「教員の熱意」も「2年次」の段階でやや低下するが、それ以外では高学年ほど熱意を感じるようになっていた。

【新学部別比較で確認できた事】

新構成の学部では「環境・建築学部」は良い状態にあり、
「情報学部」は全体的に評価が低かった。
この差には「事前の興味」が関係しているのではないと思われる。

- ◆ 「1年次生」から「3年次生」の新構成(4学部)では、それほど差は大きくなかったが、ほとんどの項目で「環境・建築学部」で肯定的な意見が多めであり、充実している様子がうかがえた。
- ◆ 「環境・建築学部」は特に「事前の興味」の強さが目立っており、興味を持って授業に望んでいるようであった。
- ◆ 一方、「情報学部」は全体的に肯定的な意見が少な目であった。特に「事前の興味」が低く、「授業の進度が速い」と感じている傾向がうかがえた。

【旧学部別比較で確認できた事】

「環境・建築学科」はサンプル数が少ないためか特徴的であり、
「事前の興味」「自分の熱意」などで肯定的な意見が少ない。
「工学部」と「情報フロンティア学部」は似た傾向であった。

- ◆ 旧構成(3学部)は「4年次生」のみであり、サンプル数は113となるため、学部の特徴が極端に出るケースもあると思われる。特に「環境・建築学部」は18サンプルであり、注意が必要と言える。
- ◆ 「環境・建築学科」は「事前の興味」「自分の熱意」「課題・レポートの適切さ」「学習相談の利用」などで肯定的な意見が少なく、「事前の内容理解」で肯定的な意見が多いという特徴が見られた。
- ◆ 「工学部」「情報フロンティア学部」は同じような傾向であったが、「教科書・指導書の適切さ」「課題・レポートの適切さ」など、教材などに関しては「工学部」の評価が高かった。

【新学科別比較で確認できた事】

各学部の中の学科間の差はあまり大きくなく、同じ学部であれば
同じような傾向になることが分かったが、
「情報学部」では学科による差がやや大きめであった。

- ◆ 「工学部」では差はあまり大きくないが、「機械工学科」と「航空システム工学科」が全体的に高く、「ロボティクス学科」と「情報通信工学科」がやや低めであった。
- ◆ 「環境・建築学部」は学科による差が非常に少ないが、「建築学科」で肯定的な意見が少な目であった。
- ◆ 「情報学部」は他学部と比べて全体的に低かったが、「情報経営学科」がやや高めであり、「心理情報学科」が低めであった。
- ◆ 「バイオ・化学部」は2学科であるが、「応用化学科」が全体的に高く、「応用バイオ学科」が低かった。ただし、「満足度」の差はほとんどなかった。

【旧学科別比較で確認できた事】

サンプル数が少ないので比較は難しいが、
いずれの学部でも学科間の差は非常に大きく、
意見のまとまりが見られなかった。

- ◆ サンプル数が少ないので特徴が極端であるが、「工学部」では「機械」「航空システム」「情報通信」が高めで、「電気電子」が低めであった。
- ◆ 「環境・建築学部」では、「建築都市デザイン」はほとんどの項目で肯定的な意見が100%であり、「建築」は低めであった。
- ◆ 「情報フロンティア学部」では、「生命情報」で肯定的な意見が多く、「情報マネジメント」で少ないという傾向があり、「メディア情報」の「事前の興味」が高い点が特徴的であった。

【科目区分別比較で確認できた事】

「専門プロジェクト科目」はほとんどの項目で肯定的な意見が最も多い。「事前の興味」では専門系の科目区分が高めであり、いずれの科目区分でも8割以上が満足と答えていた。

- ◆ 科目区分別に比較すると、「専門プロジェクト科目」はほとんどの項目で肯定的な意見が最も多く、特に「満足度」「教員の熱意」「事前の興味」「事前の内容理解」「自分の熱意と努力」の高さが目立っていた。
- ◆ 「事前の興味」は「専門コア科目」「専門基礎科目」など、専門系の科目が高く、「人間形成基礎科目」も高めであった。
- ◆ 「満足度」は「数理工基礎科目」でやや低かったものの、いずれの科目区分でも8割以上が満足と答えていた。
- ◆ 「学習相談(OH、チューター)」の利用率は全体的には4割弱であったが、「専門プロジェクト科目」だけは7割に近かった。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「A:積極・満足型」は83.9%と多く、H17から継続的に増加していた。また、「A:積極・満足型」は「3年次生」で最も多く、新学部では「環境・建築学部」、旧学部では「工学部」でやや多めであった。

- ◆ 積極性と満足度の指標で見ると、最も良い状態である「A:積極・満足型」が83.9%で、H17から継続的に増加していた。
- ◆ 「A:積極・満足型」は「3年次生」で最も多く、他の学年には大きな差は見られなかった
- ◆ 新学部では学部による差がそれほど大きくなかったが、「A:積極・満足型」は「環境・建築学部」でやや多かった。
- ◆ 旧学部では「工学部」で「A:積極・満足型」が85.5%であったが、「環境・建築学部」では61.1%であり、大きな差が見られた。

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようなになる。

- 91.8%が授業に満足しており、満足度は高いと言える。そして、85.4%が熱意を持って取り組んでいた。「事前の興味」はやや低い、大きな問題はないと思われる。
- 「授業の満足度」「自分の熱意」をはじめとして、ほとんどの項目で前年よりも肯定的な意見が減少していた。ただし、「事前の興味」だけは前年を上回っていた。
- 「満足度」「教員の熱意」などをはじめとして、全体的に「3年次生」で肯定的な意見が多かった。「1年次生」の「事前の興味の低さ」や低学年の「学習相談」の利用の少なさが課題になると思われる。
- 同一学生群の変化を見ると、「満足度」は入学直後にわずかに低下して「2年次生」から上昇するが、「事前の興味」は入学後から継続的に上昇しており、興味が低下することはなかった。
- 新構成の学部では「環境・建築学部」は良い状態にあり、「情報学部」は全体的に評価が低かった。この差には「事前の興味」が関係しているのではないかとと思われる。
- 「環境・建築学科」はサンプル数が少ないため特徴的であり、「事前の興味」「自分の熱意」などで肯定的な意見が少ない。「工学部」と「情報フロンティア学部」は似た傾向であった。
- 「専門プロジェクト科目」はほとんどの項目で肯定的な意見が最も多い。「事前の興味」では専門系の科目区分が高めであり、いずれの科目区分でも8割以上が満足と答えていた。
- 「A:積極・満足型」は83.9%と多く、H17から継続的に増加していた。また、「A:積極・満足型」は「3年次生」で最も多く、新学部では「環境・建築学部」、旧学部では「工学部」でやや多めであった。



- ❖ 9割が授業に満足しており、その他の指標を見ても大きな問題はないと思われる。しかし、これまで全体的に評価が上がる傾向が続いていたが、今回はわずかながら低下している点に気をつける必要があると思われる。
- ❖ 同一学生群では「満足度」は入学直後にわずかに低下して「2年次生」から上昇するが、「事前の興味」は入学後から継続的に上昇しており、興味が低下することはなかった。ただし、現段階では「1年次生」の「事前の興味」が低いことから、早い段階で「事前の興味」を持たせることが今後のポイントになるのではないかとと思われる。
- ❖ 新構成の学部で「環境・建築学部」が良い状態にあり、「情報学部」で全体的に評価が低かったが、ここでも「事前の興味」の影響があるようであった。